

フルノ功效ハ無ラン本官ハ取引所ヲシテ商人ノ「クラブ」即チ舞踏會食ノ集會所ト一般ニ商品賣買ノ集會所ト爲シテ取引ノ便利ヲ達セシメンコトヲ望ムヨリシテ調査委員ノ意見ヲ是認スルナリ又其「賦金」ノ一事ハ發議者モ強テ原案ニ復スルコトヲ主張セサレモ本官ハ已ニ前項ニ「會員之ヲ負擔スヘシ」ト言ヘルニ重子テ賦金ヲ課シト云云スル如キ不明瞭ノ文句ヲ插ムハ徒ラニ疑惑ヲ生セシムルノミナレハ斷然ニ削除スルヲ善シトス發議者ハ只今第三讀會ニテ發言ニ制限アレハ複雑ヲ避ケテ簡單ニ原案ニ復センコトヲ發言セリト云フモ原案ニ復スレハ却テ紛錯ヲ招クヘシ因テ聊カ意見ヲ吐キ以テ問題說ニ不同意ヲ表スル理由ヲ陳ス

○六十八番<sup>三浦</sup>安

本官ノ原案ニ復セント欲スルハ取引所ノ無形人タ

ルト無形人タラサルトニ拘ラス唯タ創立費用ヲ支辨スル方途ヲ與ヘント要スルノミ原案ニハ其方途ヲ示セシヲ朱書修正ニ於テ之ヲ塞ケリ又其無形人ノ一事ハ内閣委員ノ答辯ニモ調査委員ノ見解ニモ共ニ今日マテハ無形人ト看做セシナリ一番ノ無形人タレハ重子テ壟斷ノ弊害ヲ生スト云ヘルハ別ニ是レ一論ナリトス此末文ヲ原案ニ復スレハ創立費用ノ支辨方法ヲ與フヘク而シテ之カ爲メニ株式組織ニ類似スル特權ヲ生スルコト無ラン故ニ原案ニ復スルモ其無形人タルト無形人タラサルトニハ關係セス現ニ前項ニ「負擔スヘシ」ト言ヘハ後項ニハ其支辨方法ヲ示スヲ以テ足ルナリ過刻支償ノ文字ヲ加フル修正說問題ト爲リシモ畢竟支辨方法ノ明瞭ナラサルヲ憂フルニ出タルノミ因テ遲延ナカラ内閣委員ニ質問セン此末



文ノ有無ニ因テ無形人ト爲リ又無形人ト爲ラサルヤ本案全体ノ組織ハ無形人ト看做セシヤ調査委員席ニ於テ其説明ヲ聞キタレトモ今改メテ此議場ニ在テ明白ノ答辯ヲ與ヘンコヲ望ム

○番一 番二 岩崎小 外 二郎

過日調査委員席ニ於テ説明シタル如ク本案ハ初ヨリ無形人ト看做セリ必シモ「負債」云云ノ文句ノ有無ニハ拘ラサルナリ成程是カ府廳ノ管理ニ屬シ府民ノ出金ヲ以テ建設スルナラハ府民公共ノ集會所ナル可ケレトモ既ニ會員ナル者ノ出金ヲ以テ取引所ト稱スル家屋ヲ建設スルナレハ會員ノ一團塊カ即チ無形人タルハ勿論ナラン故ニ本員ハ無形人ノ資格ヲ有スト答フルナリ然レモ六十八番モ云ヘル如ク日本國ニ於テハ今日以前斯ク斯ク箇様ナル者ヲ無形人ト認メ又數人相集リテ規約ヲ立テ以テ一個ノ財産ヲ所

有スルモ此ノ如キハ無形人ト看スト云フ等ハ法律上習慣上共ニ未タ之ヲ定ムル有ラス故ニ今日此取引所ハ無形人ト認ムルモ異日商法其他ノ法律ニ於テ無形人トハ箇様箇様ナル者ナリト規定スルニ當リ自然ニ此取引所ノ組織ニテハ無形人タラサルノ變動ヲ致スマモ知ル可ラサレトモ苟モ負債ヲ起スコヲ許セハ財産モ所有スルコヲ許シテ取引所ト號クル一個ノ無形體ヲ組織セシムルニ外ナラサルナリ

○六十五番 清岡 公張

本條ヲ原案ニ復スル問題說ノ理由ハ追追ニ聽聞シタレトモ本官ハ之ヲ賛成セス矢張り報告案ノ儘ニ据置ンコヲ欲ス發議者ハ支償ノ文字ヲ用ウル修正說成立セスシテ創立費用ヲ支償スル方途ヲ得ス爲メニ創立委員タル者ナカル可キカ故ニ原案ニ復シ



テ其方途ヲ示サント主張セルモ調査委員席ニ於テ修正ヲ加ヘシ見解ハ何モ斯ル細目ヲ法律ノ明文ニ掲クルコトヲ要セス行政上ノ處置即チ主務省ノ指圖ヲ以テ十分ニ之ヲ示スコトヲ得ヘシト云フニ在リシナリ今日ニ於テ考察スルモ究竟箇様ナル干涉ハ無用ナラン現ニ「前項ノ費用ヲ補充スル爲メ云云手数料ヲ領收ス」ト言ヘル以上ハ優ニ行政權内ニ於テ處置スルコトヲ得ルナリ然ルヲ前項ノ末文ヲ復シテ支辨ノ文字ヲ示シ剩サヘ後項ノ「賦金」云云マテモ蘇活セシメントスルハ何分ニモ同意スル能ハス又其無形人ノ一事モ本官等ノ甚タ懸念セシ所ナリ既ニ外國條約ノ改正モ追追ニ運ヒ行キ大審院控訴院ナトノ裁判官ニモ外國人ヲ用ウル等ノ事ト爲レハ此取引所ノ如キハ之ヲ無形人ト看做サルヤ必セリ然ラハ今日之ヲ無形人

ナリト主張スルモ後日裁判所ニ於テハ無形人ト認メサルコトモ有ルヘシ發議者ハ一時ノ起債ハ特別ニ之ヲ許ス者ナレハ其無形人ニ非サルコトハ言外ニ存スト云フモ此ノ如キ迂曲ナル解釋ヲ爲スコトヲ要セス兎ニ角ニ支償ノ方途ヲ示シタキ爲メニ原案ニ復セント論スルハ無用ノ贅言ノミ調査委員席ニ於テ十分ニ講究ヲ加ヘテ朱書ノ如ク修正シタルナレハ今更ラ其見解ヲ改ムヘキノ理由ヲ見ス因テ報告案ノ儘ニ經過スルヲ善シトス

○二十七番 伊丹重賢 本官モ現問題ニハ同意セス本官ノ先キニ支償ノ文字ヲ加フル修正說ニ同意セシ所以ハ補充ノ文字ノ未タ十分ニ盡サル所有ルカ爲メナリ然ルモ同意者少數ニシテ成立セス隨テ原案ニ復スル動議出タリ本官尙ホ熟考スルニ補充ノ文字ニテ十分ニ盡



セルコヲ信ス各官ノ説ヲ聞クニ負債ハ創立費用ニ供スル爲メニ之ヲ起シ而シテ補充ノ爲メニ領收スル手数料ハ維持費用ニ供スト云フニ似タレモ既ニ負債ヲ起ス以上ハ後ニ之ヲ辨償スルハ當然ノ事理ニシテ此補充ナル文字ハ創立費用モ維持費用ヲモ包括セル者ニシテ決シテ單ニ維持費用ノミニ係ルニ非ス即チ前項ノ費用ト云フヲ承ケテ補充スル云云トノ文字ヲ下セシナレハ「負債ヲ起ス」ノ辭句カ削リ去ラレタリトテ此カ爲メニ償却ノ方途ヲ失フトハ謂フ可ラス調査委員ノ報告案ノ如クシテ其辨償ノ出來サル心配ハ毫モ之レ無キナリ

○四十八番 細川潤次郎

吾輩ハ現問題ノ成立マシキトハ察スレモ一番議官及ヒ調査委員諸君ノ論説モ出タレハ已ムヲ得ス吾輩ノ漫然ニ現

問題ヲ賛成シタルニ非サルコトヲ一辯セントス本條ニ「會員之ヲ負擔スヘシ」ト言ヒ放セルノミニテハ全ク負擔ノ儘ニシテ一向ニ償却ノ方法モ見エサル故ニ餘程ノ好事家ニ非サレハ會員ト爲ルヲ欲セサルヘシ元來商品取引所ハ慈善上ノ建造物ト異ニシテ賣買取引ノ間ニ利益ヲ得ントスル商人ノ集會所ナレハ所謂ル算盤珠ニ掛ラヌコトニ取合フ者無キハ必然ナリ本案ハ現在ノ米商會所等ノ賭博場ニ類スル者ヲ一洗シテ清潔ナル「ブルス」ヲ組織セシメントスルニ在リテ是レ淡泊無味ノ構成ニ係リ大損モ無ク大得モ無シトセハ多額ノ資本ヲ抛チテ以テ創立委員ト爲ル如キ熱心家ヲ得ル能ハスシテ折角ノ法律モ贅物ニ歸センノミニ吾輩ノ喧シク論辯スルマテモ無ク本法ハ實際ニ行ハレ即チ取引所ノ創立ノ出來ル様ニ制設セサ



ル可ラス何何ノ商品ハ取引所ニ限り取引スル者ト爲セハ專賣壟斷ノ形跡ヲ爲スモ其手數料ハ相應ニ多額ニ上ホリ若干年限内ニハ創立費用ノ償却ヲ果スコトヲ得ン然ルヲ其手數料モ僅少ニ止メ且ツ「補充」ノ文字ヲ以テ「前項ノ費用」ナル一句ヲ承ルキハ創立費用ハ到底其償却ヲ得セシムルノ方途ヲ與ヘサル者ト爲ル又假令ヒ物好キナル商人アリテ一時取引所ヲ創立スルモ若シ其創立費用ヲ償還スルニ非サレハ永ク創立委員ノ私有物タル有様ヲ成シ手數料ヲ高低スルモ其隨意ト爲リ遂ニ純然タル無形人ヲ出生セン吾輩同論者ナル四十二番ノ如キモ深ク此等ノ結果ヲ慮ルヨリシテ支償ノ文字ヲ加フル動議ヲモ提出シタルナリ然ルニ其動議モ消滅セシ以上ハ何分本案ノ儘ニ經過セシメテハ不都合ナリ既ニ會員ノ組織ト爲セハ

無形人ヲ構成スルハ避ク可ラス一タヒ迷路ニ入レルカラハ其前途ハ何處マテモ一方ノ指鍼ニ從ハサルコトヲ得ス折角ト原案ニ支償ノ方法ヲ示セルナレハ之ヲ復スルハ適當ノ手段ト謂フヘシ然ルニ反對者ハ「負債ヲ起スコトヲ得」トノ一句ヲ認メテ直チニ無形人ヲ組織セシムト云フハ速了ノ見解ノミ元來此負債ハ「其創立」云云以下ノ長長シキ形容詞ノ肩書ヲ帶タル一種奇妙ナル負債ニシテ尋常ノ無形人ノ負債トハ甚タ異ナリ即チ何何ノ條件ニ關シテハ負債ヲ起スコトヲ得ルト云フニ在レハ此特例ヲ常例ノ如ク判斷スヘキニ非ス譬ヘハ後園ニ麥又ハ茄子カ多ク出來レハ之ヲ賣リ而シテ日用ノ米又ハ衣服ヲ買フ如キ實ニ賣買ヲ爲スナレト之ヲ以テ普通ノ商事ト同視ス可ラス此引例ト同シク取引所カ其創立ノ爲メニ只一回ノミ



負債ヲ起スル之ヲ以テ普通ノ無形人ノ負債ヲ起スト同視ス可ラス  
吾輩トテモ此取引所ヲ無形人ト看サルニ非ス故ニ例外ナル一時ノ  
負債ハ漸次ニ償却シ彼ノ丁年者ノ後見ヲ解脫スルト同様ニ一日モ  
早ク債責ヲ解脫シテ無形人タル地位ヲ離レ且ツ壟斷ノ弊ヲ防キテ  
純粹ナル商人集會所ニ生レ替ラシメンコヲ望ムカ故ニ負債支償ノ  
方途ヲ示サント欲スルナリ

○議長 最早討論モ盡タリト認ムレハ決ヲ取シ六十八番ノ原案ニ復  
スル動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者九人

○議長 少數ニテ消滅ス

○議長 他ニ發議ナケレハ第五條第六條ハ可決セリト認ム

書記官 森山 朗讀

第七條 農商務大臣ハ取引所ノ規約決議及處分ヲ禁止停止又ハ取  
消スコトヲ得 必要ト認ムレトキハ  
ヲ改正セシメ又ハ

第八條 農商務大臣ハ臨時至當ト認ムルニ於テハ取引所ニ對シテ  
委員ヲ命シ其一般ノ事務ヲ監察シ取引所ニ關スル法律命令ノ施  
行ヲ監視シ且其役員ノ集會ヲ整理スルノ權利義務ヲ有セシムル  
コトヲ得

第九條 取引所ニ於テハ毎日一定ノ時間ニ於テ商業上ノ集會ヲ開  
キ其時間外ハ賣買取引ヲ爲スコトヲ許サス

第十條 本條例施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十一條 取引所ノ賣買取引ニ關スル稅則ハ別ニ之ヲ定ム



○議長 朗讀ノ分ハ可決ト認ム

書記官 森山茂 朗讀

第二章 會員

第十條 取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ル者ハ其取引所  
商人ニシテ在ノ地ニ居住シ取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ一種若クハ  
 數種ノ商業ニ從事シ會員タルノ義務ヲ盡スコトヲ得ル者ニ限ル  
 會員ニ非サレハ取引所ニ集會シ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス  
 第十三條 會員タル者ハ身元保證金三百圓以上三千圓以下ヲ差出  
スコトヲ要ス

○議長 可決ト認ム

書記官 森山茂 朗讀

第十一條 左ニ掲クル者ハ會員タルコトヲ得ス

一 婦女及未丁年者

但婦女ノ代理人未丁年者ノ後見人ハ會員タルコトヲ得

二 公權剝奪若クハ停止中ノ者

三 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辯償ノ義務ヲ終ヘサル者

四 第十二條ニ依リ取引所ニ於テ除名セラレタル者

第十二條 取引所ノ會員ニシテ不當ノ舉動ヲ爲シ爲ニ取引所内ニ  
及於テ紛擾爭論ヲ醸スカ法律命令ニ反シタル不正ノ契約ヲ爲スカ  
 又ハ故意ニ其商業上ノ責任ヲ果サ、ルトキハ役員ノ決議ヲ以テ  
 百圓以内ノ過怠金ヲ課シ一時若クハ永久ニ取引所ヨリ之ヲ除名  
 スルコトヲ得



○議長 可決ト認ム

書記官 森山 朗讀

第三章 役員

第十三條 取引所ニ役員ヲ置クコト左ノ如シ

一 理事長

一 理事

一 常置委員

第十四條 取引所役員ハ一箇年ヲ以テ任期トシ會員中ヨリ多數投

票ヲ以テ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但理事長及理事ハ

會員ノ協議ニ由リ會員外ヨリ選舉スルコトヲ得

役員任期中ト雖モ其職務ヲ盡サルカ又ハ不正ノ所爲アルトキ

ハ會員ノ決議ヲ以テ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ退職セシムルコトヲ得

第十五條 理事長及理事ハ其在任中取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲ス

コトヲ許サス

第十六條 取引所ノ役員ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ農商務大臣ノ

認可ヲ經其業務ニ關シ規約及細則ヲ定ムルコトヲ得

○四十八番 細川潤 次郎 法文ハ齊整ヲ貴フヲ以テ瑣細ノ修正ナレモ第十

七條ノ「協議」ノ協ヲ決ノ字ニ改メン即チ第七條第十五條最モ近キ

ハ本條ノ朱書別項ニモ決議ト爲セリ是レ獨リ文字論ノミナラス隨

分ト意義ニモ關係スルナリ元來會社ナトノ如キ多數人ノ集合スル

場處ニハ大体ノ法律ノ外ニ於テ別ニ規約ナル者ヲ設ケテ千差萬別



ナル場合ノ處置ヲ指定セル有ルモ此ニ漏タル場合ノ處置ハ只其社員ノ決議ヲ以テスル一法アルノミ何分ニモ多數人ノ集合スル中ニ於テ團樂會ヤ談話會ヲ以テシテハ兎テモ事ヲ纏メ得ヘキニ非ス我カ元老院ノ議事ニ於テモ決議ヲ重ニスルハ此カ爲メナリ前後ノ文例ト云ヒ實際ノ便宜ト云ヒ決議ト爲スニ非スンハ必ス差問ヲ生セシ且假令ヒ協議ト言フモ其結局ハ決議ニ歸センノミ因テ各位ノ此動議ヲ賛成セラレンコヲ望ム

○四十二番 井田 議 四十八番ノ發議ヲ賛成ス取引所ノ會員ハ餘程ニ多數人ノ會集スルナレハ若シ協議ニ出シムルヤ當ニ事ノ纏リヲ妨クルノミナラス隨分ト其間ニ弊害ヲ生スヘク即チ吾儕ハ誰某ヲ理事長ト爲スハ不同意ナリ等ノ異論又ハ後言ヲ來シテ許多ノ紛紜ヲ起

ヘシ故ニ決議ニ改メテ此弊害ヲ絶ツヲ善シトス

○十二番 中村 弘毅 賛成

○五十六番 中村 正直 賛成

○五十四番 田中 芳男 賛成

○一番 箕作 麟祥 賛成

○議長 四十八番ノ修正說ハ定數ノ賛成者ヲ得タレハ問題ト爲ス

○六十八番 三浦 安 此文字ニ關シテハ調査委員モ全ク注意ヲ惹カサリシ如何ニモ役員ノ間ノコノミナラハ協議ニテ行届カンモ多數ノ會員ニ在テハ決議法ヲ以テスルニ非スンハ歸結ヲ得ル能ハサラントス因テ本官モ現問題ヲ賛成ス

○二番 尾崎 三良 「會員ノ協議」ナル文字ハ原案其何等ノ意義ヲ以テ此處



ニ掲ケタルヤヲ知ラサレモ本官輩ハ決議ノ文字ト意義ヲ異ニスル者ト認ム決議トハ例ヘハ多數決ナラハ一百人中ノ五十一人同意ナルヤ四十九人ハ不同意ナルモ可ト決ス之レト異ニシテ協議トハ總會員中ノ一人タモ異論ナキノ場合ヲ謂フナラン即チ會員外ノ人ヲ選舉スル場合ニ於テ縱使ヒ一人二人ハ内心不同意ナルモ表面タケハ同意ヲ表シ百人ナラ百人全ク異論ナシト云フ如ク其議ノ協フヲ協議ノ本面目ト爲ス故ニ現問題ノ消滅ニ歸センコトヲ望ム

○四十八番 細川潤次郎

果シテ二番ノ解釋スル如クナラハ本官ハ各位ニ對シ本官ノ誤會ヲ謝セサル可ラス然レモ理事長又ハ理事ヲ會員外ヨリ選舉スル場合ノ關係重大ナル爲メニ會員總体ノ一致ヲ要ストナラハ此他ニ適當ノ換用文字モ之レ無キニ非ス凡ソ決議ニハ種種

ノ方法ヲ存ス多數、四分之三、五分、全會一致等はレナリ又結社ニ關シテハ頭數、株數、金額等ヲ以テ投言數ヲ定ムルコト有リ本條ノ「協議」ノ意味ハ實ニ全會一致ヲ要スルヤ將タ洋語ノ「コンフホルミチ」ト言フ如キ四角張ヲヌコトヲ謂フヤ第三讀會ナカラ内閣委員ニ質問ス果シテ二番ノ云ヘル如クナラハ本官ノ修正說ハ取消ニ付スルコトヲ望ムナリ

○外一 番 岩崎小二郎

此文字ハ決シテ全會一致ナト、云フノ意味ヲ有セシムルニ非ス上文ニ役員ハ會員中ヨリ投票ヲ以テ選舉セシムルモ理事長理事ハ若シ會員中ニ於テ適當ト認ムル人ヲ得サレハ會員ノ申合セヲ以テ會員外ノ人ヲ選舉スルモ妨ケスト云フニ過キス故ニ決議ニ比スレハ稍ヤ輕キモ初ヨリ輕重スルニ意アリテ此文字ヲ下



セシニハ非サルナリ

○六十五番 清岡公張 本官ノ見ル所ヲ以テスレハ是レ廣ク會員外ヨリ選舉スルコトヲ許スニ非サルモ單ニ會員内ノミニ限レハ或ハ適當ノ人ヲ得サルコトモ有ルヘシ故ニ會員ノ申合相談ヲ以テ會員外ノ人ヲモ選舉スルコトヲ得セシムルナレハ他條ニ云ヘル決議トハ自ラ其場合ヲ異ニスト思ヘリ因テ修正ヲ加ヘサルヲ可トス

○六十八番 三浦安 本官ノ解釋スル所モ六十五番ト同一ナレト協議ト言ヘル區域定マラスニ番ノ云フ如ク百人中ニ一人ノ不同意者アリテモ選舉ヲ果スコトヲ得サラン故ニ實際ニ在テモ結局ハ決議ニ非サレハ事ヲ纏ムル能ハス是レ本官ノ現問題ヲ賛成スル所以ナリ

○議長 本問題ノ決ヲ取ン四十八番ノ修正ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ修正ニ決ス

○議長 朗讀ヲ經タル他條ハ總テ可決ト認ム

書記官 森山茂 朗讀

第四章 仲買人

第十七條 取引所ニ仲買人ヲ置ク仲買人ハ他人ノ委託ニ由リ賣買取引ヲ爲スヲ以テ業トシ自己ノ爲ニ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 仲買人ノ營業ハ一部ニ限り數部ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第十八條 仲買人タラント欲スルモノハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ受ケタルトキハ免許料金五十圓ヲ納ムヘシ



第十九條 仲買人タルヘキモノハ取引所會員ニシテ營業保證金一  
千圓以上二萬圓以下ヲ差出スコトヲ要ス

○五十四番 田中芳男 第二十條ノ「自己」ノ爲「ノ」下ニ「メ」ノ一假名字ヲ加ヘ  
ン誰人モ爲メトハ讀ミ得ヘキモ第五條ニハ故サヲ「ニ」ノ朱字ヲ  
加ヘタレハ前後一様ナラシムルヲ善シトス

○四十二番 井田讓 賛成ス第五條ハワザト「メ」ヲ加ヘリ思フニ此ニ遺  
脱セシナラン

○十八番 榎村正直 賛成

○五十六番 中村正直 賛成

○三十番 宮本小一 賛成

○三十五番 梶取素彦 賛成

○四十八番 細川潤次郎 賛成

○議長 五十四番ノ提出セル修正説ヲ問題ト爲ス

○二番 尾崎三良 「メ」ノ假字ノ有無ハ孰レニテモ可ナレト本官ハ問題ニ  
同意セス第五條ハ「メ」ヲ送ラサレハ讀難キモ此ニハ「ニ」ノ假字ヲ送  
リタレハ讀ミ難カラス強テ朱書ヲ加ヘテ内閣ニ返上スヘキ程ノ要  
用ヲ見サルナリ

○一番 箕作麟祥 第五條ノ加朱ハ暫ク置クモ調査委員ハ第十五條ニ於テ  
現ニ「ニ」ヲ送レルニ尙ホ「メ」ヲ加ヘタルニ非スヤ問題説ヲ善シトス  
○六十五番 清岡公張 第十五條ハ上文ノ「爲」ニ「シ」ト送リタレハ無用ニ似  
タルモ下文ノ「爲」ニ「メ」ヲ送リテ都合ヲ善クセシナリ誤リ加ヘタル  
ニ非ス本條ノ如キ之ヲ加フルハ全ク無用ニ屬ス



○四十八番細川潤次郎 六十五番ノ上ニ爲シト言ヘルヲ以テ下ヲ爲メニ作レリト云フハ如何ニモ解ス可ラサル理由ニシテ是等ハ質問ヲ要スルマテモ無ク斷然ニ斯ル理由ノ存スヘキニ非サレハ直チニ現問題ノ取決ヲ望ム

○議長 他ニ發議ナクハ決ヲ取シ五十四番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十五人

○議長 多數ナレハ修正ニ決ス

○議長 他條ハ可決ト認ム

書記官森山茂 朗讀

第二十條 取引所ノ仲買人ニシテ第十五條ニ掲ケル所爲アルトキハ役員ノ必要ノ資格ヲ失フトキ又ハ其業

決議ヲ以テ二百圓以内ノ過怠金ヲ科シ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトヲ得但營業ヲ禁止スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 仲買人ハ自ラ取引所ノ賣買取引ニ從事シ代理人又ハ手代ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十二條 仲買人口錢ノ額ハ各取引所役員會議ニ於テ議決シ農商務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ム

○議長 發議ナケレハ朗讀ノ各條ハ可決ト認ム

書記官森山茂 朗讀

第五章 賣買取引

第二十三條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現物直取引及定期約定取引ノ二様トス其方法ハ農商務省令及取引所ノ規約細則ヲ以テ之ヲ定ム



第二十四條<sup>八</sup> 取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ種類ニヨリ農商務大臣ハ取引所外ニ於テ取引所ノ賣買取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スヲ禁スルコトヲ得<sup>止</sup>

第二十五條<sup>九</sup> 取引所ニ於テ賣買<sup>取引</sup>シタル物件ノ相場ヲ以テ公定相場トス

○議長 可決ト認ム

書記官<sup>森山茂</sup> 朗讀

第六章 仲裁

第二十六條<sup>三</sup> 取引所ニ於テ爲シタル賣買取引ニ關シ<sup>三</sup> 爭論ヲ生スルトキハ役員ニ申告シテ仲裁和解ヲ受クヘシ<sup>但</sup> 仲裁ノ取調ヲ受クルトキハ<sup>三</sup> 代理人ヲ出スコトヲ得ス

第二十七條<sup>三</sup> 前條ノ場合ニ於テハ常置委員ノ多數說<sup>決</sup>ヲ以テ其爭論ヲ裁決調停スヘシ<sup>仲</sup>

第二十八條<sup>三</sup> 法律上ノ見解ニ關スルモノヲ除クノ外前條ノ裁決ニ對シテ裁判所ニ上訴スルコトヲ得ス

○議長 可決ト認ム

書記官<sup>森山茂</sup> 朗讀

第七章 罰則

第二十九條<sup>三</sup> 第五條第三項第九條第十五條及第十七條ヲ犯シタルトキ又ハ第二十三條ニ定ムル農商務省令及取引所ノ規約ニ違ヒ賣買取引ヲ爲シタルトキハ<sup>三</sup> 二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス<sup>及第二十五條</sup>

第三十條<sup>四</sup> 第二十四條ニ依リ農商務大臣ノ禁止シタル賣買取引ヲ



爲シタル者八十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第三十一條 第二十五條ニ違ヒ公定相場ヲ僞リタル者ハ二十圓以  
上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○議長 可決ト認ム

書記官 森山茂 朗讀

第八章 雜則

第三十二條 本條例施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三十三條 取引所ノ賣買ニ關スル稅則ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條 本條例ハ明治二十年 月 日ヨリ施行ス但米商會所

條例及株式取引所條例ハ米商會所及株式取引所ノ營業滿期ヲ待  
ツテ廢止スルモノトス

○六十五番 清岡公張

本官ハ昨日此附則ニ對シテ發議ヲ爲セシモ不幸ニ  
シテ議場ニ行ハレサリシ尙ホ退キテ熟考セシカ敢テ自己ノ意見ノ  
採用セラレサル爲メニ思想ヲ變スルニハ非サレト詰リ此附則ハ贅  
物タルヲ覺フ本來某年月日ヨリ施行スト掲クルハ前後ノ界域ヲ明  
瞭ナラシメ其以前ニ係ル者ハ此ノ如ク其以後ニ係ル者ハ此ノ如シ  
ト云フヲ示スニ在リ故ヲ以テ人民ノ權利義務ニ關係スルニ非サ  
レハ施行期限ヲ掲クルノ要用ヲ見ス又其前例ナシト信ス現ニ米商  
會所條例及ヒ株式取引所條例ニモ某月某日ヨリ施行ストハ言ハス  
本案ノ此ニ施行期限ヲ掲ケシハ果シテ何ノ理由ニ出ルヤヲ解セス  
畢竟本案ハ創立委員ノ出願ヲ待テ之ヲ許可シ初メテ實地ニ施行ス  
ルナレハ若シ出願者ナキトハ隨テ其施行モ何ノ日ニ在ルヤヲ知ル



可ラス願ミ思フニ二十年月日ヨリ施行スト掲ケシハ現行ノ米商會所株式取引所兩條例ト幾分ノ關係ヲ有ストノ懸念ニ出タランモ是レ無用ノ懸念ノミ何トナレハ新設ノ取引所ハ在來ノ米商會所株式取引所トハ全ク殊別ナル者ナレハナリ今夫レ若干ノ創立委員アリ出願ノ手續ヲ經テ取引所ノ設立ヲ出願スレハ農商務大臣其允許スヘキヲ認メテ之ヲ允許ス故ニ施行期限ヲ定メテ布告スル普通ノ法律ト其精神ヲ異ニスルヤ知ルヘク且又本案ハ現行兩條例ト何等ノ關係ヲモ持タサレハ此附則ハ全ク削除ニ付スヘキナリ論者或ハ曰ハン附則ヲ削除セハ米商會所株式取引所ノ存廢如何ニ疑ヲ生スル有ラント然ルニ此等相場所ノ營業滿期ニ達スルマテ依然營業ヲ繼續シ得ヘキハ固ヨリ論ヲ待サルコナレハ其存廢ニ關シ何モ疑ノ

生スル筈ナシ且若シ施行期限ヲ示スノ要用アリト爲スモ此等ハ農商務大臣ノ定ムル細則ニ委スルヲ當然ナリトス況シテ今日ハ郵便ナリ電信ナリ直チニ四方ニ通信スルヲ得レハ此附則ヲ存セスハ奸商輩ニ誑惑セラル可キニ非ス否ナ之ヲ存スレハ却テ奸商輩ノ黠策ヲ施ス種子ト爲ランノミ要スルニ本官ノ昨日ノ發議ト稍ヤ反對セルニ似タルモ今ヤ附則ノ眞ニ無用タルコヲ發見セシヲ以テ此意見ヲ議場ニ提出ス各官ノ贊成ヲ得テ斷然ニ削除ニ付センコヲ望ム

○五十八番 渡邊清

本官ハ大ニ六十五番ノ削除說ヲ贊成ス凡ソ法律ニ

某年月日ヨリ施行スト掲ルハ即チ人民カ必ス其時期ヨリ遵奉スヘキコヲ示スニ在リテ彼ノ登記法ナリ公證人規則ナリ某年月日ヨリ施行スト言ヘハ人民ハ直チニ其時期ヨリ登記ヲ爲シ及ヒ公證ヲ受



ルナリ之ニ反シテ集會條例ノ如キハ其施行期限ヲ掲ケス本案モ此ト同シク出願者アルニ至リテ始メテ其施行ヲ見ルナレハ眞ニ蛇足ト謂フヘシ加之ナラス此附則ヲ存スルハ幾分カ現在ノ米商株式兩會所ニ關聯スル如キ奇妙ナル感觸ヲ起サシメン然ルニ本案ノ取引所ハ全ク新創特殊ノ者ナレハ何モ兩會所ヲ顧念スルコトヲ要セスサツパリト本案ヲ發布スルヲ善シトス又若シ幾分ノ顧念ヲ兩會所ニ加フルヲ要ストナラハ主務大臣ノ權内ニ於テ之レカ緩急ヲ爲ス可キノミ

○三十六番 岩山 敬義 本官モ附則削除ノ動議ヲ賛成ス若シ此附則ヲ存立セシムルハ却テ衆人ノ疑惑ヲ致サン究竟姑息ナル老婆心切ニ過キサレハ全ク削除スルヲ可トス

○五十四番 田中 芳男 賛成

○五十六番 中村 正直 賛成

○十三番 藤之 弘 賛成

○十八番 榎村 正直 賛成

○六十八番 三浦 安 本官モ賛成ス本官ハ最初ヨリシテ原案ハ何ノ爲メ

ニ他ノ條例ヲ喚出シタルヤヲ疑ヒ調査委員席ニ於テ内閣委員ニ質問セシコト有リシ蓋シ是レ米商株式兩會所ノ廢滅ヲ顧念セル爲メニ之ヲ加ヘシナルモ此等ノ斟酌ハ農商務大臣ノ訓示ニ委スヘキノミ元來此法律カ發表シタリトテ現行兩條例ノ直チニ廢止セララルニ非ス其營業滿期マテ存在スルコトヲ主務大臣ヨリ一言スレハ足ルナリ且此施行月日ノ一事モ同種類ナル米商株式國立銀行等ノ各條例



ノ如キ皆之ヲ掲ケスト記憶ス發議者ハ農商務大臣ノ定ムル細則ニ於テ之ヲ示スヘシト云フモ均シク之ヲ示スヘシトセハ宜シク法文ニ掲クヘケレト本官ハ斷シテ之ヲ示スノ要用ヲ見サレハ悉ク削除ニ付スルヲ望ムナリ

○議長 六十五番ノ附則削除説ヲ問題ト爲ス

○二十七番 伊丹重賢 本官モ問題説ニ左袒ス發議者モ云ヘル如ク米商會

所條例株式取引所條例ニハ共ニ施行月日ヲ示セル無シ爾後其條例ニ改正ヲ加ヘシ時ニハ之ヲ掲ケタレト是レ改正ノ規則ハ何月何日より施行ストシテ前後ノ分界ヲ示スノ必要ナレハナリ各位中或ハ十五年第六拾五號布告ノ米商會所株式取引所仲買人納稅規則ニハ「來十六年四月一日ヨリ施行ス」トノ明文ヲ見テ問題説ニ同意セラ

レサル有ランコトヲ慮リ此ニ聊カ之ヲ辯ス

○外 一番 岩崎小二郎

附則削除ノ動議ニ對シテハ内閣委員ハ強テ抗論セ

サレトモ各官ノ注意ヲ喚フ爲メニ一言セン各官モ知ル如ク勅令ヲ以テ公布式ヲ定メ凡テ施行期日ハ東京府ハ發布ノ翌日各府縣ハ到達ノ本日以後ノ第七日ト爲レリ故ニ此法律モ譬ヘハ明後日發布スレハ東京ハ明後後日各地方ハ官報到達後ノ七日目ヨリ施行スル者ト爲リ創立委員直チニ出願スル者アランニ主務省ハ準備未タ成ラス細則モ賣買方法モ未タ調整セス譬ヘハ折角ト賓客ヲ招待シテ門ヲ開キ座ヲ淨メナカラ其賓客ノ來臨ニ遇フモ肝腎ナル饗膳ノ献立未タ成ラサルト一般豈ニ遺憾ナラスヤ故ニ此案ノ施行期限モ本員ノ想像スル所ニテハ今年ノ十月一日若クハ十一月一日ニ在ランカ是



レ亭主ノ準備ヲ備ヘン爲メナリ然ルニ此附則ヲ削除シ發布後直チニ出願スル有リト準備未成ノ間ハ之ヲ允許セサルニ過スシテ實際ニ障碍ナキヲ以テ本員ハ敢テ抗論セサルノミ各官請フ此意ヲ領セラレンコヲ請フ

○六十五番 清岡 公張 内閣委員ノ本官ノ注意ヲ喚ヘルハ一應其理ナキニ非サレト實際ノ官報ヲ讀ミテ直チニ出願スル者ハ無カルヘク創立委員ノ組立ヨリ出願ノ手續ニ運フニハ相當ノ月日ヲ費サ、ルヲ得サラン他ノ法律ハ實地未タ其發布ヲ知ラスシテ之ヲ犯スモ罰ヲ受ルナレハ豫メ施行期限ヲ示スノ必要アレト本案ノ如キハ之レト異ニシテ創立ヲ出願スルマテハ其施行ヲ見ルコト無シ尙ホ裏面ヨリ之ヲ言ヘハ施行月日ヲ豫示スルハ却テ投機者ニ奸黠ノ方策ヲ

與フルノ懼レ有ルナリ斷然ニ削除セサル可ラス

○四十一番 安藤 則命 本官ハ「但以下ヲ削去スルニハ同意スルト施行月日ヲ示スハ必要ナレハ之ヲ削去スルニ同意セス

○二番 尾崎 三良 附則削除説ハ賛成スル能ハス發議者ノ施行月日ヲ掲クルヲ無用タリト云フハ其理アレト「但以下ヲモ削除セントスルハ甚タ不可ナリ發議者ハ以爲ラク此但書ヲ存セス現ニ政府ノ允許ヲ經テ開設セル米商會所、株式取引所ハ營業年期ノ滿了スルマテ依然其營業ヲ繼續スルコトヲ得ルハ勿論ナリト然ルニ凡ソ法律ナル者ハ新制ヲ以テ舊制ニ換フルヲ其常ト爲ス此取引所條例モ名稱コソ新制ナレト詰リ米商會所條例、株式取引所條例ト同性質ノ者ニシテ従前ハ兩所ニ分立シタルヲ改メテ一所ニ併合スルト云フニ過キ



ス故ニ慣例ニ依レハ新制ヲ以テ舊制ヲ廢スヘキモ本條ノ「但以下ハ獨リ各會所ノ營業滿期マテ繼續セシムルノ旨趣ニ出ダレハ必ス其事ヲ掲ケテ之ヲ明示スルヲ要ス何ヲ苦ミテ故サラニ削除シ去リ人民ヲ五里霧中ニ彷徨セシメ其伺出ヲ爲スヲ待チ始メテ訓示スル如キ迂曲ノ手續ヲ爲スヲ須ヒンヤ全体「ブルス」設立ノ一事ハ昨年以來世間ニ喧傳スル一問題ト爲リ各新聞紙等喋喋其利害得失ヲ辯論セルヨリ兩會所ニ關係ヲ有スル者ハ種種ナル揣摩ヲ逞ウシ新條例ノ發布スル日ニ至レハ兩會所ハ直チニ廢止ニモ付セラルヘシト自信シ爲メニ其株券ノ相場ニ非常ノ高下ヲ致セルト有リ是ヲ以テ本案ニ「營業滿期」云云ヲ特掲シテ關係者ノ危疑ヲ解クヲ得策トス言ハハ本案ハ變例ニ出テ所謂ル新制ヲ以テ即時ニ舊制ニ換フ

ルニ非サレハ「但以下ハ必要ナリ施行月日ノ一事ハサノミ必要ナラサレモ今別ニ修正文ヲ提出スル程ノ理由モ無ケレハ本案ノマ、ニ議定シテ可ナラン

○三十番宮本小一 當問題ハ其理由明白ナレハ各官モ無論ニ同意ナルヘシト信セシニ追追ト反對說ノ出ルヲ見レハ爲メニ一言セサルヲ得ス例ヘハ本案ヲ發布シ其翌日ニモ出願者アラハ之レニ允許ヲ與ヘテ可ナラン又若シ主務省ノ準備未タ成ラスンハ其願書ヲ農商務大臣ノ手中ニ温メ置クモ可ナラン然ルヲ施行月日ヲ掲クレハ官府ヨリ出願ヲ催カスニ似タルノ失体ニ陥ラントス且其「但」以下モ同ク削去スルヲ善シトス昨年整理公債條例ヲ議スル時ニ當リ其抽籤年限ノ事ニ關シテ中山道鐵道公債ハ尙ホ据置年限内ニ在ルモ亦之ヲ



償還スルヤトノ疑問起リシニ番外員ハ素ヨリ据置年限内ハ償還ヲ爲サス中山道鐵道公債證書條例ハ自ラ存立スル者タリトノ答辯ヲ爲セリト記憶ス之レト同シク米商株式兩會所ハ既得ノ營業年期間ハ依然其營業ヲ繼續スルハ無論ナレハ寧ロ全ク此附則ヲ削去シテ綺麗瀟洒タラシムルヲ望ム

○十八番 榎村正直 本官モ問題賛成者ノ一人ナレハ聊カ意見ヲ陳ン本案ノ如キ法律ニ施行期日ヲ掲クルハ無用ノ事トス何トナレハ出願者ナキトキハ其期日ニ至ルモ施行スルコトヲ得サレハナリ彼ノ集會條例ノ如キ的例ト謂フ可シ又此「但」以下モ贅文ナリ反對論者タル二番ハ新法一タヒ出レハ舊法ハ隨テ廢止ニ歸ス故ニ變則ナル本案ニハ必ス特掲スルヲ要スト云フモ凡ソ他ノ法律ニ於テハ其文例大抵

何何ヲ廢シテ何何ヲ施行ストカ又ハ此規則ニ抵觸スル布告布達ハ此何何發布ノ日ヨリ廢止ストカ判然ニ揭示スルヲ常トス故ニ此等ノ明文ナキハ舊法ニ據テ存立スル者ノ廢止ニ歸セサルハ瞭然ニシテ之レ有レハ却テ可笑シキ感觸ヲ生セシメントス因テ現問題ニ可決スルコトヲ希望ス

○六十番 楠本正隆 本會ノ例ニ從ヒ一回ノ發言ヲ爲サン當問題ノ施行月日ヲ削去セント云フハ其理アリ是レ人民ノ出願ニ應シテ始メテ施行スル者ナレハナリ然ルニ其「但」以下ヲモ削去セント云フハ議論上ニテハ立派ニ理由ヲ有スレトモ本官ハ事實上ヨリ一種ノ異見ヲ持スルヲ以テ矢張り之ヲ掲ケンコトヲ望ム近來「ブルス」設立ノ風説ヲ世上ニ傳フルヤ關係商人ハ日夜寢食ノ間ニモ其心ヲ安ンスル能



ハス故ニ變則ナカラモ此等商人ノ注意ヲ促カス爲メニ附則ヲ掲ケ  
 シヲ欲スルナリ元來米商會所ノ如キ其營業年限ノ追續延期ヲ得  
 ル慣習ヲ成セルハ彼ノ官有土地ノ拜借年限ノ追續延期ヲ得ルト一  
 般暗ニ此慣習アルニ依頼シテ其初メ年限ヲ約セシニモ拘ラス人民  
 安堵シテ現ニ營業シ又ハ借用セリ然ルニ新「ブールス」ノ設立ニ至  
 ルハ復タ兩會所ヲシテ其營業年限ノ追續延期ヲ得セシメサル勿  
 論ナレハ今日其事ヲ本案ニ掲記シ以テ萬一ヲ希圖スル如キ關係者  
 ノ企望ヲ絶チ其損害ヲ小部分ニ止マラシムルハ施政上ノ德義ト謂  
 フヘシ若シ議論上ヨリシテ法律ノ体裁ニ泥ミ強テ此附則ヲ削除ス  
 ルハ關係者ノ多數ニ大損失ヲ被ラシメントス要スルニ政畧ノ點  
 ヨリ此附則ヲ存シ現在兩會所ノ有害物タルニ拘ラス其激變ノ爲メ

ニ株主ニ大損失ヲ與フル無ク以テ政治家ノ德義ヲ全ウセンヲ願  
 フノミ

○六十八番<sup>三浦</sup>

安

本官ハ熱心ニ現問題ヲ賛成ス何故ニ熱心シテ賛成

スルカト云ヘハ只今六十番議官ノ陳述セラレタル如キ仁慈說ヨリ  
 シテ大ナル間違ヲ生センヲ恐ルルニ由ルナリ現在米商會所ノ中  
 ニハ明治二十四年マテ繼續スル者アリテ米商會所條例ハ此纔カニ  
 殘存セル一會所ノ爲メニ二十四年マテ消滅セス因テハ他ノ各會所  
 モ其條例ノ存立ヲ見テ舊ニ依リ追續延期ヲ許可セラルル者ト心得  
 テ願ヒ繼ヲ申出レハ此附則ノ文言ニテハ前條例ノ存立スル限りハ  
 之ヲ許可セサルヲ得サルニ至ラン是レ今後ノ五年間ニ弊害ヲ遺ス  
 ニ非スヤ六十番ノ老婆心ニ出ル施政上ノ德義云云ノ仁慈說ハ即チ



農商務大臣ノ權内ニ於テ之ヲ圓滑ニ處置スルヲ得ハシ且ヤ此附則ヲ存セントナラハ今一層其文言ヲ綿密ナラシメサルヲ得ス然ク之ヲ綿密ナラシムレハ他ノ諸條ト權衡ヲ失ス故ニ此處置ハ農商務大臣ニ委シ其訓示ヲ以テ各會所銘銘ノ營業年期滿了スレハ順次ヲ逐テ廢止ニ歸シ決シテ延期ヲ許可セサルヲ告レハ足ルナリ然ルヲ本案ニ此附則ヲ掲ケテ二十四年マテハ依然トシテ願ヒ繼フ爲スヲ得ヘキヤトノ疑惑ヲ生セシムルハ不都合ノ至リナリ以上ニ述ル所ノ理由ナルヲ以テ本官ハ熱心シテ問題說ニ可決センヲ望ム

○四十八番 細川潤次郎

此附則ハ原案ノママニ之ヲ載セテ毫モ修正ヲ加フル無シ本官ハ元來墨字ヲ好ミテ朱字ヲ好マス即チ常ニ多クハ原案ニ左袒スルヲ好ムナリ只今モ敢テ熱心スト云フニ非ス聊カ冷淡

ノ心情ヲ以テ之ヲ論スレハ此附則ヲ削除ニ付スヘキ理由アルヲ見ス内閣モ此ノ如クニシテ可ナリト認メ調査委員モ亦此ノ如クニシテ可ナリト認メタルナラン思フニ此條例ハ何時ヨリ施行スル者ナルヤ二十年某月某日ヨリ施行スルナラン又彼ノ米商會所條例及ヒ株式取引所條例ハ永遠ニ存立スル者ナルヤ各自ノ營業期限滿了スルト共ニ消滅スルナラン然ラハ則チ此附則ハ今後ニ生スヘキ事實ヲ其儘ニ掲ケタルノミナレハ何ノ障礙モ無キヲナリ反對者若シ此附則ヲ掲ケスニ事實之ニ異ナラスト主張セハ本官ハ反對者ト同一ノ論法ヲ以テ此附則ヲ掲クルニ事實之ニ異ナラスト答駁セントス前陳ノ如ク本官ハ常ニ墨字ヲ好ムノミナラス此處ニ於テモ殊ニ墨字ノ佳キヲ覺フルナリ



○一番巽作 麟祥 本官ハ問題説ニ同意セス此條例ノ施行ハ遅クモ今年末ニ在リト聞ケハ翌日ヨリ施行スル常例ニ同シカラス米商會所、株式取引所兩條例モ遂ニ一度ハ之ヲ殺サ、ルヲ得ス然レハ今日ヨリ之ヲ殺スコヲ豫示スルモ何等ノ差支アラシヤ又現在相場所ハ弊害甚タ多ケレハ新タニ「ブルス」ヲ建設スルモ各相場所銘銘ノ營業滿期マテハ其存立ヲ許シテ以テ株主ノ既得權理ヲ保護スルハ善策ナリ故ニ既得權理者タル株主ニ對シテ本條例ノ施行期限ヲ豫示スルモ亦是レ相當ノ處置ト謂フヘシ

○四十二番井田 讓 本官モ問題説ニハ同意セス只今六十八番ハ二十四年マテ殘存スル米商會所アリテ其條例モ此時マテ存立スルヲ以テ營業年期ノ滿過セル他ノ米商會所モ矢張り此時マテハ其營業ノ繼

續ヲ許ス如キノ懸念ヲ懷ケルモ本官ハ敢テ然リトセス譬ヘハ曉天ノ星ノ如ク一ツ消エ二ツ消エテ段段ト消失セ偶マ夜明テ星ノ暫ク殘レルモ亦遂ニ消失セテ全ク太陽ノ晃輝タル白晝ト爲ルニ同シト信スルナリ且假令ヒ誤會ニ因テ延期ヲ出願スル者アルモ主務省之ヲ許サ、ランノミ是レ何ソ原案報告案共ニ是認セル此附則ノ文字ヲ故サヲニ削除スルノ理由ト爲スニ足ランヤ

○三十六番岩山 敬義 此附則ノ如キ文句ヲ本案ニ掲グルルハ却テ關係者ノ感觸ヲ惡クスヘシ縱令ヒ之ヲ掲ケスモ營業滿期ニ至リテ廢止ニ歸スルハ當然ナレハ全ク削去ニ付スルヲ善シトス

○議長 討議既ニ盡タリト認ムレハ決ヲ取ン六十五番ノ附則削除説ニ同意スル者ハ起立セヨ



起立者十七人

○議長 少數ニテ消滅ス

○六十八番 三浦安 起立者ノ員數ハ十七人ナリシヤ

○議長 十八人ヲ多數トス

○議長 他ニ發議ナクハ附則ハ可決ト認メ此ニ第三讀會ヲ畢ル本會ニ於テ修正ヲ加ヘタレハ本會ヲ以テ確定決議會ト看做スヤ否ヤノ決ヲ取ン即チ本會ヲ確決會ト認ムル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナレハ確決會ト認メ例ニ仍リ上奏セン

○四十二番 井田讓 本官ハ別ニ議長ニ請求スル者アリ昨年七月米商會所條例ニ關シテ一ノ意見書ヲ提出シ賛成者ヲ得テ第一讀會ヲ經過

セシモ爾來其儘ニ措閣シタルカ適マ本案ノ制定ニ遇ヒテ十分ニ本官ノ意見ヲ貫徹スルコトヲ得タレハ賛成者ノ承諾ヲ經テ前意見書ヲ取消ニ付スルコトヲ請ントス

○議長 四十二番ノ前キニ提出セル意見書ハ已ニ第一讀會ヲモ經過セシ者ナレハ其取消ノ許否ヲ議場ニ問ハン四十二番ノ請求ヲ許スニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十八人

○議長 多數ナレハ該意見書ヲ提出者ニ差戻スコトニ決ス各位退散セヨ

午後第四時五分閉場



元老院會議筆記明治二十年五月十七日

○第五百四十二號議案食鹽無稅輸出ノ件第一第二第三讀會

議長東久世通禧

出席議員

一番	箕作麟祥
二番	尾崎三良
九番	津田出
十三番	加藤弘之
十七番	坂本政均
十八番	榎村正直
十九番	長谷部辰連



二十一番	神山 郡廉
二十二番	西 周
二十三番	宍戸 璣
二十五番	綿貫 吉直
二十六番	岩村 定高
二十七番	伊丹 重賢
三十番	宮本 小一
三十二番	岡内 重俊
三十四番	原田 一道
三十六番	岩山 敬義
三十七番	長岡 護美

三十九番	石井 忠亮
四十一番	安藤 則命
四十三番	本田 親雄
四十四番	中島 錫胤
四十五番	鍋島 直彬
四十六番	大久保一翁
四十七番	上杉 茂憲
四十八番	細川潤次郎
五十一番	調所 廣丈
五十四番	田中 芳男
五十五番	野村 素介



- 五十六番 中村 正直
- 五十七番 長松 幹
- 五十八番 渡邊 清
- 六十番 楠本 正隆
- 六十一番 林 友幸
- 六十三番 田邊 太一
- 六十四番 津田 眞道
- 六十五番 清岡 公張
- 六十六番 村田 保
- 六十八番 三浦 安
- 六十九番 何 禮之

七十番 壬生 基修

內閣委員一番外 法制局參事官男谷 忠友

午前第九時五十分開場

○議長 第五百四十二號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後子例

ニ循ヒ發議セヨ

書記官森山 茂 朗讀

食鹽無稅輸出ノ件

右其院議定ニ付ス

明治二十年五月十一日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

元老院議長伯爵大木喬任殿



外國ニ輸出スル食鹽ハ明治 年 月 日ヨリ海關稅ヲ免除ス

但課稅ヲ要スルトキハ六箇月前ニ之ヲ公布スヘシ

○番一男谷忠友

例ニ依テ本案ノ旨趣ヲ陳シ本案ハ主トシテ朝鮮國ニ

輸出スル食鹽ノ海關稅ヲ免除スルニ在リ彼國中殊ニ元山津ニハ我國食鹽ノ需用年年ニ増加スルノ勢ヒ有リ然ルニ其原價ハ至テ廉ナルモ運搬ノ費用少ナカラス且我國ニテ五分彼國ニテ八分ノ海關稅ヲ課スルヲ以テ其賣價自ラ貴ク隨テ販路モ充分ニ開ケス甚タ惜ム可キナリ因テ彼地在留ノ我カ領事ヨリ此理由ヲ具シ我カ海關稅ヲ免除シタキ旨ヲ外務省ニ申出タリ乃チ大藏省ニテ調査セルニ是マテ我國ヨリ朝鮮國ニ輸出シタル食鹽ノ金高ハ原價ニテ十七年ニ一千九百四十八圓四十七錢十八年ニ二千五百五十五圓三十錢十九年

ニ一万八千二百七十六圓十八錢ナリ此ノ如ク年々ニ増加スルヲ以テ尙ホ此上ニ輸出稅ヲ免除セハ販路モ一層ニ廣マル可ク此他魯領浦鹽斯德ニ輸出シタルハ十七年ニ四千一百五十零圓八十錢十八年ニ六千六百四十八圓七十六錢十九年ニ四千一百四十八圓五十八錢ナリ又清國ニ輸出スルモ其高八年々一百圓内外トス其他ノ外國ニモ輸出セサルニ非サレモ只船中ノ食用ニ供スルニ止マレハ一百圓タニモ上ラス故ニ我國食鹽ノ販路ハ朝鮮國ヲ以テ主眼ト爲ス今十七年以來食鹽輸出海關稅ノ總高ヲ觀ルニ十七年ニ三百一十五圓五十錢四厘十八年ニ四百六十四圓二十五錢十九年ニ一千一百二十四圓四十九錢七厘ナリ此後追々ニ輸出高ハ増加スルモ海關稅ハ格別ノ數額ニ上ラス故ニ之ヲ免除スルハ大藏省モ異議アラス而シテ此



案ノ行ハル、キハ將來我國食鹽ハ朝鮮魯西亞等ニ向ヒテ次第ニ販路ヲ展ヘ以テ他日ニ好結果ヲ得ヘシ因テ各官ノ同意賛成セラレンコトヲ請フ併セテ白ス本案ノ但書ニ「課稅ヲ要スルトキハ六箇月前ニ之ヲ公布スヘシ」ト言ヘルハ從來ハ大概二箇月前ニ公布スル例ナリシモ彼地ニテ賣込約定ノ手數等モ有リ何分ニモ窮屈ナルヲ以テ將來要急ノ場合ハ格別ナルモ然ラサレハ本案ヲ首メ概シテ六箇月前ト爲スノ意ナリ

○五十四番田中芳男 本案ノ施行ヲ要スル理由ハ內閣委員ノ說明ニ因テ之ヲ知レリ本官ハ太々本案ヲ賛成ス因テ嘗テ聞及ヘル事歷ヲ一言セン抑モ我國製鹽ノ沿革ハ詳ニ知ラサレモ其事業ノ盛大ナルニ至リシハ二百年以來ナリト云フ殊ニ今ヲ距ル一二三十年前ノ頃ホ

ヒハ製造額非常ニ多ク隨テ痛ク其價ヲ減シ鹽田所有者ハ爲メニ頗ル困難ニ陥リタルヨリ阿州ノ或ル一人ノ發案ニ因リ瀬戸内十州ノ製鹽者相ヒ團結シ爾來全國内ノ需用ト供給トヲ斟酌シテ之ヲ製造シ以テ其價ヲ維持スルコト爲シタリ此發案タル當時ニ在テハ誠ニ良法ニシテ若シ之レ無クハ鹽田所有者ハ其産業ヲ保ツ能ハサリシナリ爾後此團結モ漸ク弛ミ遂ニ廢滅ノ有様ト爲リシカ文政天保ノ間ニ迨ヒテ再ヒ之ヲ復興セリ然レモ是亦遂ニ徒ラニ奢侈ノ集會ヲ爲スニ過キスシテ其團結ノ實効ハ幾ント地ヲ掃ヘリ此ニ於テ大政維新前更ニ團結ヲ始メ稍ク好成果ヲ得ントスルニ當リ時勢變遷シテ百事舊慣ヲ改ルニ誘ハレ此團結モ亦爲メニ壞ラレタリ然レモ其有用ナルヨリシテ明治十三年ニ鹽田會ナル者ヲ興セシモ當時ハ前



日ト時態ヲ異ニシ其團結充分ナラス尋テ十八年ニ農商務省ノ達示ヲ以テ瀬戸内十州ノ鹽田所有者ヲ團結セシメ且年内ノ製鹽時期ヲ六箇月間ト定メ他ノ六箇月間ハ製造ヲ禁セリ此製鹽時期ハ成ル可ク製鹽ニ適スル季節ヲ選ミテ之ヲ定メタルモ此季節外ニ在テ製造ニ適スル地方モ之レ有ルヲ以テ往往ニ苦情ヲ鳴セリ併シ此禁制ヲ緩メハ需用供給ノ程度ヲ量ラス徒ラニ多ク之ヲ製造シテ同業俱倒レト爲ルノ恐レ有リ原來瀬戸内十州ノ製鹽高ハ全日本國ノ製鹽高ニ比シテ幾ント四分ノ三ヲ占ム故ニ農商務省ノ達示モ亦容易ニ廢止ニ付ス可キニ非ス去リトテ一方ニハ右ニ陳ル如キ苦情モ有リ今此ニ食鹽ノ海關稅ヲ免除セハ益多ク外國ニ輸出スルヲ以テ多量ニ之ヲ製造スルモ内地ニ在テ甚シク其價ヲ減スルノ憂ヒ無レハ本

案ヲ發スル以上ハ農商務省ノ達示モ安心シテ廢止スルヲ得テ鹽田所有者ノ苦情モ消散ス可シ因テ本官ハ熱心シテ本案ニ可決センコトヲ望ム

○二番<sup>尾崎三良</sup> 內閣委員ニ質問セン本案ハ何時頃ヨリ施行スルノ意ナリヤ豫定ノ期日アラハ之ヲ聞ン

○一番<sup>男谷忠友</sup> 施行ノ日限ヲ入ル、コハ嘗テ主務省ニモ相談セシカ  
本案ハ免稅ノ事ニ係レハ發布後十五日許ノ餘裕アレハ足ル可シ因テ本院議定上奏後二三十日ノ餘裕ヲ見積リテ年月日ヲ記入セントス

○六十番<sup>楠本正隆</sup> 参考ノ爲メ內閣委員ニ質問ス我國食鹽ノ製造高ハ一年凡ソ何程ナリヤ



○外一番男谷忠友 嘗テ統計院ニテ諸産物ノ製造高ヲ取調タルニ課税セ  
ル諸物ハ其高ヲ知ルヲ得タレ氏茶鹽ノ如キ課税セサル者ハ其高ヲ  
知ル能ハス故ニ本員ハ確答スルヲ得サルナリ

○二番尾崎三良 簡單ノ議案ニシテ其旨趣ハ素ヨリ異議ナキモ是レ果シ  
テ何年何月何日ヨリ施行スルヤ原來施行期限ヲ明記セサル法案ヲ  
議定スルコトハ泰西各國ニ其例ヲ聞カス尤モ我國ニ於テハ往往ニ施  
行ノ月日ヲ明記セサル法案ヲ見ルモ本官ハ常ニ不充分ナリト思ヘ  
リ然ルニ本案ハ年數マテモ省キ去レリ顧フニ施行期限ハ一切ニ内  
閣ノ都合ヲ以テ之ヲ定メント云フニ在ル可キモ只今内閣委員ノ答  
辨ヲ聽クニ本院議定上奏後ニ三十日ノ餘裕ヲ見積リテ施行期限ヲ  
記入スルノ意ナリト云フ果シテ然レハ其旨趣ニ基キ本院ニ於テ此

ニ施行期日ヲ加フルヲ可トス蓋シ是等ノ事ハ第二讀會ニ陳フ可キ  
ナレ氏本案ニ同意ヲ表スル序ニ之ヲ一言ス

○六十四番津田真道 本案ヲ賛成ス今日我カ食鹽ノ外國ニ輸出スルハ朝  
鮮ヲ最トス而シテ其輸出ハ何程ナリヤト云ヘハ寔ニ僅僅ノ數額ナ  
リ故ニ日本全國ノ經濟上ニハ何程ノ關係ヲ及ホサル可キモ其輸  
出税ヲ免除セハ輸出ヲ増加シ我カ國產ヲ隆盛ナラシムルノ益ヲ見  
ン凡ソ産物ハ此地ニ少ナクシテ彼地ニ多ク彼國ニ無クシテ此國ニ  
有ル等ノ爲メニ吾人ハ尤モ貿易ノ必要ヲ感スレ氏此ニハ種種ノ障  
礙ヲ受ク輸出入税ノ如キ其障礙ノ最大ナル者ナリ然ルニ今ヤ食鹽  
ニ此一大障礙タル輸出税ヲ免除シ以テ輸出ヲ盛大ナラシメントス  
ルハ寔ニ好案ト謂フ可シ但其輸出高ハ十九年ニ一万八千餘圓ナリ



ト云へハ之ヲ十倍スルモ尙ホ僅僅ノミ然レハ前ニ陳ル如ク本案ヲ  
 發スルモ爲メニ著シク日本ノ富ヲ増スコトハ無カル可キモ幾分カ之  
 ヲ増スハ疑ハサル所トス本官ハ尙ホ他ノ諸物品モ追追ニ輸出税ヲ  
 免除スルニ至ランコトヲ望ム我國産物ノ第一位ニ居ル者ハ生糸ニシ  
 テ之ニ亞ク者ハ茶ナリ今其一年ノ輸出高ヲ觀ルニ生糸ハ二千萬圓  
 許茶ハ五六百萬圓許ナリ若シ是等ノ輸出税ヲ免除セハ販路益開  
 ケ日本ノ富ヲ増スヤ頗ル大ナル可シ或ル學士ノ說ニ伊太利ハ隨分  
 ト養蠶ニ適スル國地ニシテ其事業モ次第ニ盛大ナラントスルモ工  
 錢ノ不廉ナル爲メニ其製出スル生糸ノ價直ハ我國ニ於ルヨリ遙カ  
 ニ貴シ若シ我國ニテ之カ輸出税ヲ免除スルキハ彼國ノ製出ヲ壓倒  
 スルコトヲ得ヘシト其レ然ラン本官モ切ニ此ノ如クナランコトヲ望ム

尤モ是等ノ輸出税ヲ免除セハ我カ國庫ノ困難ヲ來ス可ケレハ此說  
 タル所謂ル言フ可ク行フ可ラサル如キモ富國ノ點ヨリ觀察ヲ下セ  
 ハ本官ハ斷然ニ其決行ス可キヲ信スルナリ

○五十四番 田中芳男

食鹽ノ製造高ニ關スル六十番ノ質問ハ内閣委員其  
 確答ヲ爲ス能ハスト云ヒシモ本官ノ調査セシ所ニ據レハ全國内ノ  
 食鹽製造高ハ四百萬許ナリ是レ本官ノ前キニ瀬戸内十州ノ製造高  
 ハ三百萬ニシテ乃チ全國ニテ製造スル石數ノ四分ノ三ヲ占ムト陳  
 タル所以ナリ但此調査モ確カト誤謬ナキヲ保セサレハ聊カ六十番  
 ノ參考ニ供ス

○四十八番 細川潤次郎

緘黙ヲ守ルモ可ナレハ議場ノ寂寥ヲ感スルニ因  
 リ一言セン本官ハ内心ニハ本案ヲ賛成セス去レハ廢案說ヲ提出ス



ルニ至ラス本官今少シ富裕ノ身分ナラハ此位ノ金圓ハ擧テ人ニ施  
 與スルモ惜カラス何故ニ然ルヤト云ヘハ元來租稅ハ取り惡ク、又  
 出シ惡クキ者ナレモ其之ヲ取り又之ヲ出スハ確乎タル理由ノ存ス  
 ル爲メニシテ即チ之ヲ取ルハ以テ陸海軍費ヲ首メ諸官省ノ費用等  
 ニ充ル爲メニシ之ヲ出スハ以テ政府ノ保護ニ報ユル爲メニス租稅  
 ハ保護ノ賃金ナリトハ外國ノ學者モ既ニ之ヲ說ケリ而シテ租稅ヲ  
 取ルニハ必ス平等ナラサル可ラストハ經濟ノ原則ニシテ善良ノ政  
 治ハ平等ニ租稅ヲ取ルニ在リトハ又是レ學者ノ說ケル所ナリ爰ニ  
 或種ノ物品ニ限り無稅輸出ヲ許サハ其物品ニ係ル營業者ハ之ヲ喜  
 フ可キモ一般人民ニ對シテハ不平等タルヲ免レス狹ク言ヘハ租稅  
 ノ原則ニ反ス是マテ八十人ナリ百人ナリ均シク稅ヲ出シタルニ其

中ノ幾人ハ之ヲ出スヲ免カレ他ノ幾人ハ依然之ヲ出サ、ルヲ得ス  
 若シ違背スレハ犯則者トシテ處罰セラル此法案ノ如キモ他ノ物品  
 ニ係ル營業者ハ啻ニ之ヲ喜ハサルノミナラス却テ之ヲ妬ムニ至ル  
 可シ故ニ此法案ハ法律ノ體裁モ面白カラス旨趣モ厚薄ノ段階ヲ設  
 クルニ似テ面白カラス去レモ已ニ一タヒ迷路ニ入ルモ同伴者アレ  
 ハ儘マ可ナリトノ考ヘヲ以テ本案ニ同意スルノミ或ル議官ハ大ニ  
 本案ヲ賛成シ茶生糸ノ如キモ無稅輸出ト爲スヲ望ムト云フモ斯ル  
 旨趣ヲ達セントナラハ彼ノ經濟上ノ大問題タル保護稅主義ニ歸セ  
 ントス然リト雖モ斯ル說ハ到底言フ可クシテ行フ可ラサラン思フ  
 ニ我カ政府モ茶生糸ノ如キ金額ノ鉅大ナル物品ハ無稅輸出ト爲サ  
 ス食鹽ハ金額ノ僅少ナルヲ以テ無稅輸出ト爲セルナラン又此但書



モ從前ノ例ニ倣フトナレハ強テ不都合トハ言ハサレモ其實ハ面白  
 カラス個ハ他日再ヒ輸出税ヲ取ル爲メノ前置ニシテ譬ヘハ彼ノ開  
 店ノ當初ニハ購客ニ景物ヲ與ヘ且ツ廉價ニ物品ヲ販賣スルモ暫ク  
 ニシテ景物モ與ヘス物品ノ價直モ亦之ヲ貴クス而モ此時ニハ既ニ  
 立派ノ流行店ト爲レルト同一趣向ニ類ス去レモ前例モ之レ有レハ  
 本官ハ此ニ對シテ特ニ削除説ヲ提出セサルノミ要スルニ本官ハ以  
 上ニ陳ル如キ淡泊ナル理由ヲ以テ本案ニ同意スルナリ

退席

二番

尾崎 三良

○六十四番 津田 眞道

四十八番ハ歐羅巴ノ經濟書ヲ金科玉條ト爲シ佛脚  
 ヲ抱ク如クニ尊信セルニ似タリ本官モ昔年歐羅巴ニ航行セシ頃ニ  
 ハ同様ノ考ヘヲ以テ「プロテクション」ノ主義ヲ不是視シ熱心ニ其

論ヲ主張シタレモ既ニシテ甚タ誤レルコトヲ悟レリ凡ソ物ノ其平ヲ  
 得サル可ラサルハ學問上不變ノ定理ナルモ亦彼ノ物ノ齊シカラサ  
 ルハ物ノ情ナリトノ格言ハ古今ニ亘リテ易フ可ラサルノ事實ナリ  
 試ミニ此案上ニ在ル番號牌ヲ看ヨ之ヲ作レル職人ハ各箇同一ノ形  
 狀ニ作ルノ心得ナルモ多少ノ差異アリ吾人ノ面貌意想ノ如キモ亦  
 各多少ノ差異アルヲ見ル其レ然リ天地間ノ物ハ一トシテ全ク同シ  
 キ者ナシ是レ自然ノ事實ニ非スヤ世運ノ進歩スルニ隨ヒ益其差異  
 ヲ見ルトハ進歩説ノ一大問題ニシテ物ノ其平ヲ得サル可ラスト云  
 フハ今日已ニ陳腐ニ屬セリ尤モ經濟ノ要ハ分業ニ在リ而シテ分業  
 トハ各人各自ニ其職業ノ受持部分ヲ營ムニ在リテ彼ノ士農工商ノ  
 區別ハ即チ古昔ノ分業ナリ然ルニ此分業ハ世運ノ進歩スルニ隨ヒ



四等ヨリ四十等ニ四十等ヨリ四百等ニ尙ホ其レヨリモ四千等四萬等ニモ増シ上ホル可シ世間ニハ數千萬金ノ富ヲ致ス者ト壹錢ノ儲蓄スラ無キ者ト有リ不平均モ亦甚シト謂フ可シ論者ハ其不平均ヲ嘆カンモ智者ハ益富ミ愚者ハ益貧シ到底平均說ハ實際ニ適セス尤モ租稅ハ平均ニ取ル可シト說クハ善キモ萬事平均ヲ得セシメントスルハ實理ニ合ハス縱令ヒ實理ニ合ハサルモ實益ヲ得レハ猶ホ可ナルモ實理ニ合ハスシテ實益ヲ得ルノ理ハ萬モ之レ無シ夫レ國ヲ富スハ主宰者ノ最モ難ニスル所ナレ其第一ニ著眼スルハ富國ノ點ニ在リ今日歐羅巴諸國ハ多ク保護稅說ヲ非トスル米國ノ富盛ヲ致シタルハ却テ保護稅說ヲ採用シタルニ由ル我國ハ米國ト壤地相對ス故ニ宜ク彼ニ倣フテ保護稅旨義ヲ擴張シ彼ノ如キ富盛ヲ致

スヲカムヘキナリ四十八番ノ說ク所ハ本官ノ持論ト甚タ背馳スルヲ以テ一辨ヲ費ス

○六十八番 三浦安

本官ハ全ク本案ヲ贊成ス四十八番モ廢案ヲ唱フルニ非ス六十四番ノ四十八番ニ對スル駁論モ到底本案ノ廢立ニハ關係ヲ有セス斯ル論理ヲ聯子テ稅法ノ原則經濟ノ原則ニマテ論及スルヒハ終日喋言スルモ恐クハ論シ盡サ、ラン他ノ各位モ別ニ異議ナキニ似タレハ早ク第一讀會ヲ畢リ引續キ第二第三讀會ヲ開ンコト望ム

○二十五番 綿貫吉直

內閣委員ニ問フ日本全國ノ食鹽ノ製造高ト費消高トハ何程ナリヤ

○番一 男谷忠友

先刻モ六十番ヨリ食鹽產出高ノ質問ヲ受タリ然ルニ



最モ多ク外國ニ輸出スル製茶ノ產出高スラ未タ判然ニ知ル能ハス食鹽モ同様ナル旨ヲ答ヘタリ五十四番ノ食鹽產出高ハ四百萬許ナリトノ言ヲ聞クモ個ハ石數カ金數カヲ知ラス兎ニ角ニ本員ハ幾許ノ產出高ナリヤヲ今日ニ明言スル能ハサルナリ

○二十五番 綿貫吉直 本案ノ旨趣ハ我國產物ノ輸出ヲ盛大ニセント云フニ在レハ其目的甚タ佳シ去レ此ニ一言シタキハ從來我國ノ物産ニシテ一タヒ外國ニ向テ其販路ヲ開クルヤ盛ニ之ヲ製造シ動モスレハ需用供給ノ程度ヲ量ラス漫然ニ輸出スルヨリ爲メニ失敗ヲ取レルヲ少ナカラス摺附木竹細工麥藁細工ノ如キ皆其的例ナリ故ニ食鹽モ日本全國ニテ何程ヲ製造シ内地ニテ何程ヲ費消シ外國ニ何程ヲ輸出スト大概ノ目算ヲ立テ、之ヲ製造シ以テ其輸出ヲ謀ラン

トヲ望ム然ラサレハ僅カニ販路ノ開ケタル爲メ濫ニ製造高ヲ増シ却テ營業者ノ失敗ヲ來スヲ恐ル、ナリ

○六十四番 津田真道 本案ニ對シテハ各官ニ於テモ格別異論ナキ様ナレハ本官モ六十八番ノ建議ノ如ク本會ヲ終レハ相續テ第二第三讀會ヲ開クヲ冀望ス

○議長 發議既ニ盡キタルヲ以テ此ニ第一讀會ヲ畢ル因テ六十八番ノ建議ノ如ク續テ第二第三讀會ヲ開ク可キヤ否ヤヲ決セン之ヲ開クニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十八人

○議長 多數ナルヲ以テ六十八番ノ建議ニ決シ續テ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 朗讀



外國ニ輸出スル食鹽ハ明治 年 月 日ヨリ海關稅ヲ免除ス

但課稅ヲ要スルトキハ六箇月前ニ之ヲ公布スヘシ

○三十六番 岩山 敬義 過刻ニ番ノ陳述セル如ク年月日トノミ記スルハ餘

リニ漠然ナレハ「年」ノ字ノ上ニ「二十」ノ字ヲ加ヘン

○議長 三十六番ノ修正說ハ贊成者ナキニ因リ問題ト爲ラス他ニ發議ナキヲ以テ本案ハ可決セリト認メ此ニ第二讀會ヲ畢リ續テ第三

讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

外國ニ輸出スル食鹽ハ明治 年 月 日ヨリ海關稅ヲ免除ス

但課稅ヲ要スルトキハ六箇月前ニ之ヲ公布スヘシ

○議長 發議ナキニ因リ決ヲ取シ本案ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十九人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ此ニ第三讀會ヲ終ル例ニ循ヒ上奏ス可シ散會セヨ

午前第十一時閉場



元老院會議筆記

○第五百四十三號議案私設鐵道條例

○明治二十年五月二十五日 檢視會

議長東久世通昭

出席議員

一番	箕作 麟祥
二番	尾崎 三良
十一番	渡邊 驥
十三番	加藤 弘之
十五番	小畑 美稻
十六番	伊集院兼寛
十七番	坂本 政均
十八番	植村 正直
十九番	長谷部辰連
二十一番	神山 郡廉
二十二番	西 周

二十五番	綿貫 吉直
二十六番	岩村 定高
二十七番	伊丹 重賢
二十八番	福羽 美靜
三十二番	岡内 重俊
三十四番	原田 一道
三十五番	楫取 素彦
三十六番	時任 爲基
三十七番	長岡 護美
三十九番	石井 忠亮
四十三番	本田 親雄



四十四番	中島 錫胤	五十八番	渡邊 清
四十五番	鍋島 直彬	六十番	楠本 正隆
四十六番	大久保一翁	六十一番	林 友幸
四十七番	上杉 茂憲	六十三番	田邊 太一
四十八番	細川潤次郎	六十四番	津田 眞道
五十一番	調所 廣丈	六十五番	清岡 公張
五十二番	黒田 清綱	六十六番	村田 保
五十四番	田中 芳男	六十八番	三浦 安
五十六番	中村 正直	六十九番	何 禮之
五十七番	長松 幹	七十番	壬生 基修

午前第十時四十分開場

○議長 第五百四十三號議案ノ檢視會ヲ開ク朗讀ハ通牒文ニ止ム

書記官 森山 朗讀

私設鐵道條例

右便宜公布ノ後其院檢視ニ付ス

明治二十年五月十八日

元老院議長伯爵大木喬任殿 内閣總理大臣伯爵伊藤博文

左ノ條例ハ朗讀セサルモ此ニ掲ケテ參照ニ供ス

朕私設鐵道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年五月十七日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第十二號

私設鐵道條例

第一條 旅客及荷物運輸營業ノ目的ヲ以テ鐵道ヲ布設セントスル者ハ發起人五人以上結合シ鐵道會社創立願書ニ起業目論見書ヲ添へ本社ヲ設置セントスル地ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ差出スヘシ

馬車鐵道ハ本條例定ムル所ノ限ニアラス

第二條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 第一 社名及本社所在地
  - 第二 線路ノ兩端及其經過スヘキ地名但略圖ヲ添フヘシ
  - 第三 資本金ノ總額及總株數並一株ノ金額
  - 第四 鐵道布設ノ費用及運輸營業上ノ收支概算
  - 第五 發起人ノ氏名住所及發起人各自ノ引受クヘキ株數但發起人總員ノ引受クヘキ株數ハ總株數十分ノ二以上タルヘシ
- 第三條 政府ニ於テ第一條ノ願書及目論見書ヲ査閲シ起業ノ大體ニ不都合ナキト認ム

第五四三號 私設鐵道條例



ルトキハ假免狀ヲ下付シ本社ヲ設立セントスル地ノ地方廳ニ令シ發起人ヲシテ線路  
圖面工事方法書工費豫算書及會社ノ定款ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ  
既設ノ鐵道ニ妨害ヲ生スルノ虞アリ又ハ其地方ノ狀況鐵道ノ布設ヲ要セスト認ムル  
トキハ願書ヲ却下スヘシ

第四條 政府ニ於テ前條ノ圖面書類ヲ審査シ妥當ナリト認ムルトキハ裁可ヲ經テ會社  
設立及鐵道布設ノ免許狀ヲ下付スヘシ

第五條 發起人前條ノ免許狀ヲ下付セラレタル後ニアラサレハ社名ヲ以テ株金ヲ募集  
シ鐵道布設ノ工事ニ著手スルコトヲ得ス

第六條 會社ハ免許狀下付ノ日ヨリ三箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手シ免許狀ニ記載  
シタル豫定期限内ニ竣功スヘシ若シ其期限内ニ竣功シ難キ事由アルトキハ少クとも  
二箇月以前本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ延期ヲ請フヘシ但其延期ハ豫  
定期限ノ半ヲ超ルコトヲ得ス

第七條 軌道ノ幅員ハ特許ヲ得タル者ヲ除クノ外總テ三呎六吋トス

第八條 左ニ記載スルモノヲ以テ鐵道用地トス

第一 線路ニ當ル敷地但其幅員ハ築堤切取架橋等工事ノ必要ニ應シテ定ムルモノト  
ス

第二 停車場及之ニ附屬スル車庫貨物庫等ノ建築用ニ供スル土地

第三 前項ノ構内ニ常住ヲ要スル驛長車長及機關方等ノ家宅番人小屋等ノ建築用ニ

供スル土地

第四 鐵道布設又ハ運輸ニ要スル車輛器具ヲ製作修繕スル器械場及同上ノ資材器具  
ヲ貯藏スル倉庫ノ建築用ニ供スル線路ニ沿ヒタル土地

第九條 鐵道布設ノ爲メ舊來ノ道路橋梁溝渠運河等ヲ變換シ又ハ一時之ヲ移設セント  
スルトキハ所管官廳ノ許可ヲ受クヘシ但其費用ハ會社ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十條 線路ノ道路ヲ橫斷スル場所ニハ橋梁ヲ架設シ若クハ踏切道ヲ設クヘシ其他危  
險防止ノ爲メ必要ノ場所ニハ牆柵門戶堤防ヲ設ケ若クハ番人ヲ配付スル等充分ノ警  
備ヲナスヘシ

第十一條 線路ノ全部若クハ一部ノ工事竣功シ旅客及貨物ノ運輸ヲ開業セントスルト  
キハ鐵道局長官ニ届出ヘシ

第十二條 鐵道局長官ハ前條ノ届出ニ依リ監査員ヲ派遣シテ工事方法書ニ照シ軌道橋  
梁車輛建物等ヲ監査セシメ完全ナリト認ムルトキハ開業免許狀ヲ下付スヘシ若シ不  
完全ナリト認ムルトキハ其改築修理ヲ命スヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ復命書ヲ  
會社ニ示スヘシ

會社ハ前項ノ開業免許狀ヲ得シテ運輸ノ業ヲ開クコトヲ得ス

第十三條 鐵道局長官ハ鐵道布設中臨時監査員ヲ派遣シテ工事ヲ監査セシメ又運輸開  
業ノ後ニ於テモ監査員ヲ派遣シテ軌道橋梁車輛建物等並運輸上ノ實況ヲ監査セシメ  
危險ナリト認ムルトキハ其改築修理ヲ命スヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ復命書ヲ



會社ニ示スヘシ

第十四條 第十二條第十三條ノ改築修理ヲナシタルトキハ更ニ監査ヲ受クヘシ  
第十五條 官有ノ土地ニシテ鐵道用地ニ必要ナルモノ及第九條ノ土地ハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下ケ其民有ニ係ルモノハ公用土地買上規則ニ據リ買上ケ會社ニ拂下クヘシ  
但其土地ニ建物アルトキハ本條ニ準シテ之ヲ處分スヘシ

第十六條 會社ニ於テ鐵道布設ヲ止メ又ハ線路ノ變更ニ依リ不用トナリタル鐵道用地ニシテ最初公用土地買上規則ニ據テ買上ラレタルモノハ原所有者ニ於テ原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

會社ハ前項ノ土地不用トナリタル旨ヲ原所有者ニ通知スヘシ若シ原所有者ニ於テ三箇月以内ニ之ヲ買戻サハルトキハ其權利ヲ失フモノトス

第十七條 政府ハ鐵道用地内ニ於テ線路ニ沿ヒ電線ヲ架設スルコトヲ得又會社ハ其架柱ノ一部ヲ使用シ鐵道用ノ電線ヲ架スルコトヲ得但其一部ニ對スル費用ヲ支辨スヘシ

第十八條 會社ハ鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ無料ニテ郵便及ヒ電信ノ用ニ供スヘシ但政府ニ於テ建物ノ改造ヲ要シ又ハ用地ノ買上ヲナストキハ其實費ヲ支辨スヘシ  
第十九條 明治十九年第五十九號布告郵便條例ニ依リ郵便物ト稱スルモノ及其遞送ニ關スル人員ノ運賃ハ左ニ記載スル割合ヲ以テ遞信省ト會社ト豫メ之ヲ約定スヘシ  
第一 下等旅客二十人ノ坐位ニ當ル積量

一哩ニ付金一錢五厘以内

第二 一車(四噸積)貸切

一哩ニ付金五錢以内

但車室ヲ構造シ又ハ之ヲ改造セシメタルトキハ遞信省ヨリ其實費ヲ支辨スヘシ

第二十條 鐵道事務ニ關シテ往復スル官吏ハ無料ニテ乗車セシムヘシ但其官吏ハ常乘切手ヲ帶ル者ニ限ル

第二十一條 公務ヲ以テ往復スル陸海軍軍人軍屬及警察官吏又ハ軍馬銃砲彈藥糧食破服陣具工鋏兵器具天幕等ハ總テ半價ヲ以テ輸送スヘシ但其公務タルコトヲ證スヘキ通券ヲ帶ル者ニ限ル

第二十二條 囚徒及其護送官吏ハ半價ヲ以テ乗車セシムヘシ

第二十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ徵發令ノ定ムル所ニ從ヒ鐵道ヲ使用セシムヘシ

平時ト雖モ至急ニ兵隊ノ派遣ヲ要スル場合ニ於テハ當該官廳ノ命ニ從ヒ速ニ之ヲ輸送スヘシ但其運賃ハ第二十一條ノ例ニ依ル

第二十四條 陸海軍ニ於テ軍事上必要ノ爲メ車輛ニ改修ヲ加ヘ又ハ新裝置ヲ施シ或ハ載卸用器具ノ製造ヲ命シ其實費ヲ支辨スルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 鐵道局長官ハ公衆ノ安全ノ爲メ官有鐵道ニ實施スル事物ハ會社ニ命シ之ヲ施設セシムルコトヲ得



第二十六條 政府又ハ政府ノ許可ヲ得タル者ニ於テ會社ノ鐵道線路ニ接續シ若クハ之ヲ橫斷シテ鐵道ヲ布設シ又ハ會社ノ鐵道線路ニ接近シ若クハ之ヲ橫斷シテ道路橋梁溝渠運河ヲ設クルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十七條 官設鐵道ニ施行スル規則ハ私設鐵道ニモ亦之ヲ適用スヘシ

第二十八條 會社ニ於テ工事ノ方法又ハ會社ノ定款ヲ變更セントスルトキハ本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ認可ヲ受クヘシ

第二十九條 旅客及貨物ノ運賃額又ハ運輸規程ヲ定メ若クハ之ヲ變更セントスルトキハ鐵道局長官ノ認可ヲ受クヘシ但下等旅客運賃額ハ一哩ニ付金一錢五厘ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス又其範圍内ニ於テ運賃額ヲ増加スル場合ニ於テハ少クトモ二週日前ニ之ヲ公示スヘシ

第三十條 列車發著時間及度數ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルトキハ鐵道局長官ニ報告スヘシ

第三十一條 會社ハ半年度毎ニ營業ノ報告書ヲ調製シ四十日以内ニ鐵道局長官ニ差出スヘシ

第三十二條 會社ハ其財産ノ全部若クハ一部ヲ抵當トシテ負債ヲナスコトヲ得但其額ハ株主ヨリ拂込タル資本金額十分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス  
毎勘定季中ニ支拂フヘキ負債ノ元利金ヲ完償シタル後ニアラサレハ株主ニ純益金ノ配當ヲナスコトヲ得ス

第三十三條 會社ノ勘定ヲ分ツテ左ノ二種トス

第一 資本勘定 軌道車輛器械停車場土地建物等營業上收益アルヘキ物件ノ創設ニ

係ル出納

第二 收益勘定 前項物件ノ維持保存ニ要スル費用及營業上ノ出納

第三十四條 私設鐵道ノ官設鐵道ニ接續スル場合ニ於テ交互運輸ノ手續及賃金ノ割合等ハ鐵道局長官之ヲ定ムヘシ

二箇以上ノ私設鐵道接續スル場合ニ於テ交互運輸ノ手續及賃金ノ割合等ニ係リ雙方ノ議協ハサルトキハ鐵道局長官ノ裁定ヲ請フヘシ

第三十五條 政府ハ免許狀下付ノ日ヨリ滿二十五箇年ノ後(特ニ營業期限ヲ定メタルモノハ其滿期後)ニ於テ鐵道及附屬物件ヲ買上ルノ權アルモノトス

第三十六條 前條ニ依リ鐵道及附屬物件ヲ買上ルトキハ前五箇年間ノ株券價格ヲ平均シ之ヲ以テ買上價格ト定ムヘシ

第三十七條 免許狀下付ノ日ヨリ三箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手セス又ハ豫定期限及延期内ニ竣功セサルトキハ免許狀ノ返納ヲ命スヘシ但事宜ニ由リ其既設ノ鐵道及附屬物件ヲ公賣ニ附シ其買受者ヲシテ之ヲ竣功セシムルコトアルヘシ

第三十八條 旅客及貨物輸送ノ際社員ノ疎虞懈怠又ハ故意ニ依リ損害ヲ生シタルトキハ會社其賠償ノ責ニ任スヘシ

第三十九條 第五條ノ免許狀ヲ受ケスシテ社名ヲ以テ株金ヲ募集シ及鐵道布設ノ工事



ニ著手シタルトキハ第三條ノ假免狀ヲ沒收シ第十二條ノ免許狀ヲ受ケス又ハ第十二條第十三條ノ改築修理ヲナサスシテ營業ヲナシタルトキハ鐵道局長官ハ之ヲ停止スヘシ但其營業中ノ收入金ハ之ヲ沒收ス

第四十條 鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ又ハ鐵道ノ正當ナル使用ヲ妨害シタルトキハ政府ハ役員ヲ改撰セシメ又ハ鐵道局ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムヘシ但鐵道局ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムル場合ニ於テモ其營業上ノ損益ハ仍水會社ニ屬スヘキモノトス

第四十一條 本條例ノ細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

○五十八番 渡邊 本案全体ニ於テ別ニ不明不備ノ廉ヲ見出サ、ルモ若シ議定ニ付セラレ、ナレハ聊カ文字上修正ヲ加フ可キ無キニ非ス且私設鐵道ノ事業ハ其關係至重至大ニシテ之ヲ布設スルニ先ツ土地ノ必要ナルヲ以テ公用土地買上規則ヲ施スコモアラン又政府ト人民トノ間ニ特別ノ約束ヲ爲スコモアラン非常ノ時ニハ戒嚴令ニモ關係シ甚重大ナル法案ナリ然ルニ今此法案ヲ議定ニ付セスシテ檢視ニ付セラレシハ何故ヲ或ハ鐵道私設ノ請願人多クシテ急施ヲ要スルノ已ムヲ得サルニ出シナランモ若シ急施ヲ要ストナレハ本院ニ於テモ毎日調査討議シ夜ヲ以テ日ニ繼グノ勞ヲ厭ハス至急議了スルノ道ナキニ非ル可シ故ニ此等重大ノ法案ハ今後必ス本院ノ議定ニ付セラレンコヲ議長ヨリ上申アラントヲ望ム

○二番 尾崎 本案ハ檢視ニ付セラレタルヲ以テ一字一句ノ修正モ加フル能ハスト雖モ之

ヲ制定スル理由ノ説明モナク議定ニ付セサル事由モ分明ナラス而テ晏然檢視ヲ終ルハ不可ナリ本官ハ其大体ニ異論ナク且ツ必要ナル條例ト考フルモ條中ニハ往々疑點アリ各官ニ於テモ定メテ同感ナルヘシ然レハ縱令檢視タリモ其趣旨ノ瞭解モ得ス徒ラニ經過スルハ心ニ安ンセサル所ナリ從來檢視案ニハ内閣委員出席セサル例ナルモ今後ハ總テ議定案同一ニ出席アリテ其法案ノ理由ヲ説明シ又質問ニ答フルコトアランヲ欲ス殊ニ本案ノ如キ條項モ多ケレハ説明ヲ要スル勿論ナリ故ニ本官ハ議長ヨリ内閣委員ノ出席ヲ請求セラレンコヲ建議ス因テ今日ノ會議ヲ中止シ其出席ヲ俟テ開會センコトヲ乞フ

○六十五番 清岡 二番ノ建議ヲ賛成ス其理由モ亦同一ナリ本官ハ鐵道事業ニ暗キモ議定ニ付セラレタルナレハ充分調査ノ上意見ヲ陳述スヘキニ檢視ナレハ已ムヲ得ス沈黙ス

本案制定ノ理由ハ勿論軌道ノ設定土地買上ノ規則等ニ關シ巨細質問セハ或ハ後來ノ參考トモ爲ル可シ然ルニ内閣委員出席ナキヲ以テ如何トモスル能ハス簡單ノ法案ナレハ敢テ異議ヲ容レサルモ本案ノ如キ條項モ多ク節目隨テ繁細ナレハ各條中自ラ數多ノ疑點アリ内閣ニ於テ此案ヲ議定ニ付セサルハ畢竟急施ヲ要スルノ故ナルヘキモ本院ノ晝夜勉強シテ議了スルハ厭ハサル所ナレハ二番建議ノ成立ヲ希望ス

○五十八番 渡邊 本官モ建議ヲ賛成ス本案ヲ檢視ニ付セシハ縱令已ムヲ得サル事情アリトスルモ責メテハ制定ノ理由ナリモ聽聞セント欲ス且各條中瞭解シ難キ所多シ此儘檢視ヲ終ルハ殊ニ安ンセサルナリ

○二番 尾崎 本官ノ建議幸ニ賛成者アルヲ以テ聊カ前言ノ不足ヲ補ヒ各官ノ參考ニ供セ



第三十八條ニ會社其賠償ノ責ニ任スヘシトアリ官設鐵道ハ其賠償ノ責任五十圓ニ限ルト聞クモ本案ハ悉皆賠償ノ責ニ任スヘキモノナルヤ又其賠償ハ幾何ニ止マルヤ會社ハ無限ノ責任ヲ負フヤ又其株金額ノミニ止マルヤ勅令ノ條例ナレハ此等ノ如キモ必確定セサル可ラス又第十九條ニ「二等旅客二十人ノ坐位ニ當ル積量一哩ニ付一錢五厘以内」トアリ而テ從來東京橫濱間ノ鐵道十八哩ニテ下等二十錢ニ比スレハ其差モ亦甚シ此等ハ何レニ引直ス可キカ若シ私設鐵道ノ規則ハ官設ニ及ホサストナレハ甚不都合ナリ本官ハ之レヲシテ彼此同一ナラシメント欲ス然ルニ今此儘ニ經過セシメハ實ニ檢視會ノ効ナキモノトス即チ是内閣委員ノ説明ヲ聞カント要スル所以ナリ因テ議長ヨリ速カニ請求アラント望ム

○六十八番<sup>三浦</sup> 二番ノ内閣委員出席ヲ請求セント云フハ建議ナルヤ請求ナルヤ議長ニ請求スルハ可ナルモ建議ナレハ不可ナリ元來議定ニハ内閣委員ノ出席アルモ檢視ニ此事ナキハ畢竟出席スルモ用ナキカ爲メナリ然レモ質問ヲ要ストナレハ之ヲ建議ト爲サス議長ニ請求シ議長ヨリ内閣ニ請求シテ可ナラン然ルニ請求ニアラス建議ナリトセハ恐クハ本院ノ慣例ニ背戻セン定メテ議長ヘ請求スルコトナル可シ其疑ヒヲ判明セン爲メ一言陳述ス

○二番<sup>尾崎</sup> 六十八番ノ辯明領悉セリ本官ハ未タ議場ノ規則ニ慣レサレハ何如ンセハ自己ノ本旨ヲ達シ得ルヤヲ知ラス唯内閣委員ノ出席ヲ俟テ檢視會ヲ開クコトヲ欲スルノミ就テハ本官ヨリ議長ニ請求シ至當ト認メラレハ各議員ノ賛成ヲ俟タス内閣ヘ請求ス

ルヲ得ルモノナルカ若シ議長ノミニテハ内閣ヘ請求スルノ權ナシトナレハ之ヲ請求スルモ其効ナク議場ノ談話ニ過キス因テ建議ノ上議場ノ決議ニ任スヨリ他ニ方法ナシト思考ス敢テ議長ノ説明ヲ請フ

○議長 議長ニ於テ請求スルノ權ナキニアラス又多數決ヲ以テ公然請求スルモ内閣委員ハ議場ニ出席シテ詰問ヲ受クルヲ好マサルノミナラス檢視會ニ出席スルノ明文ナキヲ以テ或ハ之ニ應セサルモ知ルヘカラス若シ應セサルトキハ猶又之ニ應セシムル手段ヲ爲サ、ルヲ得ス本席ニ於テハ多數決ニヨリ公然請求ヲ爲サンヨリハ寧ロ内請スルノ穩カナルニ如カスト考フ但議場ニ於テ發議セルモノナレハ之ヲ建議ト爲シ衆議ニ問テ決スヘキ歟二番ノ意見ハ如何

○二番<sup>尾崎</sup> 本官ノ考ニハ未タ開會セサル前ナレハ内請ヲ爲スモ可ナランナレモ既ニ開會セシ上ハ議場ノ決ヲ取ル可キモノト信ス因テ已ムヲ得ス建議ト爲サントス否ラサレハ本官ノ質問ヲ要スル旨意モ徹底セス請求ト爲セハ内閣委員ノ出席ハ只後來ノ事ト爲リ本案ハ此儘ニ經過スルニ至ラン或ハ多數決ニヨリ請求スル上ハ必ス成シ遂ケサルヲ得ストノ論アランモ其諾否ハ他人ニ在ルヲ以テ豫メ知ル可ラス既ニ會議ヲ開キタル上ハ議案ヲ瞭解セスシテ經過セシムルノ理ナルヘシ故ニ諾否ハ忍モ角モ一應内閣ニ請求センコトヲ欲スレハ今日ハ延會アリタシ

○議長 今日ノ檢視會ヲ中止シ議長ヨリ請求シテ内閣委員ノ出席ヲ俟テ質疑ノ後檢視ヲ經過セントスルカ



○二番尾崎 議場ニ出席シテ説明スルヲ望ムナリ

○六十五番清岡 只今二番ノ發言ハ請求ナルヤ建議ナルヤ分明ナラサルモ内閣委員ノ出席ヲ望ム發言ハ無論建議ト見做シテ可ナラン會議ニ檢視ト議定トノ區別ハアル可キモ理論ハ暫ク措キ其望ム所ヲ達スルヲ得ハ可ナリ縱令檢視ナリトモ内閣委員出席スルヲ當然ト爲ス若シ檢視ニ出席セスシテ可ナリトモ議定ノ際ニモ説明ヲ要セサル場合ハ出席セスシテ可ナラン議場ニ詰問ヲ受ルヲ嫌フト云フモ内密ニ質問ヲ爲スノ理ナシ恒例ノ如ク議席ニ出テ説明アラント要ス因テ二番ノ建議ヲ賛成ス

○六十八番三浦 二番ノ陳述ヲ建議ト爲スハ本官不同意ナリ檢視會ニ内閣委員ノ出席セサルハ從來ノ慣例ニシテ今其慣例ヲ破ルハ不可ナリ但今日ノ如ク議論多キ上ハ議長ヨリ内閣委員ノ出席ヲ請フモ可ナレトモ二番ノ建議ニ就テ匆卒ニ事ヲ定ム可ラス因テ此檢視會ハ他日ニ延ハシ深ク考察シタル上ニテ計畫スルニ如カス從來ノ慣例ニモ拘ハラズ卒爾ニ新例ヲ立ルカ如キハ最モ慎シムヘキコトナレハ議長ノ熟考ヲ希望ス

○五十八番渡邊 六十八番ノ説ハ至極穩當ナリ又二番ノ言モ道理アリト思ヘハ免モ角モ今日ハ此ニ止メ勘考ノ上再ヒ開會スルヲ要ス

○二番尾崎 本官ノ建議ハ幸ニ賛成者アリシカ内閣委員ノ出席ヲ求ムル手續上ニ至テハ各官意見ヲ異ニセルカ如シ本官ハ強テ多數決ヲ求メス何レニテモ出席スルニ至レハ足レリ議長ノ意見ヲ以テ一時此會ヲ止メ他日更ニ開クモ可ナリ只此儘ニ檢視ヲ經過スルヲニ至リテハ本官ノ意旨達スル能ハス甚遺憾トスルヲ以テ議場ノ決議ヲ要シタルナリ

然ルニ六十八番ノ言ノ如ク一旦此會ヲ中止シ議長ヨリ内閣ニ請求シ本官ノ意旨從テ達スルヲ得ハ復タ遺憾ナシ

○議長 最早午時ニ近ケレハ本日ハ此ニ止メ後會ハ追テ報告セン  
午前第十一時五十分閉場

○明治二十年六月三日檢視會五月二十

議長 東久世 通緒

出席議員

一番	箕作 麟祥	二十二番	西 周
六番	永山 盛輝	二十四番	河田 景與
十一番	渡邊 驥	二十五番	綿貫 吉直
十三番	加藤 弘之	二十六番	岩村 定高
十五番	小畑 美稻	二十七番	伊丹 重賢
十七番	坂本 政均	二十八番	福羽 美靜
十八番	植村 正直	三十二番	岡内 重俊
十九番	長谷部辰連	三十三番	渡 正元
二十一番	神山 郡廉	三十四番	原田 一道

第五四三號 私設鐵道條例

十五



三十五番	楫取 素彦	五十五番	野村 素介
三十七番	長岡 護美	五十六番	中村 正直
三十九番	石井 忠亮	五十八番	渡邊 清
四十三番	本田 親雄	六十番	楠本 正隆
四十四番	中島 錫胤	六十一番	林 友幸
四十五番	鍋島 直彬	六十三番	田邊 太一
四十六番	大久保一翁	六十四番	津田 眞道
四十七番	上杉 茂憲	六十六番	村田 保
四十八番	細川潤次郎	六十八番	三浦 安
五十番	調所 廣丈	六十九番	何 禮之
五十二番	黒田 清綱	七十番	壬生 基修
五十四番	田中 芳男	七十一番	久我 通久

午前第九時四十分開場

○議長 第五百四十三號議案檢視會ノ續會ヲ開ク前會ニ二番ヨリ内閣委員出席ヲ請フノ發議アリテ賛成者アリシモ都合ニヨリ中止セリ偕檢視會ニ内閣委員ノ出席ヲ請フ可キヤ否ハ從前ノ慣例モアラサレハ公然ノ照會ニ依ラスシテ本席ヨリ申牒セント欲ス故ニ二番ノ發議ハ最早取決セサル可シ

○六十四番 眞道 前會ニ二番ノ發議セシヨリ事務紛紜ニ涉リ只今又議長ヨリモ演述アリタ

ルカ本官ノ見ル所ハ全ク二番ト反對ニシテ前會ニモ其理由ヲ辯セントセシモ其機會ヲ得サリシ偕二番其他ノ議官ヨリ内閣委員ノ臨席ヲ望ムハ職務ニ勉勵ナルノ證ナリト考フルモ從前檢視會ニ内閣委員ノ出席セシコラス縱令規則ニ明文ナキモ檢視案ニ對シ討議修正ヲ加フ可キ限ニアラサレハ縱令臨席ヲ請フモ到底無益ナル可シ若シ我元老院ヲ以テ歐米各國ノ議院ト同視ス可キ者トセハ檢視會ノ如キハ之レナキ筈ニシテ立法ノ權アル元老院ニテアリナカラ議案ノ檢視ニ付セラルハ不都合ナリ然レモ退テ今日ノ情況ヲ察スルニ此等ノ事ハ猶未タ怪ムニ足ラス外國人ノ眼ヲ以テ觀レハ我邦ハ半開ノ國ナラン半開ノ國トセハ此不都合モ不適當ニハアラサル可シ歐米各國ノ如ク立法部ニ充分ナル權力アリテ行政部分ニモ立チ入ル如キコアリトセハ何如恐クハ之レニ應スル準備ナキヲ以テ人民ハ却テ迷惑スルナラン凡ソ事物ノ齊シカラサル各時ノ宜シキニ從フ可キモノニシテ決シテ一様ナラシムル能ハス猶ホ此元老院中七十餘名ノ議官ノ各意見ヲ異ニスルカ如シ然ルニ其本ヲ揣ラス事々物々悉ク歐洲ニ摸倣セントスルモ決シテ意ノ如クナラサル可シ例ヘハ小兒生ルレハ初メハ生母乳母ニ依テ生活シ自ラ食フ能ハス漸ク生育シ二十四五歳ニ至テ始メテ眞ノ成人ト稱スル如シ半開ノ國ハ即チ丁男ニ至ラサル十三四歳ノ童子ナリ故ニ暫ク今日ノ習慣ニ從フ可トス二十三年ニ至レハ國會ヲ開クト云ヒ自今熱心ニ立法權ヲ確定スルノ望ヲ抱ク人アルモ恐クハ政府應用ノ資乏シク或ハ國會ト政府トノ間ニ葛藤ヲ生スルコモアルナラン或ハ國會ノ權過重ニシテ行政ノ權減縮スル如キ偏重偏輕ノ弊ヲ生スルコモアラン故ニ諸事凡テ時ノ宜シキニ從フヲ



可トス十四五歳ノ少年ハ縱令英敏ナリモ未タ大學ノ學科ヲ卒業スル能ハサレハ其十七八歳ニ至ルヲ待ツ可キハ勿論ナリトス我邦今日ノ景況ヲ以テ觀レハ元老院ヲ置クモ猶早キニ過クルヲ覺フ又日本ノ立法權ヲ本院ニ與ヘ以テ英國ノ如クシ場合ニ因テハ總理大臣ト雖モ辭表ヲ出サ、ルヲ得サルニ至ル如キハ二十三年ニ至ルモ尙ホ早シトスルナリ

○一番英作 六十四番ヨリ二番ノ建議ニ關シ陳辯アリ本官モ二番ノ說ニハ反對ナリ因テ簡單ニ反對ノ理由ヲ陳述セン二番ハ本條例ニ解シ難キ所アルヲ以テ内閣委員ノ説明ヲ望ムト云フモ本官ノ解セサル所ハ當ニ本條例ニ止マラス昨十九年政府組織ノ變更アリシ以來同一ノ布告ニシテ命令ト云フアリ法律ト云フアリ命令ノ中ニハ勅令閣令省令等アリテ公文式ハ大凡一定セルモ勅令ト法律トノ區別分明ナラス勅令ハ英語ノ「デクリー」法律ハ「ロウ」ト云ヘル語ニ當ルナラン然ルニ勅令ノ中ニハ檢視ニモ付セラレサルモノアリ又議定ニ付セラル、モノモアリ法律ノミ議定ニ付セラレテ勅令ニ關スル者ハ下付セラレサルカト思ヘハ必シモ然ラス勅令法律ノ區別何處ニ在ルヤ實ニ瞭解スル能ハサルナリ且政府ノ組織變更シ公文式出テシ以來法律ト爲シテ本院ニ下付アリシハ只法律第一號公證人規則ト第二號登記法ト二者アルノミ其他ハ悉ク勅令ナリ本官ノ考ヘニハ所得稅取引所條例ノ如キ皆法律ニ入ル可キモノトスルモ却テ勅令ト爲セリ他陸軍省官制監軍部條例學位令ノ如キモ皆勅令ナリシ或ハ法律ト名ク可キ者ハ佛國ノ五法即チ民法刑法治罪法訴訟法商法ニ屬スル者ヲ云フトノ說アルモ公證人規則ノ如キハ民法中

ノ證據篇ニ入ル可キ者ニ非スシテ代言人規則ノ如キモノナレハ五法中ニ入ル可シトハ思ハレス却テ取引所條例ノ如キハ佛國ニ於テハ五法中ノ商法ニ入レタリ勅令法律中ニハ議定ニ付スルアリ檢視ニ付スルモアリ又付セサルモアリ此條例ノ檢視ニ付セラレタルハ幸ニシテ縱令下付ナシト雖モ如何トモスル能ハサルナリ且他ニ比スレハ瞭解シ易キ方ナレハ故サラニ内閣委員ノ出席ヲ求ムルニ及ハス因テ一應勅令法律ノ區別尤モ瞭解シ難キ疑ヒヲ述ヘ併セテ不贊成ノ意ヲ表ス

○四十八番細川 大郎 本官モ只今一番ノ述フル所、略ホ同感ナリ從前檢視會ニ内閣委員ノ出席ヲ求ムルハ無用ノ事ナリトシ今日迄其事ナカリシナラン今日コソ檢視議案ノ數ハ減少セシモ前年ニハ議案ノ過半數ハ檢視ニ付セラレ其中ニハ趣意ノ瞭解シ難クシテ不安心ノ者アリシモ本院ニ於テ修正ヲ爲ス能ハサルカ故ニ内閣委員ノ出席ヲ請求スルモナク其儘ニ經過セリ一人ノ思想ヲ以テ此ノ如キ事ヲ爲スハ或ハ可ナルモ集合体ヲ以テ成立セル本院ノ如キハ遽カニ從前ノ慣例ヲ變易スヘカラス且議院ハ慣例ヲ重シ各人ノ思想ヲ整一スルモノナレハ一人ノ思想ヲ以テ慣例ヲ破ルハ甚望マサル所ナリ元來議案ヲ檢視ニ付スルハ不都合ナレトモ慣例ヲ重シ議長初メ各議官モ未タ曾テ不同意ヲ唱ヘサリシナリ既往ニ徵シテ此ノ如クナレハ將來モ不可ナカラン本官ハ斷シテ守舊主義ヲ持スルナリ又半開ノ國ナレハ議案ヲ檢視ニ付スル位非ハ當然ナリト云フ論者アレトモ獨リ半開ノ國ノミナラス何國ト雖モ之ニ類スルコトナキニ非ス議院ハ常ニ開キアルモノニ非ス必ス開會期アリ其未タ開カサルニ方テ一條例ヲ布告スルノ必要アレハ已ムヲ



得ス便宜布告シ兩院ノ開會ヲ俟ツテ更ニ認可ヲ經ルハ固ヨリ開明國ノ法ナリトス我國ニ於テハ將來何如ナル法ヲ用フルヤ矢張歐洲ノ法ニ從フナル可シ然レハ開明國ニモ檢視ニ類スルコトアルハ明カナリ且前議長等ノ配意ニ因リ近來漸ク檢視案ノ數ヲ減シ大概ハ議定ニ付セラル、ニ至リタルカ此案ハ何故カ偶々檢視ニ付セラレタリ本官別ニ其故ヲ聞サルモ急施ヲ要スルヲ以テ已ムヲ得サルニ出シナラン願フニ一番議官ノ意モ本官ト同一ノ感ナラント信ス元來此案ハ商法ニ關係ヲ有セリ本院向キニ商社法ヲ議定上奏セシモ未タ發布ニ至ラス若シ商社法ヲ發布スレハ此條例ハ之レナキモ可ナルモ否ラサル上ハ必要ナルヘシ近來株式ノ事ハ往々投機ノ性質ヲ帶ヒ許可ヲ得ルヤ否ヤ爭フテ株主ダランヲ求メ其株券漸ク質值ヲ増シ賣買轉讓特ニ劇シ故ニ政府モ頗ル此ニ配意アリテ本案ヲ發布シ即チ商法中ノ商社法ニ代用シタルモノニシテ豫メ其弊害ノ生センコトヲ察シ急施ヲ要セシナラン既ニ檢視案ノ下付アリ又急施ヲ要スル理由アレハ其手順ニ於テモ決シテ當ヲ得サルニ非ス且本案ハ不明不備ト認ムルノ箇所モ之レナケレハ内閣委員ノ出席ヲ請求スルヲ要セスト信ス因テ此儘ニ檢視ヲ經過セシムルヲ可トス

○五十八番 渡邊 本官前會ニ於テ内閣委員ノ出席ヲ請求セント云ヒシハ特ニ本案ニ就テ言ヒタルニ非ス將來ニ希望セシナリ又二番ノ說ヲ贊成シタルハ本條例中解シ難キ所アルヲ以テナリ第十九條貨錢ノ定メ方從來ト異ナリ何如ノ都合ニ因ルヤ又第三十二條ノ「負債ノ元利金」云々第二十四條ノ「二箇以上ノ私設鐵道」云々ノ如キ分明ナラサルアリ因テ内閣委員ニ質問セント欲シ其出席ヲ要セシニ豈圖ン種々ノ反對論疊出シ本官ノ思考

ト漸次殊途ニ涉レリ某官ハ議案ノ中下付スル者ト下付セサル者ト檢視ニ付スル者トノ三様アリ此等ノ事ノ瞭解シ難クシテ此案ニノミ内閣委員ノ出席ヲ請フモ益ナシト云ヒ又二十三年ニ至ルモ此等ノ事ハ免レスト云フカ如キ國會ヲ開クノ後モ今日ノ如ク檢視ヲ置クトスルカ若シ然ラハ憲法ノ精神到底達スル能ハサル可シ且檢視ニ付スル者ト付セサル者トアリト云フモ本官ハ檢視ニ付スル者ハ本ト議定ニ付ス可キ性質ノ者ナルモ已ムヲ得サルノ情實ト至急ヲ要スルノ便宜上ヨリ檢視ニ付スルコト考フルナリ最早此案ニハ説明委員ヲ請求セサルモ可ナリ但將來ニ望ム所ハ縱令急施ヲ要スル件ナリモ本院ニ於テ其心得ヲ以テ晝夜勉強シテ議定スルヲ得可ケレハ此ノ如キ案ハ必ス議定ニ付セラレシコトヲ

○三十三番 渡邊 本官ハ忌引中ニテ前會ニ出席セサリシヲ以テ二番ノ發議如何ヲ聞クヲ得サリシモ議長ノ演告ト各議官ノ陳述ニ因テ大体ノ趣意ヲ領會セリ其意内閣委員ノ説明ヲ請フニ在ルモ明治八年ニ制定セシ議事條例ノ今日ニ至テ議論ヲ生スルハ實ニ不可思議ノ事ナリ若シ條例ノ不明不備ナルコトアレハ八年ヨリ今年迄十餘年間ニ屢ハ議論ノ起ル可キ筈ナリ本官ハ議案檢視條例ヲ讀ミ檢視ニ對シテハ内閣委員ヲ請求スルコトナシト領會シタレハ今一言陳述ス可シ檢視條例ノ第一條ニ議案ノ檢視ニ係ルモノハ元老院ニ於テ可否スルコトヲ要セス又修正ノ權ナシ故ニ委員ヲ用ヒス直ニ衆議院ヲ會シ全案ヲ朗讀ス可シ而シテ逐條分議スルコトヲ用ヒストアリ然レハ内閣ニ於テ急施ヲ要スルカ又ハ事情已ムヲ得ス本院ノ議定ニ付セスシテ公布スルコトアレハ其議案ハ公布ノ時直ニ



現行法ノ一部トナリ之ニ對シテハ元老院ニ於テ可否スル權モ修正ヲ加フルノ權モ有セサルカ故ニ其主旨ヲ辨明スルノ必要ヲ見ス或ハ唯委員トノミアリテ内閣委員ト明示セサル故ニ内閣委員ナルヤ元老院ノ委員ナルヤ分明ナラスト云フモノアランモ條例ヲ熟考スレハ既ニ發布ト同時ニ現行法トナル以上ハ之ニ向テ可否修正ノ無用ナレハコソ内閣ヨリモ説明委員ヲ派出セサルコトハ明カナリ然ルニ若シ其檢視案ニシテ他ノ法律ニ抵觸矛盾スルカ或ハ案中ノ條項相矛盾スルアレハ意見書ヲ以テ上奏ス可キノ路アリ故ニ本官ハ到底内閣委員ハ出席セサルモノト領會セリ且從來ノ慣例ニモ檢視條例設定以來内閣委員ノ出席セシコトハ未タ曾テ之レ無シト信ス然レハ此檢視案ニノミ不備不明ヲ感スルト云フヲ以テ内閣委員ノ出席ヲ請フハ條例ノ明文ニ背キ不容易ノ事ナラン果シテ本官見解ノ如クナラハ縱令檢視案ニ不明不備ヲ感スルモ委員ノ出席ハ爲シ能ハサルヘシ因テ此ニ一言シテ各議官ノ參考ニ供セントス

○議長 他ニ發議ナクハ決ヲ取ラン木案ヲ不明不備ナラスト認ムル者ハ起立セヨ  
起立者四十一人

○議長 多數ナルヲ以テ木案ニ決シ檢視ヲ經過セル趣ヲ具シテ上奏セン散會セヨ  
午前第十時三十分閉場

元老院會議筆記

○第五百四十四號議案 逃亡犯罪人引渡條例

○明治二十年六月廿四日 第一讀會

議長 大木 喬任

出席議官

一番	箕作 麟祥	十七番	坂本 政均
二番	尾崎 三良	十八番	榎村 正直
三番	神田 孝平	十九番	長谷部辰連
四番	山口 尙芳	二十番	東久世通禧
五番	永山 盛輝	二十一番	神山 郡廉
六番	大迫 貞清	二十二番	西 周
七番	渡邊 驥	二十三番	穴戸 璣
八番	加藤 弘之	二十四番	河田 景與
九番	伊東 祐啓	二十五番	綿貫 吉直
十番	小畑 美稻	二十六番	伊丹 重賢
十一番	伊集院兼寛	二十七番	宮本 小一
十二番		二十八番	
十三番		二十九番	
十四番		三十番	
十五番			
十六番			



三十二番	岡内 重俊	五十五番	野村 素介
三十三番	渡 正元	五十六番	中村 正直
三十四番	原田 一道	五十七番	長松 幹
三十五番	楫取 素彦	五十八番	渡邊 清
三十九番	石井 忠亮	五十九番	橋口 兼三
四十番	由利 公正	六十番	楠本 正隆
四十一番	安藤 則命	六十一番	林 友幸
四十三番	本田 親雄	六十三番	田邊 太一
四十四番	中島 錫胤	六十五番	清岡 公張
四十五番	鍋島 直彬	六十六番	村田 保
四十六番	大久保一翁	六十七番	鶴田 皓
四十七番	上杉 茂憲	六十八番	三浦 安
五十一番	調所 廣丈	六十九番	何 禮之
五十二番	黒田 清綱	七十番	王生 基修
五十四番	田中 芳男	七十一番	久我 通久
内閣委員		法制局參事官	廣瀬 進一
番外一番		法制局參事官	水野 遵
番外二番			

午前第九時二十分開場

○議長 第五百四十四號議案ノ第一讀會ヲ開ク朗讀ハ通牒文ニ止ム

書記官 森山 朗讀

逃亡犯罪人引渡條例

右其院議定ニ付ス

明治二十年六月十七日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

元老院議長伯爵大木喬任殿

左案ハ朗讀ナカリシモ參觀ニ便セン爲メニ附載ス

逃亡犯罪人引渡條例

第一條 本條例ニ於テ締約國ト稱スルハ既ニ帝國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シ若クハ今

後締結スル外國ヲ謂フ

引渡犯罪ト稱スルハ外國ト締結シタル犯罪人引渡條約ニ掲グル犯罪ヲ謂フ

逃亡犯罪人ト稱スルハ締約國ノ管轄内ニ於テ犯シタル引渡犯罪ニ付告訴發シ受ケ

若クハ有罪ノ宣告ヲ受ケタル帝國臣民外ノ人ニシテ帝國ノ管轄内ニ逃避シタル者又

ハ逃避シタル嫌疑若クハ逃避セントスルノ嫌疑アル者ヲ謂フ但左ノ場合ニ於テハ帝

國臣民ヲ包含ス



一 帝國ト請求國トノ犯罪人引渡條約ニ帝國臣民ノ引渡ヲ爲スヘキ條款アルトキ  
 二 犯罪人引渡條約ニ締約國ノ任意ヲ以テ其臣民ノ引渡請求ニ應スルコトアルヘキ  
 旨ノ條款アリ且引渡請求國ニ於テ同様ノ場合ニハ自國ノ臣民ヲ相互ニ引渡スヘ  
 キ旨ヲ申出テタルトキ

第二條 締約國ヨリ逃亡犯罪人ノ引渡請求アリ之カ引渡ノ目的ヲ以テ其手續ヲ爲スト  
 キハ本條例ニ定ムル所ノ條款ニ據ルヘキモノトス

第三條 左ノ場合ニ於テハ逃亡犯罪人ヲ引渡スコトヲ得ス

- 一 引渡ノ請求ニ係ル者ノ所犯政事上ノ罪ナルトキ
- 二 引渡ノ請求ハ實際政事上ノ犯罪ニ付審問シ若クハ處刑セントスルノ目的ニ出テ  
 タル旨ヲ本人ニ於テ證明シタルトキ

第四條 逃亡犯罪人其引渡請求ニ係ル犯罪外ノ事件ニ付帝國管轄内ニ於テ告訴告發ヲ  
 受ケ又ハ處刑中ナルトキハ無罪又ハ刑期滿限若クハ其他ノ事由ニ因リ解放セラレタ  
 ル後ニアラサレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

第五條 帝國ト外國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シタルトキハ逃亡犯罪人ノ犯時其締約以  
 前ニ係ルト雖モ該締約國ノ請求ニ應シ其引渡ヲ爲スコトアルヘシ

第六條 引渡犯罪ニ付帝國裁判所ニ於テ締約國裁判所ト均等ノ裁判權ヲ有スト雖モ若  
 シ司法大臣ノ意見ニ於テ其審判ヲ便ナラシメンカ爲メ逃亡犯罪人ノ引渡ヲ可トスル  
 トキハ之ヲ引渡スコトアルヘシ

第七條 本條例ニ據リ發シタル總テノ逮捕狀ハ帝國內何レノ地ニ於テモ効力アルモノ  
 トス

第八條 一逃亡犯罪人ヲ二國以上ノ締約國ヨリ各其國ニ於テ犯シタル罪ノ爲メ引渡請  
 求ヲ爲シタルトキハ最初請求ヲ爲シタル國ニ之ヲ引渡スヘシ但其請求ヲ爲シタル締  
 約國間ニ特別ノ約束若クハ協議アル場合ハ此限ニ在ラス

第九條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一名若クハ二名以上ノ上席檢事ニ命シ逃亡  
 犯罪人ヲ假ニ逮捕スル爲メ附録第一號書式ニ據リ令狀ヲ發セシムルコトヲ得

外務大臣ハ締約國ヨリ相當ノ順序ヲ經由シ書面又ハ電信ヲ以テ逃亡犯罪人ヲ逮捕ス  
 ル爲メ既ニ令狀ヲ發シタルコトノ通知ト其引渡ハ正式ニ依リ請求スヘキ旨ノ保證ト  
 ニ接シタル後ニ限リ本條ノ請求ヲ爲スヘシ

第十條 假逮捕狀ニ依リ逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル場合ニ於テ二月ヲ過キサル相當ノ期  
 限内ニ其引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ解放スヘシ但此場合ニ於テ逮捕シタル者ヲ解放  
 スルモ再ヒ之ヲ逮捕シ及引渡スコトヲ妨ケサルモノトス

假逮捕狀ニ據リ逮捕シタル者ノ引渡請求アリタルトキハ更ニ附録第二號書式ノ令狀  
 ヲ發シ假逮捕狀ト交換スヘシ

第十一條 第九條ニ定メタル場合ヲ除クノ外ハ引渡請求ヲ爲シタル國トノ條約ニ定メ  
 タル相當ノ順序ヲ經由シ左ノ書類ヲ添ヘ引渡ノ請求アリタル後ニアラサレハ何人ヲ  
 モ引渡ノ目的ヲ以テ逮捕スルコトヲ得ス



一 告訴發發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其所犯ニ付訴アリタル國ノ相當官吏ニ於テ發シタリト認メ得ヘキ逮捕狀ノ公寫及該逮捕狀ヲ發スルノ根據ト爲リタル口供書若クハ陳述書ノ公寫

二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ證印アル宣告書ノ寫

第十二條 外務大臣引渡請求書ニ接シ犯罪人引渡條約ノ條款ニ適合シタリト思量スルトキハ該請求書ニ其關係書類ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ送付スヘシ

司法大臣本條ノ請求ニ接シ妥當ノ事由アル請求ト思量スルトキハ逃亡犯罪人ノ所在又ハ其到來スヘシト認ムル地ノ上席檢事ニ命シ逮捕狀ヲ發セシムヘシ

第十三條 上席檢事前條ニ掲ケタル司法大臣ノ命令ニ接シタルトキハ附錄第二號書式ニ據リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十四條 請求ニ係ル逃亡犯罪人ヲ逮捕シタルトキハ假ニ逮捕シタルト否トニ係ハラズ其逮捕狀ヲ發シタル上席檢事又ハ之ヲ逮捕シタル地ノ上席檢事ニ引渡スヘシ

上席檢事ハ逃亡犯罪人逮捕ノ顛末ヲ直ニ司法大臣ニ具申スヘシ

司法大臣上席檢事ノ具申ニ接シタルトキ引渡請求書アレハ其寫及附屬書類ヲ速ニ該檢事ニ送付スヘシ但被告人ヲ解放スヘキノ命令ヲ發スルトキハ此手續ヲ爲スニ及ハス

第十五條 告訴發發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及引渡請求書ニ附屬セル書類ノ確實公正ナルコトヲ認定スヘシ但上席檢事該

書類ノミニテハ證據不充分ナリト認ムルトキハ仍ホ被告人ノ犯罪ニ對スル證據ヲ取ルコトヲ得

有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及其引渡ヲ請求シタル締約國ノ相當裁判所ニ於テ宣告ヲ爲シタルノ確實ナルコトヲ認定スヘシ

第十六條 上席檢事被告人ノ訊問ヲ結了シタルトキハ訊問書ニ其處分方ニ關スル意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ進達スヘシ但上席檢事ハ之ト共ニ引渡請求書寫及附屬書類ヲ返却スヘシ

司法大臣該檢事ノ申告ニ接シタルトキハ附錄第三號書式ニ據リ引渡狀ヲ發スルカ又ハ逮捕シタル者ヲ解放スヘシ

第十七條 逃亡犯罪人ハ逮捕狀ニ據リ逮捕セラレタル後二月以上留置セラルハコトナカルヘシ

第十八條 司法大臣ハ左ノ場合ニ限リ引渡狀ヲ發スルコトヲ得

- 一 引渡犯罪ニ付告訴發發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ若シ其告訴發發ヲ受ケタル罪ヲ帝國内ニ於テ犯シタルトキハ帝國ノ法律ニ據リ審判スヘキ犯罪ノ證據充分ナリト認メタルトキ
- 二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ相當裁判所ニ於テ其宣告ヲ爲シタルコトヲ認メタルトキ



第十九條 闕席裁判ニ由リ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其引渡ヲ請求シタル締約國トノ  
 間ニ特別ノ約款アルニ非サレハ本條例ニ於テハ之ヲ告訴發テ受ケタル者ト爲シ有  
 罪ノ宣告ヲ受ケタル者ト認メス

第二十條 逮捕シタル者ヲ解放シ又ハ其引渡ノ爲メ令狀ヲ發シタルトキハ司法大臣ハ  
 其執行シタル手續及其理由ヲ略記シ之ヲ引渡請求書及附屬書類ニ添ヘ外務大臣ニ返  
 付スヘシ

第二十一條 引渡狀ヲ發シタル後何人ヲモ一月以上留置スルコトヲ得ス但此期限内ニ  
 之ヲ帝國外ニ引取ラサルトキハ請求國相當官ニ於テ正當ノ事由ヲ示スニアラサレハ  
 解放スヘシ

第二十二條 逃亡犯罪人ヲ請求國ニ引渡ストキハ其逮捕ノ際差押ヘタル本人ノ携帶品  
 ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其引渡ノ節本人ト共ニ悉ク之ヲ交付スヘシ

第二十三條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ據リ一外國ヨリ他ノ外國ニ引渡シタル者ノ  
 帝國版圖内海陸ノ通行ヲ認可スルコトヲ得

本條ノ請求ハ引渡ヲ受クヘキ國ノ政府ヨリ引渡狀ノ公寫ヲ添ヘ相當ノ順序ヲ經由シ  
 タル照會書ヲ外務大臣ニ於テ受領シタルトキニ限ル但帝國ト請求國トノ間ニ特別ノ  
 約款ナキトキハ該請求國ノ政府ニ於テ之ト同一ノ場合則チ第三國ヨリ帝國ヘ逃亡犯  
 罪人ヲ引渡シタルトキニ該國版圖内海陸ノ通行ヲ均シク認可スヘキノ保證ヲ爲シタ  
 ル場合ニ限り其通行認可ノ請求ヲ爲スコトヲ得

附 錄

第 一 號 書 式

假逮捕狀

逮捕セララルヘキ者ノ氏  
名年齢本貫住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ犯罪人引渡條例  
 ニ據リ此令狀ヲ發シ右ニ掲タル、  
 、ニ於テ、  
 、ノ犯罪ニ付  
 有罪ノ宣告  
 ヲ受タル、  
 、國ノ逃亡犯罪人、  
 、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘ  
 キコトヲ命スルモノ也

檢事局

上席檢事署名捺印

明治年月日

裁判所書記署名捺印

割 印

(此令狀ヲ送達シ  
一葉ヲ受取人ニ  
渡スヘシ)

(英譯文ヲ令狀ノ  
裏面ニ記スヘシ)

逮捕ヲ受タル者ノ  
署名若シ之ヲ得ル  
能ハサルトキハ其  
理由ヲ記スヘシ

令狀執行ノ  
年月日時

令狀執行ノ  
場所

令狀執行ノ  
手續

家宅ヲ搜索シタル  
トキハ其事實ヲ記  
スヘシ

右ノ通執行候也

明治年月日

巡查又ハ憲兵署名捺印

假逮捕狀

逮捕セララルヘキ者ノ氏  
名年齢本貫住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ犯罪人引渡條例  
 ニ據リ此令狀ヲ發シ右ニ掲タル、  
 、ニ於テ、  
 、ノ犯罪ニ付  
 有罪ノ宣告  
 ヲ受タル、  
 、國ノ逃亡犯罪人、  
 、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘ  
 キコトヲ命スルモノ也

檢事局

上席檢事署名捺印

明治年月日

裁判所書記署名捺印

割 印

(此令狀ヲ送達シ  
一葉ヲ受取人ニ  
渡スヘシ)

(英譯文ヲ令狀ノ  
裏面ニ記スヘシ)

逮捕ヲ受タル者ノ  
署名若シ之ヲ得ル  
能ハサルトキハ其  
理由ヲ記スヘシ

令狀執行ノ  
年月日時

令狀執行ノ  
場所

令狀執行ノ  
手續

家宅ヲ搜索シタル  
トキハ其事實ヲ記  
スヘシ

右ノ通執行候也

明治年月日

巡查又ハ憲兵署名捺印



式書號二第

**逮捕狀**

逮捕セラレヘキ者ノ氏  
名年齢本貫住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ犯罪人引渡條例  
ニ據リ此令狀ヲ發シ右ニ掲タル、  
ニ於テ、  
ノ犯罪ニ付<sup>告訴</sup>  
ヲ受タル、  
ノ國ノ逃亡犯罪人、  
ノ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘ  
キコトヲ命スルモノ也

檢事局 上席檢事署名捺印  
明治年月日 裁判所書記署名捺印

家宅ヲ搜索シタル トキハ其事實ヲ記	逮捕ヲ受タル者ノ 署名若シ之ヲ得ル 能ハサルトキハ其 理由ヲ記スヘシ	令狀執行ノ 年月日時	令狀執行ノ 場所	令狀執行ノ 手續	右ノ通執行候也 明治年月日 巡查又ハ憲兵署名捺印
----------------------	---	---------------	-------------	-------------	--------------------------------



(此令狀ヲ送達シ  
一葉ヲ受取人ニ  
渡スヘシ)

(英譯文ヲ令狀ノ  
裏面ニ記スヘシ)

**逮捕狀**

逮捕セラレヘキ者ノ氏  
名年齢本貫住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ犯罪人引渡條例  
ニ據リ此令狀ヲ發シ右ニ掲タル、  
ニ於テ、  
ノ犯罪ニ付<sup>告訴</sup>  
ヲ受タル、  
ノ國ノ逃亡犯罪人、  
ノ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘ  
キコトヲ命スルモノ也

檢事局 上席檢事署名捺印  
明治年月日 裁判所書記署名捺印

家宅ヲ搜索シタル トキハ其事實ヲ記	逮捕ヲ受タル者ノ 署名若シ之ヲ得ル 能ハサルトキハ其 理由ヲ記スヘシ	令狀執行ノ 年月日時	令狀執行ノ 場所	令狀執行ノ 手續	右ノ通執行候也 明治年月日 巡查又ハ憲兵署名捺印
----------------------	---	---------------	-------------	-------------	--------------------------------



式書號三第

引渡狀

引渡サルヘキ者ノ  
氏名年輪本貫住所

犯罪人引渡條例ニ遵ヒ此狀ヲ發シ右ニ  
掲タル明治、年、月、日附ノ  
(逮捕狀)ニ依リ、國ニ於テ、ノ犯  
(假逮捕狀)ニ依リ、國ニ於テ、ノ犯  
罪ニ付<sup>告訴</sup>有罪ノ宣告ヲ受タル逃亡犯罪人  
トシテ明治、年、月、日逮捕シ  
タル、ヲ受取コトヲ相當ニ命セラレ  
タル、ニ之ヲ引渡スヘキコトヲ命ス  
因テ前舉受取人、ニ於テ右、ヲ監  
禁シ、國ノ管轄内ニ送致シ右、ヲ  
受取ルヨトヲ命セラレタル者ノ監禁ニ  
付スルコトヲ命スルモノ也

令狀執行 ノ年月日	時	執行 タル場	所	引渡サレタル者 ヲ交付セラレタ ル者ノ署名	右ノ通執行候也
明治年月日					引渡サルヘキ者ヲ留置シタ ル監獄ノ典獄ノ署名捺印

割印

(此令狀ヲ送達シ  
一葉ヲ受取人ニ  
渡スヘシ)

(英譯文ヲ令狀ノ  
裏面ニ記スヘシ)

引渡狀

引渡サルヘキ者ノ  
氏名年輪本貫住所

犯罪人引渡條例ニ遵ヒ此狀ヲ發シ右ニ  
掲タル明治、年、月、日附ノ  
(逮捕狀)ニ依リ、國ニ於テ、ノ犯  
(假逮捕狀)ニ依リ、國ニ於テ、ノ犯  
罪ニ付<sup>告訴</sup>有罪ノ宣告ヲ受タル逃亡犯罪人  
トシテ明治、年、月、日逮捕シ  
タル、ヲ受取コトヲ相當ニ命セラレ  
タル、ニ之ヲ引渡スヘキコトヲ命ス  
因テ前舉受取人、ニ於テ右、ヲ監  
禁シ、國ノ管轄内ニ送致シ右、ヲ  
受取コトヲ命セラレタル者ノ監禁ニ付ス  
ルコトヲ命スルモノ也

令狀執行 ノ年月日	時	執行 タル場	所	引渡サレタル者 ヲ交付セラレタ ル者ノ署名	右ノ通執行候也
明治年月日					引渡サルヘキ者ヲ留置シタ ル監獄ノ典獄ノ署名捺印

印



○外番<sup>廣瀬</sup> 本案ハ昨明治十九年十月八日ノ勅令ヲ以テ日本國ト亞米利加合衆國トノ間ニ締結セシ兩國犯罪人引渡ノ條約アルニ由リ即チ此條例ナカル可ラサルニ至レリ唯日本ト合衆國トノ間ニ必要ナルノミナラス今後締盟各國間ニ合衆國ト同一ナル條約ヲ結フニ際シテモ亦必要ナリトス各官此意ヲ領シ速カニ議定アラントヲ希望ス各條ノ意義ニ就テハ質問ヲ俟ツテ之ニ答ヘン

出席

六十四番

津田 眞道

○六十六番<sup>保村 田</sup> 只今内閣委員ノ辯明セシ如ク犯罪人引渡ノ條約アル上ハ此條例ノ必要ナルハ勿論亞米利加英吉利等ニモ既ニ此條例アリテ尤モ詳悉ナリトス本案ハ英吉利ノ條例ニ類似シタレハ蓋シ則チ彼レニ取リシナラン其大体ハ大ニ賛成スレトモ條中往々瞭解シ難キ所アレハ一二質問セン第四條ニ「逃亡犯罪人其引渡請求ニ係ル犯罪外ノ事件ニ付云々」犯罪外トハ其條約面ニ載スル殺人強盜放火等ノ外ヲ指スニ似タリ然ルトキハ日本帝國内ニ於テ條約面ニ掲グルト同一ナル罪ヲ犯シタルトキハ何如ノ處分ヲ爲スヤ分明ナラス或ハ自國ニ於テ罪ヲ犯シタルノ外ニ日本國內ニ於テ何等ノ罪ヲ犯スモ刑期滿限又ハ他ノ事由ニ因リ解放セラレタル後ニアラサレハ引渡サスト云ヘル主意ナルカ若シ然ラハ犯罪外ト云フハ甚語弊アリ又第九條ニ「司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一名若クハ二名以上ノ上席檢事ニ命シ」云々上席ト云ヘハ一名ナル可キニ二名以上トアリ又第十二條第二項ニ「逃亡犯罪人ノ所在又ハ其到來スヘシト認ムル地ノ上席檢事ニ命シ」云々トアリテ此ニハ二名以上ナルコトヲ示サス前ノ第九條ニ二名ヲ要ス



ルトセハ第十二條ニモ之ヲ要スルナルヘキニ其然ラサルハ何如又第十四條第十五條ニ被告人ノ文字アルモ第一條ニ逃亡犯罪人タルノ解釋ヲ爲セル上ハ本條ノ亦被告人モ亦何如ナル者トノ解釋ヲ爲ス可キニ似タリ然ルニ之レナキハ何如且特ニ被告人ト掲ケタルヲ見レハ第一條ニ在ル逃亡犯罪人ト同一ノモノニ非ルニ似タリ第十七條ニ逃亡犯罪人ハ逮捕狀ニ據リ逮捕云々又第十條ニハ「假逮捕狀ニ據リ逮捕云々兩條トモニ逮捕ノ後二ヶ月ヲ過キテ請求ナキトキハ之ヲ解放スルコトセリ然ルニ第十條ノ末項ニ「假逮捕狀ニ據リ逮捕シタル者ノ引渡請求アリタルトキハ更ニ附録第二號書式ノ令狀ヲ發シ假逮捕狀ト交換スヘシ」トアルヲ見レハ假逮捕狀ニテ一ヶ月間留置シ本逮捕狀ニテ更ニ二ヶ月留置シ并セテ四ヶ月ノ留置トナラン即チ二ヶ月以上留置セサルノ主旨ト相反スルニ似タリ疑點ノ在ル所大概此ノ如シ因テ内閣委員ノ辯明ヲ煩ス

○<sup>外番</sup>第一番<sup>廣瀬</sup> 六十六番ノ質問ニ答ヘン第四條ノ犯罪外ノ事件トハ例ヘハ合衆國ニ於テ犯シタル罪ノ外日本帝國内ニ於テ別ニ犯シタルモノヲ謂フ單ニ犯罪ト書スルモ可ナレトモ法律原則ニ於テ裁判未定中ハ罪人ト看做ス能ハサルヲ以テ故サラニ事件ノ文字ヲ用ヒタリ若シ合衆國ヨリ犯罪逃亡人ニ付引渡請求アランニ其逃亡人ノ日本帝國内ニ於テ又同一ノ罪ヲ犯シ其繼續犯ナルトキハ第六條ニ依リ司法大臣ノ意見ニ於テ審判ヲ便ナラシメン爲メ直ニ合衆國ニ引渡スコアリ又ハ日本ニ於テ審判スルコトモアリ然ルニ第四條ハ繼續犯ニ非スシテ其引渡請求ニ係ル犯罪ノ外日本ニ於テ別ニ罪ヲ犯シ告訴ヲ受ケタルトキヲ云フ又第九條ノ「一名若クハ二名以上ノ上席檢事ニ命シニ云々元來一裁判

所ニ上席檢事一名ナルモ犯罪人ヲ假ニ逮捕スル爲メ便宜ニ依リ甲乙兩裁判所ヨリ同時ニ令狀ヲ發スルコトアルヲ顯ハシタルナリ然ルニ第十二條ニ至テハ唯上席檢事ト云フ即チ同地ニ二名以上ノ上席檢事ナク且ツ之ヲ要セサルコトハ自ラ明瞭ナレハナリ又第十七條ニ逃亡犯罪人ノ逮捕狀ニ據リ逮捕セラレタル後其留置ハ二月以上ニ及フ可ラサルヲ示スモ第十條ノ假逮捕狀ニ據リ逮捕シタルトキモ二月ヲ過キサル期限内ニ解放ストアレハ其留置并セテ四ヶ月ニ亘ルニ非スヤトノ質問ナルカ實際ハ四ヶ月或ハ五ヶ月ニ亘ルヤモ計リ難シ何トナレハ本逮捕狀ニ據リ逮捕シタル者二月ヲ經過シテ放免シタル上ハ再ヒ逮捕スルヲ得サルモ假逮捕狀ヲ以テ逮捕シタル者ハ二ヶ月留置ノ後解放スルモ再三之ヲ逮捕スルヲ得レハナリ疑點ハ此ニテ瞭解アリシナラン

出席

三十七番

長岡 護美

○<sup>英作</sup>第一番<sup>詳</sup> 本官モ賛成ス日本帝國モ漸次航海ノ便ヲ得テ各國人民自ラ輻湊スルニ至リシナレハ其中ニハ定メテ犯罪人モ來ルナラン故ニ亞米利加合衆國トハ既ニ犯罪人引渡ノ條約ヲ締結シタリ今後猶英吉利佛蘭西獨逸等ノ國トモ此條約ヲ結フニ至ル可ケレハ引渡ニ關シ内地ニ施行スル條例ヲ制定スルハ固ヨリ必要ナリ此條例ヲ英吉利ノ引渡條例ト比較セシニ某官ノ言ノ如ク彼此甚相似タレハ蓋シ則チ英吉利ニ取リシナラン一例ヲ舉レハ本案第四條ノ「犯罪外ノ事件」ト云ヘル事件ノ字ハ即チ英吉利ノ條例第三條ノ「オツフエンス」ニシテ「オツフエンス」ハ犯罪トモ事件トモ譯スレハ都合ニ依リ事件ト譯セシナラン而シテ内閣委員ノ答ニ米國ニテ或種ノ罪ヲ犯シ日本ニ來テ更ニ同一ノ罪ヲ



犯ス者ト云ヒシモ英吉利ノ條例ニ依レハ請求ニ係ル犯罪外ノ事件トハ同種ニ限ルニ非  
 ス米國ニテ謀殺ヲ犯シ日本帝國ニテ放火盜賊ノ罪ヲ犯シタル如キ其放火盜賊ノ罪ハ即  
 チ犯罪外ノ事件タリ此事ニ限り英吉利ノ條例ト異ニセシハ如何ナル理由アルハ知ラサ  
 ルモ既ニ大体英吉利ト相類スルノ條例ナレハ是レ亦英吉利ニ依ルヲ可トス此等ノ事ハ  
 條約面ニ詳悉セルナランモ其條約ヲ施行スル爲メノ條例ナレハ條例完全ナラサレハ條  
 約モ圓滑ニ行ハル、ニ至ラス交際上ニ影響ヲ及ホスアラントス因テ此條例ハ一層注意  
 ヲ要ス又第三條政事上ノ犯罪即チ「ポリチカル、オッフエンス」ニ就テハ請求ヲ受クルモ  
 之ヲ引渡サ、ルコナレトモ政事上犯罪ノ界域ニ就テ各自意見ヲ異ニスルトキハ彼此ノ  
 間ニ紛議ヲ生シ隨テ交際上ニ影響スルハ勿論ナリ此等ハ豫メ外國公使ニ協議セシコト  
 思フモ條約改正モ未タ完結ニ至ラサル場合ナレハ外國ニ關スル事ハ尤モ慎思セサル可  
 ラス先年石油取締規則ヲ本院ノ議定ニ付セラレシトキ本官ハ石油ハ外國ヨリノ輸入品  
 ナレハ或ハ此規則ニ對シ故障アルモ測ラレシト言ヒシニ當時内閣委員ハ敢テ憂慮ヲ須  
 井スト答ヘタルモ果シテ外國公使ヨリ異議ヲ唱ヘ遂ニ施行スル能ハス其後改正ヲ加ヘ  
 再ヒ下付アリテ議定セシモ今日ニ至ルマテ尙ホ施行スルヲ得ス一ノ石油取締規則ニシ  
 テ猶ホ然リ況ヤ此條例ノ如キオヤ必ス豫メ彼我協議ヲ經タルモノト思フモ若シ否ラス  
 シテ公布後外國ヨリ異言ヲ起スアラハ折角ノ條例モ徒ニ具文トナランノミ果シテ彼我  
 ノ協議ヲ經テ差支ナキヤ否ヤ内閣委員ノ陳述ヲ煩サン終リニ臨テ猶ホ一言セン此議案  
 ハ實ニ外國交際上ニ於テ顧慮ス可キモノナレハ一層注意ヲ要スルハ勿論則チ英吉利ニ

取リタレハ他各國ト多少差異アルモ大要相同シケレハ務メテ其原則ニ依據シ公法ニ稱  
 ハシメサル可ラス今別ニ修正ヲ加フ可キ廉ヲ見スト雖モ各國ノ例ニ參照シ不都合ナカ  
 ラシムル爲メ主務ノ起草者并ニ内閣委員ニモ協議シ然ル後ニ議定上奏セント欲スレハ  
 本會ノ終リニ全部付託調査委員ヲ置カンコヲ望ム

出席

二十八番

福羽 美靜

六十七番

鶴田 皓

○外一番 廣瀬 先刻本員辯明ノ際犯罪外ノ事件ニ同一ノ罪云々ト答ヘシモ是レ只近ク譬  
 ヲ取リタルニテ必ス同種類ノミニ限ルニ非ルハ一番ノ見解ノ如シ第三條ノ政事上ノ罪  
 トハ即チ國事犯ナルモ日本ト合衆國トノ條約文ニモ政事上ノ犯罪トアルヲ以テ之レニ  
 從ヒタルナリ本案ノ外交上ニ關係スルハ勿論因テ以テ日本帝國ノ主權ヲ全フスルモ  
 ナレハ主務省ニ於テモ大ニ注意シ各國公使ニモ照會シ又主務大臣ト司法大臣ノ間ニモ  
 十分ノ協議ヲ盡セリト聞ケリ石油取締規則ノ例ヲ引テ此案ニ掛念スルハ理ナキニ非ル  
 モ本案ハ日米兩國條約ヲ實行スル爲メノ手續ナレハ今後他ノ國ト同一ノ條約ヲ締結ス  
 ルニ至レハ即チ亦本條例ニ依ルコニシテ石油取締規則ノ如キ商業上ノ利害ニ關スルモ  
 ノト異ナリ各官ノ參考ニマテ一言陳辯ス

○二十五番 總貫 内閣委員ニ問フ第四條ノ犯罪ノ事件ニ付日本帝國内ニ於テ亞米利加合  
 衆國人ノ罪ヲ犯シタルモノヲ逮捕セシトキハ豫審其他公判ヲ爲スハ勿論其主刑マテモ  
 我法律ヲ以テスルヤ



○一番<sup>廣瀬</sup> 我帝國管轄内ニ於テ亞米利加合衆國人ノ事件ヲ生シ告訴ヲ受ケタルトキハ其裁判ノ完結スルカ又ハ處刑ノ終リタル後ニ非レハ犯罪人ヲ引渡サ、ルコニシテ即チ我帝國ノ主權ヲ固フスルノ精神ナリ

○二十五番<sup>結實</sup> 然ラハ犯罪人引渡ノ締約ヲ爲セル外國人民ノ我帝國內ニ於テ罪ヲ犯シタルトキハ我法律ヲ以テ處分スルヲ得ルカ

○一番<sup>廣瀬</sup> 即チ其精神ナリ

○五番<sup>山口</sup> 内閣委員ハ我帝國內ニテ罪ヲ犯シタル外國人ヲ處分スルニ我法律ヲ用フト云フモ是レ條約改正後ノコナル可シ今日ハ未タ然カスルヲ得サラン今日ノ場合ニテハ外國人ノ罪ヲ犯シタル者ヲ告訴告發スルトキハ其領事廳ニ就テ處刑ヲ求ムルヲ常トセ

リ然レハ此條例モ其引渡請求ニ係ル犯罪外ノ罪ヲ我國ニ於テ犯シタルトキハ矢張之ヲ捕ヘテ外國ノ領事廳ニ引渡シ其處分ノ完結スル迄ハ外國政府ノ請求アルモ引渡サスト云ヘル主意ナラント信ス本官ハ若シ犯罪人ヲ領事廳ニ引渡シ領事廳ハ未タ裁判ヲ終ヘサルニ本國ヘ送ルコアラハ何如ス可シトノ憂慮ヲ抱キシ程ナルニ内閣委員ノ答ハ毫モ

此等ニ掛念セス一層進テ治外法權ノ域外ニ出テ我法律ヲ以テ處分スルト迄答ヘタルハ何ノ由ル所アリテ然カ云フヤ猶ホ詳細ノ辯明ヲ望ム

○一番<sup>廣瀬</sup> 本案第四條ハ亞米利加合衆國ト我帝國トノ犯罪人引渡條約書第三條ニ「請求ニ係ル人引渡ノ請求ヲ受ケタル國ニ於テ審判中ナルトキハ之ヲ引渡スト引續キ審判スルトハ該國ノ隨意タルヘシ」トアルニ本ケリ今後英吉利ナリ佛蘭西ナリ皆此ノ

如ク結約セントス所謂治外法權ハ事實ニ於テ免レサルモ個ハ追々改正ヲ加ヘ我國ノ主權ヲ確立スルコニ至ル可シ因テ亞米利加合衆國ト條約書ノ意ヲ此ニ顯セシナリ

○五番<sup>山口</sup> 成程引渡條約面ニ於テハ各其國ノ主權ヲ行フコ勿論ナレハ米國ニテ日本人ニ其法律ヲ加フ可キモ之ニ反シ日本ニテハ隨意ニ米人ヲ處分スルヲ得サルハ今日ノ實況ニ照ラシテモ知ルヲ得可シ且其條約ニ依レハ只該國ノ隨意トアリテ主權ヲ行フコ

ヲ明示セサレハ米國ノ犯罪人ヲ領事廳ニ告訴シタルトキ其裁判ノ完結セサル間ハ請求アルモ條約ニ依テ引渡サスト云フ迄ノ事ナリ然ルニ内閣委員ノ言ノ如クナレハ我政府ニ於テ米國人ノミハ我邦ノ法律ヲ以テ處刑スルヲ得ルノ見込ナカル可ラス知ラス之レ

アリヤ此條例ニテハ米國人ハ勿論其餘ノ外國人ニモ追々此法律ヲ行フヲ得ル如ク見ユルモ實際ハ然カラス故ニ條例ハ今日此ノ如ク設クルモ我主權ヲ行フハ他日ノ事ト云ハ、別ニ訓令ヲ以テ其意ヲ通知セシメサル可ラス此等ハ内閣ニ於テ十分注意アリシ事ナ

ランモ本院ニテ議スルニハ第四條ハ尤モ困難ナリ内閣委員ノ答フル如ク只日本國ト米國トノ條約第三條ニ依テ此第四條ヲ立テタリト云フノミニテハ甚瞭解ニ苦メリ願フニ

右條約締結以來米國水夫ノ亂暴ヲ働キシ、又長崎ノ池島ニ於テ大砲ヲ放チ我國人ヲ傷ケシ等ノ事アルモ我國ハ之ニ向テ主權ヲ行フ能ハサリシ是ニ因テ之ヲ見レハ專ラ條約面ニノミ依頼ス可ラサルモノアリ要スルニ此條例ハ米國公使ニモ篤ト協議シ主務省ニ

於テモ熟考ノ上ナラテハ本院ニ於テ議定スル能ハスト信ス若シ内閣委員ニシテ斯ル掛念ハ無用ナリ既ニ充分ノ協議熟考ヲ經タリト云ハ、可ナルモ果シテ何如ナルヤ



○六十八番<sup>三浦</sup> 本案ヲ賛成ス犯罪人引渡ノ事ハ既ニ我帝國ト亞米利加合衆國トノ條約書ニ明載スル所ナレハ此條例ヲ布クハ至當ナリ但其外國ニ關係スルノ法律ナルヲ以テ縱令主務省ノ調査ハ十分ナリトモ此儘ニ經過セシムルヲ得ス因テ一番ノ建議ノ如ク調査委員ヲ置キ英佛獨文等ニ通セシ人ヲ擇ヒ原書ニ依テ詳細ニ調査シ本案ヲ以テ英吉利ノ條例ノ如クスルトモ又ハ之ヲ取舍折衷スルトモシテ完全ナル法律ト爲サンヲ欲ス因テ一番ノ建議ヲ賛成ス

○二十五番<sup>綿貫</sup> 内閣委員ノ答辯ノ如ク第四條ヲ實行スルヲ得ルトセハ我治罪法ニ依テ處分シ別ニ憂慮スルニ及ハサル如キモ實際ニ於テ然ル能ハサルハ即チ治外法權ノ存スルアレハナリ然ルニ外務大臣モ條約改正ニ熱心ナリト聞ケハ不日此治外法權ヲ除クヲ得ルニ至ランモ外國ニ關係スル法律ハ從前務テ英佛等ノ法文ニ本キ設定シタルモ之ヲ實行スルニ當テ毎々障礙アリテ施スヲ得ス一番議官ノ言ヘル石油取締ノ如キ其一例ナリ既ニ此締約ヲ爲セル國ノ人民ナレハ或ハ第四條ノ如クスルヲ得可キモ其他ノ人民ヲ逮捕スルカ又ハ證據ノ爲メニ召喚スルコトアレハ何如若シ各國共ニ我法律ニ從ハシムルヲ得ルトナラハ異論ナキモ内閣委員ノ意ハ何如

○<sup>廣瀬</sup> 五番二十五番兩議官ノ言ハ甚理アリ今日ノ勢實ニ本案ノ如ク主權ヲ行フ能ハサルモ此法律ハ百年ヲ期シ我帝國ノ主權ヲ貫達スル精神ナレハ各國ヲシテ之ニ從ハシムルハ勿論ナリ故ニ主務省ヨリ公使ヘ照會セシコトハ之ヲ聞シモ未タ其承諾ヲ得タリヤ否ヤハ聞カサルナリ

○<sup>尾崎</sup> 本案ノ大体ハ賛成スルモ少シク疑ハシキ所アレハ内閣委員ニ質問セン本案第四條ハ英吉利ノ逃亡犯罪人引渡條例ニ摸倣セシナランモ英吉利ハ治外法權ナキ故ニ隨意ニ之ヲ實行スルヲ得而シテ我邦ハ治外法權猶ホ存スルヲ以テ實行スル能ハス今若シ英佛人ノ米國ニテ罪ヲ犯シ我邦ニ逃亡セシニ米國ノ請求アレハ之ヲ引渡ス可キヤ又米國人ノ我邦ニ來テ罪ヲ犯スアレハ告訴告發ストハ犯罪人引渡條約面ニ明載シタレハ毫モ差支ナシト内閣委員ノ答辯ナリシモ條約アリタリトテ從前ノ治外法權ヲ取消ス能ハサル可シ假リニ米國人ニ限り之ヲ行フヲ得可シトスルモ獨逸英吉利佛蘭西人ノ米國ニテ罪ヲ犯シ我邦ニ來テ更ニ罪ヲ犯シタル場合ニ我邦ニテ告訴告發ヲ受ケタル故ニ之ヲ引渡サスト云フヲ得可キヤ且外國人ハ僅カナリトモ權利ノ在ル所ハ之ヲ主張スルヲ常トスレハ英佛人ノ米國ニテ罪ヲ犯シ更ニ我邦ニ來テ罪ヲ犯シタルトキ本條ニ從フ能ハスシテ直ニ之ヲ本國ヘ引渡シタルニ米國ヨリ何故ニ第四條ノ明文ニ依ラス之ヲ引渡シタリヤトノ談判ヲ爲セハ如何之ニ答フルヤ是レ本官ノ尤モ掛念スル所ナリ又第三條ノ政事上ノ犯罪トハ所謂國事犯ナリトノ答辯ハ事理判然ナル如キモ政事上ノ犯罪ト其否ラサルモノトノ分界ハ頗ル混淆錯雜ニシテ只當時ノ公議輿論ニ從フノミ政事上ノ犯罪ニ就テ引渡ヲ請求スルコトアリテ彼此見解ヲ異ニセハ孰レカ權力ノ大ナル政府ノ意ニ歸着スルノ外ナシ嘗テ佛國拿破崙三世ノ時ニ當リ人アリ三世ヲ暗殺シテ共和政ヲ立テントシ果サスシテ英吉利ニ逃亡シタリシニ三世大ニ怒リ英吉利ニ向テ犯罪人引渡ヲ請求シタリ當時佛國ニテハ謀殺犯ノ未遂ニシテ常事犯ナレハ引渡條例ニ依テ引渡ス可シ



ト云ヒタルモ英國ニテハ帝王ヲ暗殺セントセシハ即チ政府ヲ顛覆スルノ目的ナレハ常事犯ニ非ス國事犯ナリト云ヒテ之ヲ拒ミシモ佛國ノ權威頗ル隆盛ナリシヲ以テ英國政府ニ迫リ常事犯タルヲ主張シ引渡サシムルコトニ至ラントセシニ英國ノ人民ハ多勢集合シテ之ヲ拒ミ若シ引渡スニ至レハ佛蘭西ニ我國法ヲ蹂躪セラレタルモノニテ國法ハ爲メニ成立スルヲ得ストテ政府ノ決議ヲ排斥シ遂ニ引渡サ、ルコトニ定メタレハ佛蘭西モ已ムヲ得ス其儘ニ經過セリ今若シ英佛等ノ犯罪人ノ我邦ニ逃亡セシモノアリテ英佛ニテハ常事犯ト云ヒ我邦ニテハ國事犯ト云ヒ議論ノ相合ハサルコトアレハ之ヲ決スルハ只國力ノ何如ニ由ルモノニシテ此等ハ到底席上ニテ定ム可キニ非ルモ幾分カ見込ヲ立テ置カサル可ラス因テ一番ノ建議ニ依リ調査委員ヲ設ケ十分ニ調査スルヲ可トス要スルニ質疑ノ點ハ米國人ニ非ス即チ引渡締約外ノ國人ノ米國ニ於テ罪ヲ犯シ我邦ニ逃亡シタルトキハ何如ノ處分ヲ爲スヤニ在リ此事政府ニ於テ判然タル見込アレハ請フ之ヲ聞カン且木案中單ニ帝國ト稱スルハ從前ノ法律ニ見サル所ナリ帝國ハ日本ノ外ニモ之レアリ何故ニ日本帝國ト爲サ、ルヤ他ノ法律ニモ此ノ如キ類例アルヤ否并セテ質問ス

○外番一進廣 二番ノ質問ナル引渡條約外ノ人民米國ニテ罪ヲ犯シ我邦ニ逃亡セシ者アリテ米國ヨリ請求アリシ場合ノ處分ハ引渡條約第一條ノ明文ヲ以テ答フルヨリ外ナシ元來引渡條約ハ獨リ米國ノミナラス他國トモ締結センコトヲ希望スルニ因リ自然彼此聯絡セル事情起ル可キ勿論ナレハ此引渡條約ニ於テ飽クマテ我邦ノ主權ヲ擴張シ條約改正ノ場合ニ功用アラシメサル可ラス其實行ニ方テ他ノ事故ニ障害セラル、コトハ只今答

辯ス可キコトニ非ス又政事上ノ犯罪ハ縱令外國ニテ常事犯トシテ請求スルトモ我司法大臣ノ政事犯ト認ムル上ハ之ヲ拒ムノ精神ナリ

○外番一進廣 二十五番 引渡條約第三條ハ我國人ト米國人トノ犯罪引渡條約ナリ若シ英佛人ノ米國ニテ罪ヲ犯シ我國内ニ逃レ來リシトキ米國ヨリ請求セハ何如スルヤ

○外番一進廣 二十五番ノ質問ニハ只今二番ニ答ヘタル者ヲ以テ答フルヨリ外ナシ英佛人ナリトモ米國ヨリ請求アレハ引渡スノ精神ナルモ其實行ハ他ノ障害物ヲ除クノ後ニアリ

○外番一進廣 二十五番 本官ノ問フ所ハ締約國ニ對シテハ第四條ノ如ク行フヲ得可キモ未ダ英佛人ト條約ナキ間ニ於テ英佛人ノ締約國ニテ罪ヲ犯シ我國ニ逃レ來リシトキ締約國ヨリ引渡ヲ請求セハ何如スルヤト云フニ在リ

○外番一進廣 例ヘハ太陽ハ元ト昭明ナルモ黑雲來テ光線ヲ掩フコトアリ是レト同シク此條例モ元ト我邦ノ主權ヲ確立スル公明ノ法律ナレトモ他ノ障害物アリテ其公明ヲ達スル能ハサルハ已ムヲ得サル所ニシテ之ヲ除去スルノ手段ニ至テハ固ヨリ其任ニ當ルノ人アレハ早晚之ヲ除去スルコト見做サ、ル可ラス故ニ此條例ニ於テハ飽クマテ主權ノ在ル所ヲ以テ答フルナリ他ノ事故ニ至テハ番外ノ答フル限ニ非スト信ス

○議長 先尅來問答アリ大体論ハ已ニ盡キタリト認ム因テ一番ヨリ此案ニ對シ全部付託調査委員ヲ置ク建議ノ決ヲ取ラン之ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者五十二人



○議長 多數ナルニ依リ全部付託調査委員ヲ置クニ決シ投票ヲ以テ七名ヲ選ハン各官投票シ里レハ散會セヨ當選者ノ姓名ハ追テ報告セン

午前第十時四十五分開場

此時投票ヲ執行ス當選者ハ左ノ如シ

- 一番 箕作麟祥 二番 尾崎三良 五番 山口尙芳
- 十三番 加藤弘之 二十五番 綿貫吉直 六十六番 村田保
- 六十八番 三浦安

○明治二十年七月二十七日 第二第三讀會

議長 東久世通禧

出席議員

- 一番 箕作麟祥 二十一番 神山郡廉
- 三番 神田孝平 二十二番 西周
- 六番 永山盛輝 二十五番 綿貫吉直
- 七番 大迫貞清 二十七番 伊丹重賢
- 十五番 小畑美稻 三十番 宮本小一
- 十七番 坂本政均 三十二番 岡内重俊

- 三十四番 原田一道 五十六番 中村正直
- 三十五番 榊取素彦 五十七番 長松幹
- 三十六番 時任爲基 五十八番 渡邊清
- 三十八番 稅所篤 五十九番 橋口兼三
- 三十九番 石井忠亮 六十一番 林友幸
- 四十番 由利公正 六十三番 田邊太一
- 四十三番 本田親雄 六十四番 津田眞道
- 四十四番 中島錫胤 六十五番 清岡公張
- 四十五番 鍋島直彬 六十八番 三浦安
- 四十六番 大久保一翁 六十九番 何禮之
- 四十七番 上杉茂憲 七十番 壬生基修
- 五十一番 調所廣丈 七十一番 久我通久
- 五十四番 田中芳男

内閣委員

番外一番

番外二番

- 法制局參事官 廣瀬進一
- 法制局參事官 水野遼

午前第九時二十五分開場

○議長 第五百四十四號議案ノ第二讀會ヲ開ク



○一番其作詳 本案ハ第一讀會ニ於テ全部付託調査委員ヲ設ラレ本官等其任ニ當リ之ヲ修正セリ然ルニ委員中ノ首席タル五番ハ本日缺席ナルヲ以テ本官代ツテ一應修正ノ理由ヲ陳述セン全體本案ハ歐文原書ヨリ成立シ普通ノ法律ト違ヒ其文體モ翻譯文ニ近ク意義不明ナル箇所ヲ修正シ他ハ原案ノ如クセリ第一條第一「帝國」ノ二字ヲ削去シ交互ノ三字ニ改正セシハ横文ニ彼此兩國ノ間互相引渡シヲ爲スノ條約トアルヲ以テ若シ單ニ帝國臣民トスルキハ獨リ日本人民ノミニ限ルカ如キ嫌アレハナリ其第二「締約國」ヲ交互ト改メシモ亦同シ「引渡」ノ二字ヲ削リシハ是レ全ク衍文ニシテ却テ錯誤ヲ生シ易キヲ以テナリ「相互ニ」ノ三字ヲ削リシハ既ニ自國ノ臣民ト云フキハ相互ニノ文字要用ナラサレハナリ又第三條ノ第一ニ政事上ノ下犯字ヲ挿入セシハ明治十九年十月八日勅令無號公布亞米利加合衆國トノ條約ニハ「犯罪」トアルヲ以テ其例ニ倣ヒ第四條「解」ヲ釋トセシハ法律文例皆然ルニ依ル且「解放」ノ文字ハ娼妓解放ナトニ用ユルモ法律文ニ用ヒタルノ例ヲ見サルナリ第六條「均等」ノ三字ヲ均シク改メシハ同等地位即チ締約國ノ裁判所ニシテ治安若クハ重罪裁判所ナルキハ我邦モ亦治安若クハ重罪裁判所ト云フ如キ嫌ヒアリ然ルニ此條ハ米國ニ於テ貨幣贋造ノ罪ヲ犯シ我邦ニ逃逸シ來ル犯罪人ヲ處罰スルノ權ハ米國及ヒ我邦共ニ均シク之アリトスルノ意ナルヲ以テ此ノ如ク改メタリ第九條第一號書式ニ「下」據ヲ依ト改メシハ他ノ文例ニ倣フナリ但シ以下皆同シ「令狀」ヲ假逮捕狀ト改メシハ令狀ハ總テノ命令ヲ包含シ太々漠然タルヲ以テ假逮捕狀ナルヲ明示スルニ如カストスルニ在リ其次「令狀」ヲ逮捕狀ト修正セシハ真正ノ逮捕

狀ナルヲ示スナリ以下皆同シ第十一條ニ例外ノ三字ヲ挿入セシハ横文ニ其意義明カニ登載シアルヲ以テ加ヘタリ第十二條ノ到字ノ下「來」ヲ著トセシハ俗諺ニ時節到來ト云フコアルモ犯罪人ニ對シテハ到着ノ文字ヲ可トセルニ由ル十四條「逮捕」ノ下「タルトキ」ヲ改メ若クハトシ又「否」トニ係ハラス「ヲ」削リテキハト爲セシハ文意ノ簡明ニ從フ第十六條ノ「進達」ヲ具申ニ改作セシハ第十四條ニ具申トアルヲ以テ之レト齊一ニセシニ過キス二項ノ「申告」ヲ具申ト爲セシモ亦然リ第十八條ノ第一「告訴」告發ヲ受ケタル罪ヲ帝國内ニ於テ犯シタルキハ云云ハ原文ヲ直譯スレハ朱書ノ如クナルヲ以テ之ヲ修正セリ第二十條ノ「令狀」ヲ引渡狀ト改メシハ聊カ重複ノ嫌ナキニ非レトモ令狀ハ向キニモ陳述セシカ如ク漠然タルヲ免レス又司法大臣云云原案ハ其附帶ス可キ書ニ却テ事ノ重要ニ係ル書類ヲ添付スルカ如ク本末順叙顛倒シ不都合ナルヲ以テ之ヲ修正セリ第二十一條相當官ノ下「吏字」ヲ加ヘシハ通例ニ從フナリ第二十二條「請求國」ノ四字ヲ削リシハ横文ニモ此請求國ノ文字ナキヲ以テナリ第二十三條ノ末又ハ畢竟字句ヲ修正セシニ過キス例ヘハ米國ヨリ日本國ニ逃亡犯罪人ヲ引渡ス場合アリトセンニ照會書及ヒ海陸通行ヲ保證セシキニ非レハ外務大臣ヨリ司法大臣ニ請求スルコトヲ得ス但シ特約アル場合ハ此限ニ在ラス本條ノ意義此ノ如クナルモ文章錯雜シテ明瞭ナラサルニ由リ之ヲ改メタリ「版圖」ノ一字ヲ削リシハ法律上適當ヲ欠キ且他ハ皆帝國内外トアルヲ以テ此ノ如クセリ猶ホ遺漏ヲ補述センニ第四條帝國ノ下「管轄」ノ二字ヲ削リシハ第一條三項ニ「帝國ノ管轄」トアレハ他ハ略シテ帝國内ト爲シテ可ナレハナリ又附録ハ書式ナル



ヲ以テ本院ニ於テ議定スルハ如何ント思考セシモ已ニ下付セラレタルヲナレハ聊カ修正セリ其第一號書式上欄ニ於テ命令ヲ受ケノ下逃亡ノ二字ヲ挿入セシハ本條例ノ名目ニ倣ヒシナリ又令狀ヲ假逮捕狀ト爲シ下欄ノ令狀ヲ削除セシハ既ニ執行ト云ヘハ其令狀ノ執行ナルコト明ナレハナリ又第三號書式即チ引渡狀ノ受取コトヲ命セラレタル云々以下横文ニ比照スレハ字句冗長ナルヲ以テ之ヲ相當官吏ニ云ト改メ了解シ易キヲ旨トセリ又下欄モ受取人ノ署名ト爲セハ字句簡短ニシテ意義貫徹スルヲ以テ之ヲ修改セリ修正ノ理由概テ此ノ如シ猶起立ノ序ニ一言セン第一讀會ニ於テ各官モ領會セラハ如ク治外法權ノ有ル以上ハ之レニ抵觸シテ行ハレ難シトノ議論アリ然レモ米國トハ明治十九年十月八日引渡條約ヲ締結セシヨリ此事ハ全ク治外法權ニ非ラス故ニ米國ニ對シ本案ニ係ル條約ヲ執行スルニ方テ尤必用トス其他英佛獨等ニ向テハ今日直チニ行ハレ難キ條項アリト雖モ本案第一條ニ掲載セル如キ此後締約スル外國即チ英ナリ佛ナリ皆米國ノ如ク締約シテ履行スルニ至ラン既ニ米國ト條約ヲ締結シ而シテ本條例ノ無キハ太々不都合ナルヲ以テ内閣ニ於テ英國ニ倣ヒ此法律ヲ制定セシモノト思料セリ因テ其大體ヲ動サス唯横文ニ齟齬スルナク分明ナランコトヲ欲シ字句ノ修正ニ止メタリ各官此旨趣ヲ領シ何卒賛成アラントコトヲ希望ス

出席

六十七番 鶴田 皓

二十九番 岩下 方平

○議長 只今調査委員修正ノ理由ヲ説明アリ孰レヲ本案ト爲シテ議ス可キヤ決ヲ取ラン

修正報告案ヲ以テ本案ト爲スニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十八人

○議長 多數ナルニ由リ修正案ヲ以テ本案ト爲ス

○三十二番 岡内 重俊 安心ノ爲メニ内閣委員ニ質問ス

第四條ハ本案中最モ關係ヲ有シ既ニ第一讀會ニ於テモ某議官ノ質問ニ對シ番外ノ答辯アリ且調査委員ノ説明モアリテ其大體ハ領會シ得タルモ本官ノ懸念スル所ハ本條ノ「逃亡犯罪人」云云ニシテ此文體ヨリ見レ

ハ引渡犯罪ノ事件ニ就テ直チニ告訴發テ受レハ之ヲ審理スルニ似タリ既ニ審理スルモノトスレハ犯罪人引渡ノ一部ハ治外法權ニ非サルカ如シ尤モ此一事ハ米國ト彼此對等ノ條約ナル故引渡犯罪ニ就テハ別ニ怪シマサルモ一般ノ犯罪ハ如何スルヤ引渡條約第三條ノ但書ニ「其審判該逃亡」ハノ引渡ヲ請求スル罪ノ爲メニアラサルトキハ一時云

云トアルニ基キ此第四條ヲ起草セシモノナラン此事向キニ番外一番ノ説明アリト思考セリ因テ引渡犯罪ハ姑ク措キ普通ノ犯罪ニ係ルモ日本人ト同シク治罪法ニ依リ處分スルヲ得ルヤ主務省ニ於テ目下之ヲ施行スルモ支障ナシトスル見込アリヤ又第十五條ノ冒頭ニ「告訴發テ云云トアルモ第一條ノ三項及ヒ第十八條ノ第一ニモ皆引渡犯罪ニ付告訴發テ云云トアリ」獨リ第十五條ニ至テ直ニ「告訴發テ」ト記シテ引渡云云ノ文字ナシ本官ハ本條告訴ノ上ニモ此文字必要ナリト思考セリ因テ番外ノ説明アラントコトヲ望ム

○番 廣瀬 一 只今ノ質問ハ第一讀會ニ於テ略ホ陳述セシ如ク

第四條ハ引渡條約第三條ヨリ生シシモノニシテ已ニ修正委員タル一番ノ言フ如ク此事ハ米國ト帝國トハ眼中治



外法權ナク對等ノ位地ヲ以テ締結セリ其第三條ニ「請求ニ係ル人引渡ノ請求ヲ受ケタル國ニ於テ審判中ナルトキハ之ヲ引渡スト引續キ之ヲ審判スルトハ該國ノ隨意タルヘシ」云トアリ然ルニ今日他ノ事情ニ由リ引渡ニ係ル犯罪外即チ請求ノ犯罪外ノ罪ハ帝國ニ於テ内國人ト同シク治罪法ニ據リ處分シ得ルヤトノ質問アレトモ此法律ハ對等國ノ國權タル所ニ向ツテ施スノミ又第十五條ニ「引渡犯罪ニ付」ト云フ文字ナキハ既ニ逐條ニ記スルニ由リ此ニ之ヲ略スルモ不都合ナカラシ只文章ヲ省略シタルニ外ナラサルナリ

○三十二番 閣内 重俊 今一應説明ヲ煩ハサン引渡犯罪ハ對等ノ權利ヲ以テ告訴告發スルハ勿論一般ニ治罪法ニ據ルノ精神ナリヤ

○一番 廣瀨 進一 刑法上ニ於テ彼レト我レトハ同一ナラスト雖モ凡ソ社會ノ罪トス可キハ固ヨリ彼此ノ別ナキナリ故ニ引渡犯罪ニ係ル者ハ充分治罪法ノ手續ヲ履行スル精神ナリ

○三十二番 閣内 重俊 本官質問ノ要領未タ貫徹セス第一條ヨリ第十四條ニ列記セル條項ハ行ハル可キモ一般ノ犯罪即チ我國ノ重罪、輕罪及ヒ違警罪等ヲ米國人ニシテ犯ス者アレハ此法律發表ノ翌日ヨリ直チニ第四條ニ依リ告訴告發アルトキハ直ニ其手續ヲ履行セラル、ヤ否ヤ問フニ在リ

○一番 廣瀨 進一 質問ノ點ハ引渡條約ノ裏面ヨリ推シテ論スルモ直ニ處分スルヲ得ルカ如キモ此事ハ領事裁判ヲ撤去セサル間ハ已ヲ得ス從前ノ手續ニ從ハサルヲ得サルナリ

○三十二番 閣内 重俊 最終ノ説明ニ依テ了解スルヲ得タリ

書記官 森山 朗讀

逃亡犯罪人引渡條例

第一條 本條例ニ於テ締約國ト稱スルハ既ニ帝國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シ若クハ今後締結スル外國ヲ謂フ

引渡犯罪ト稱スルハ外國ト締結シタル犯罪人引渡條約ニ掲クル犯罪ヲ謂フ  
逃亡犯罪人ト稱スルハ締約國ノ管轄内ニ於テ犯シタル引渡犯罪ニ付告訴告發ヲ受ケ若クハ有罪ノ宣告ヲ受ケタル帝國臣民外ノ人ニシテ帝國ノ管轄内ニ逃避シタル者又ハ逃避シタルノ嫌疑若クハ逃避セントスルノ嫌疑アル者ヲ謂フ但左ノ場合ニ於テハ帝國臣民ヲ包含ス

一 帝國ト請求國トノ犯罪人引渡條約ニ帝國臣民ノ引渡ヲ爲スヘキ條款アルトキ

二 犯罪人引渡條約ニ締約國ノ任意ヲ以テ其臣民ノ引渡請求ニ應スルコトアルヘキ旨ノ條款アリ且引渡請求國ニ於テ同様ノ場合ニハ自國ノ臣民ヲ相互ニ引渡スヘキ旨ヲ申出テタルトキ

○議長 發議ナキニ由リ決ヲ取ラン本案ニ同意ノ者ハ起立セヨ

起立者三十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス以下便宜兩三條宛連帶シテ議ニ付セン



書記官 森山 朗讀

第二條 締約國ヨリ逃亡犯罪人ノ引渡請求アリ之カ引渡ノ目的ヲ以テ其手續ヲ爲スト  
キハ本條例ニ定ムル所ノ條款ニ據ルヘキモノトス

第三條 左ノ場合ニ於テハ逃亡犯罪人ヲ引渡スコトヲ得ス

一 引渡ノ請求ニ係ル者ノ所犯政事上ノ罪ナルトキ

二 引渡ノ請求ハ實際政事上ノ犯罪ニ付審問シ若クハ處刑セントスルノ目的ニ出テ  
タル旨ヲ本人ニ於テ證明シタルトキ

第四條 逃亡犯罪人其引渡請求ニ係ル犯罪外ノ事件ニ付帝國管轄内ニ於テ告訴告發ヲ

受ケ又ハ處刑中ナルトキハ無罪又ハ刑期滿限若クハ其他ノ事由ニ因リ解放セラレタ  
ル後ニアラサレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

○三十二番岡内重俊 本官ノ説或ハ行ハレサランカ知ル可ラサルモ試ミニ之ヲ提出セン第四

條ハ其關係スル所重要ニシテ他日ノ障害アランコトヲ懸念シ但書ヲ加ヘ但引渡犯罪ノ場

合ニ適用スノ數字ヲ加ヘント欲ス

○議長 三十二番ノ修正ハ賛成ナキニ由リ消滅ス他ニ發議ナキヲ以テ朗讀ノ分ハ可定ト

認ム

書記官 森山 朗讀

第五條 帝國ト外國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シタルトキハ逃亡犯罪人ノ犯時其締約以

前ニ係ルト雖モ該締約國ノ請求ニ應シ其引渡ヲ爲スコトアルヘシ

第六條 引渡犯罪ニ付帝國裁判所ニ於テ締約國裁判所ト均等ノ裁判權ヲ有スト雖モ若

シ司法大臣ノ意見ニ於テ其審判ヲ便ナラシメンカ爲メ逃亡犯罪人ノ引渡ヲ可トスル

トキハ之ヲ引渡スコトアルヘシ

第七條 本條例ニ據リ發シタル總テノ逮捕狀ハ帝國內何レノ地ニ於テモ効力アルモノ

トス

第八條 一逃亡犯罪人ヲ二國以上ノ締約國ヨリ各其國ニ於テ犯シタル罪ノ爲メ引渡請

求ヲ爲シタルトキハ最初請求ヲ爲シタル國ニ之ヲ引渡スヘシ但其請求ヲ爲シタル締

約國間ニ特別ノ約束若クハ協議アル場合ハ此限ニ在ラス

○議長 可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

第九條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一名若クハ二名以上ノ上席檢事ニ命シ逃亡

犯罪人ヲ假ニ逮捕スル爲メ附錄第一號書式ニ據リ令狀ヲ發セシムルコトヲ得

外務大臣ハ締約國ヨリ相當ノ順序ヲ經由シ書面又ハ電信ヲ以テ逃亡犯罪人ヲ逮捕ス

ル爲メ既ニ令狀ヲ發シタルコトノ通知ト其引渡ハ正式ニ依リ請求スヘキ旨ノ保證ト

ニ接シタル後ニ限り本條ノ請求ヲ爲スヘシ

第十條 假逮捕狀ニ據リ逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル場合ニ於テ二月ヲ過キサル相當ノ期



限内ニ其引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ解放スヘシ但此場合ニ於テ逮捕シタル者ヲ解放スルモ再ヒ之ヲ逮捕シ及引渡スコトヲ妨ケサルモノトス

假逮捕狀ニ據リ逮捕シタル者ノ引渡請求アリタルトキハ更ニ附録第二號書式ノ逮捕狀ヲ發シ假逮捕狀ト交換スヘシ

第十一條 第九條ニ定メタル場合ヲ除クノ外ハ引渡請求ヲ爲シタル國トノ條約ニ定メタル相當ノ順序ヲ經由シ左ノ書類ヲ添ヘ引渡ノ請求アリタル後ニアラサレハ何人ヲモ引渡ノ目的ヲ以テ逮捕スルコトヲ得ス

一 告訴發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其所犯ニ付訴アリタル國ノ相當官吏ニ於テ發シタリト認メ得ヘキ逮捕狀ノ公寫及該逮捕狀ヲ發スルノ根據ト爲リタル口供書若クハ陳述書ノ公寫

二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ證印アル宣告書ノ寫

○議長 可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

第十二條 外務大臣引渡請求書ニ接シ犯罪人引渡條約ノ條款ニ適合シタリト思量スルトキハ該請求書ニ其關係書類ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ送付スヘシ  
司法大臣本條ノ請求ニ接シ妥當ノ事由アル請求ト思量スルトキハ逃亡犯罪人ノ所在

又ハ其到來スヘシト認ムル地ノ上席檢事ニ命シ逮捕狀ヲ發セシムヘシ

第十三條 上席檢事前條ニ掲ケタル司法大臣ノ命令ニ接シタルトキハ附録第二號書式ニ據リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十四條 請求ニ係ル逃亡犯罪人ヲ逮捕シタルトキハ假ニ逮捕シタルト否トニ係ララス其逮捕狀ヲ發シタル上席檢事又ハ之ヲ逮捕シタル地ノ上席檢事ニ引渡スヘシ

上席檢事ハ逃亡犯罪人逮捕ノ顛末ヲ直ニ司法大臣ニ具申スヘシ  
司法大臣上席檢事ノ具申ニ接シタルトキ引渡請求書アレハ其寫及附屬書類ヲ速ニ該

檢事ニ送付スヘシ但被告人ヲ解放スヘキノ命令ヲ發スルトキハ此手續ヲ爲スニ及ハス  
第十五條 告訴發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及引渡請求書ニ附屬セル書類ノ確實公正ナルコトヲ認定スヘシ但上席檢事該書類ノミニテハ證據不十分ナリト認ムルトキハ仍ホ被告人ノ犯罪ニ對スル證據ヲ取ルコトヲ得

有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及其引渡ヲ請求シタル締約國ノ相當裁判所ニ於テ宣告ヲ爲シタルノ確實ナルコトヲ認定スヘシ

○三十二番 閣内 向キニ質問セシテ陳述セシ如ク第十五條ノ首メニ引渡犯罪ニ付ノ六字ヲ補ハン其理由ハ第一條ノ三項第十八條ノ第一ヲ通觀セハ明ナリ第十一條ノ一項ニハ



單ニ告訴發トアルモ其本文中ニ何人ヲモ引渡ノ目的ヲ以テ逮捕スルコトヲ得スト  
アルニ由リ無用ナレト本條ニハ此六字ヲ必用ナリト思考ス因テ修正說ヲ提出ス各官ノ  
賛成アラシキヲ乞フ

○議長 賛成ナキヲ以テ消滅ス他ニ發議ナクンハ可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

第十六條 上席檢事被告人ノ訊問ヲ結了シタルトキハ訊問書ニ其處分方ニ關スル意見  
書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ進達スヘシ但上席檢事ハ之ト共ニ引渡請求書寫及附屬書類  
ヲ返却スヘシ

司法大臣該檢事ノ申告ニ接シタルトキハ附錄第三號書式ニ據リ引渡狀ヲ發スルカ又  
ハ逮捕シタル者ヲ解放スヘシ

第十七條 逃亡犯罪人ハ逮捕狀ニ據リ逮捕セラレタル後二月以上留置セラル、コトナ  
カルヘシ

第十八條 司法大臣ハ左ノ場合ニ限り引渡狀ヲ發スルコトヲ得

- 一 引渡犯罪ニ付告訴發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ若シ其告訴發ヲ受ケタル  
罪ヲ帝國内ニ於テ犯シタルトキハ帝國ノ法律ニ據リ審判ニ付テハ犯罪ノ證據充分ナ  
リト認メタルトキ

二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ相當裁判所ニ於テ其宣告ヲ爲シタルコ  
トヲ認メタルトキ

第十九條 闕席裁判ニ由リ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其引渡ヲ請求シタル締約國トノ  
間ニ特別ノ約款アルニ非サレハ本條例ニ於テハ之ヲ告訴發ヲ受ケタル者ト爲シ有  
罪ノ宣告ヲ受ケタル者ト認メス

第二十條 逮捕シタル者ヲ解放シ又ハ其引渡ノ爲メ令狀ヲ發シタルトキハ司法大臣ハ其  
執行シタル手續及其理由ヲ略記シ之ヲ引渡請求書及附屬書類ニ添ヘ外務大臣ニ返付ス  
ヘシ

○議長 可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

第二十一條 引渡狀ヲ發シタル後何人ヲモ一月以上留置スルコトヲ得ス但此期限内ニ  
之ヲ帝國外ニ引取ラサルトキハ請求國相當官ニ於テ正當ノ事由ヲ示スニアラサレハ  
解放スヘシ

第二十二條 逃亡犯罪人ヲ請求國ニ引渡ストキハ其逮捕ノ際差押ヘタル本人ノ携帶品  
ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其引渡ノ節本人ト共ニ悉ク之ヲ交付スヘシ

第二十三條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ據リ一外國ヨリ他ノ外國ニ引渡シタル者ノ



帝國版圖内海陸ノ通行ヲ認可スルコトヲ得

本條ノ請求ハ引渡ヲ受クヘキ國ノ政府ヨリ引渡狀ノ公寫ヲ添ヘ相當ノ順序ヲ經由シタル照會書ヲ外務大臣ニ於テ受領シタルトキニ限ル但帝國ト請求國トノ間ニ特別ノ

照會書ノ外仍ホ

約款ナキトキハ該請求國ノ政府ニ於テ之ト同一ノ場合即チ第三國ヨリ帝國ヘ逃亡犯罪人ヲ引渡シタル

場合 請求

ニ該國版圖内海陸ノ通行ヲ均シク認可スヘキノ保證ヲ爲シタル場合ニ限リ其通行認可ノ請求ヲ爲スコトヲ得

○議長 只今朝讀ノ分ニ同意ノ者ハ起立セヨ

起立者三十七人

○議長 多數ニ由リ可決ト認ム附錄逮捕狀書式ノ朗讀ヲ省ク別ニ發議ナクハ可決ト認ム第二讀會ヲ畢ル

○番二番

水野

本案ハ至急ヲ要スルニ非サルモ調査委員ニ於テ適當ノ修正アリ既ニ第二讀會ヲ通過セシニ由リ引續キ第三讀會ヲ開カレンコトヲ望ム

○議長 内閣委員ノ請求アリ之ニ同意ノ者ハ起立セヨ

起立者二十九人

○議長 多數ニ由リ第三讀會ヲ開ク朗讀ヲ省キ第一條乃至第八條ヲ問題トス

○議長 發議ナシ可定ト認ム第九條乃至第十六條ヲ問題トス

○議長 發議ナシ可定ト認ム第十七條乃至附錄ヲ問題トス

○議長 發議ナシ可定ト認ム第三讀會ヲ終ル乃チ修正ノ理由ヲ具シ上奏セン散會セヨ  
午前第十時三十分閉場



元老院會議筆記

○第五百四十五號議案

橫濱正金銀行條例

禁傍聽

○明治二十年六月二十五日 第一讀會

議長 大木 喬任

出席議員

一番	箕作 麟祥	二十一番	神山 郡廉
二番	尾崎 三良	二十二番	西 周
三番	神田 孝平	二十三番	穴戶 璣
四番	山口 尙芳	二十四番	河田 景與
五番	永山 盛輝	二十五番	綿貫 吉直
六番	渡邊 驥	二十六番	伊丹 重賢
七番	加藤 弘之	二十七番	福羽 美靜
八番	小畑 美稻	二十八番	宮本 小一
九番	坂本 政均	二十九番	岡内 重俊
十番	堀村 正直	三十番	渡 正元
十一番	東久世通禧	三十一番	原田 一道
十二番		三十二番	
十三番		三十三番	
十四番		三十四番	



三十五番	楯取 素彦	五十七番	長松 幹
三十七番	長岡 護美	五十八番	渡邊 清
三十九番	石井 忠亮	六十一番	林 友幸
四十番	由利 公正	六十二番	大島 圭介
四十三番	本田 親雄	六十四番	津田 眞道
四十四番	中島 錫胤	六十五番	清岡 公張
四十五番	鍋島 直彬	六十六番	村田 保
四十六番	大久保一翁	六十七番	鶴田 皓
四十七番	上杉 茂憲	六十八番	三浦 安
五十二番	黒田 清綱	七十番	壬生 基修
五十四番	田中 芳男	七十一番	久我 通久
五十六番	中村 正直		

内閣委員

番外一番  
番外二番

法制局參事官 股野 琢  
法制局參事官 大島邦太郎

午前第九時四十分開場

○議長 第五百四十五號議案第一讀會ヲ開ク開議ニ先タチ大藏大臣松方正義番外席ヨリ一應條例制定ノ理由ヲ開陳ス可シ各官之ヲ領セヨ

○員外大藏大臣松方正義 向キニ横濱正金銀行條例ヲ制定ス可キ必用アルヲ以テ草案ヲ具シテ内閣ニ提出セシニ今ヤ本院ニ下付セラル因テ其制定ノ要領ヲ辯明セン各官モ承知セララル、如ク正金銀行ハ從來國立銀行條例ニ準據シ來レルモ目今其業務ヲ擴張スルニ際シ差支ノ廉少ナカラサルヲ以テ特ニ此條例ノ制定ヲ要スルニ至レリ尤モ當初創立ノ主意タル貿易上ニ關シ内外國ノ媒介ト爲リ金融ヲシテ圓滑ナラシムル一機關ニ供スルニ在リ因テ明治十三年ニ創立シ十四十五年間ハ種々困難ノ事情アリテ目的ヲ達スル能ハサリシモ十六年以降稍見込ノ如ク運ヒ外國ノ直輸及外國人ノ爲替ハ漸ク旺盛ニ赴キ昨年取扱タル爲替金高ハ幾ント二千万圓許ノ多キニ至レリ先年七朱公債ヲ募集スルヤ英國ノ東洋銀行主トシテ之ヲ取扱シモ同行ノ閉店スルニ及テ外國株主ノ屬望スル銀行ニ於テ引受クルノ預約アルニモ拘ハラス我邦ノ信用ハ日ニ増進セルヲ以テ之ヲ我銀行ニテ取扱フハ第一經濟上ノ利益ハ勿論ナリ若シ外國銀行ニ托スレハ獨リ我銀行ノ不信用ヲ招クノミナラス延テ政府ノ信用上ニモ大ニ關係セリ因テ向キニ英國政府ニ照會シ其承諾ヲ得支店ヲ龍動ニ設ケタリ是レ即チ政府將來ノ都合ヲ謀ル爲メニシテ大藏大臣ハ之レニ命スルニ其業務取扱ヲ以テセリ然レモ國立銀行條例ハ專ラ内國ノ業務ニ關シ外國ニ係ハラス唯其之ニ準據ス可キモノハ有責任ノ一項アルノミニシテ業務ハ條例ノ範圍外ニ發達シ爲メニ往々外國關係ノ事務ヲ取扱ハサルヲ得サルニ至ル故ニ若シ今ニシテ満足ナル條例ノ設ケナク取引上ヨリ訴訟ノ起ルアラハ忽チ差支ヲ生スルヤ必然ニシテ是レ本條例ヲ要スル所以ナリ人或ハ云ハン本條例ヲ設クルヨリ寧ロ日本銀行ニ合併



スルノ便ナルニ如スト其説或ハ是ナルカ如ク當局者モ亦此ニ論及セシコアリシモ差支ヲ生スルノ憂アリテ到底獨立業務ヲ扱ハシムルノ優レルニ如カスト爲セリ若シ之ヲ合併セハ中央銀行ノ格式ト爲リ荷爲替ヲ爲ス能ハス或ハ日本ノ貿易ハ低度ナルヲ以テ中央銀行ニ於テ荷爲替ヲ爲スモ可ナリトセハ獨り銀行ノ地位ヲ降下スルノミナラス將サニ進歩セントスルノ業務モ却テ退歩スルニ至ラントス又内國ノ銀行貿易上ノ現況ヲ見ルニ其營業ハ普通ノ爲替ヨリ荷爲替最モ盛ンニシテ到底之ヲ廢スルコト能ハス故ニ正金銀行ト日本銀行トハ各分業スルヲ安全ノ策トス又假リニ合併スルモノトセンカ時勢ノ變遷ニ隨ヒ中外ノ物論ナキヲ得ス萬一外患起ル在ルアラハ中央銀行ノ業務ニ難澁ナル勿論ナレハ宜シク平時ニ在テ之ヲ避クルノ策ナカル可カラス彼ノ佛蘭西獨逸英吉利等各中央銀行ノ外患ニ由テ困難ヲ惹起セシ例證ハ歴然見ル可シ故ニ今各自分業シテ從事セハ縱令正金銀行ハ非常ノ困難ニ陷ルモ日本銀行之ヲ補助スルコトヲ得一ハ困難ヲ直接ニ受クルモ一ハ之ヲ免レ將來如何ナル時變ニ遭フモ之ヲ處スルニ易キナリ是迄合併當否ノ論ハ審ニ數日ノミナラス年月ヲ經テ初メテ此ニ至リシナレハ速ニ條例ヲ制定シ外國取引先ニ周知セシメ以テ幾層ノ信用ヲ確メントス最前陳述セシ支店ハ初メ英京龍動ノミナリシモ後佛蘭西ノ里昂亞米利加ノ紐育及桑港等已ニ支店ヲ置クニ至リ近日又伊太利ノ未蘭ニモ設クル筈ナリ此ノ如キ有様ナルヲ以テ本條例ヲ速ニ制定シ業務ノ益發達センコトヲ欲ス最早暑中休暇ニ迫ルヲ以テ其以前ニ議了センコトヲ切望ス仍ホ大体上ノ質疑ハ本官答辯ス可シト雖モ逐條説明ハ内閣委員之ヲ爲ス可シ

○五十八番 渡邊清

聊カ疑義ヲ懷キシモ只今大臣ノ演説ニ由テ發明シ此條例ノ無カル可カラサルヲ知レリ故ニ之ヲ贊成ス當時橫濱正金銀行ヲ設クルニ方テハ紙幣ト銀貨ノ差甚シカリシモ日本銀行ヲシテ兌換紙幣ヲ發行セシムルニ及テ當初ノ景況トハ大ニ相違シ外國ニ於テモ我正金銀行ヲ信用スルニ至リシハ誠ニ賀セサル可カラス然ルニ此第十四條ニ故サラニ「通貨ヲ以テ」云云トアリ即チ紙幣ヲ云フナル可シ果シテ然ラハ「通貨ヲ以テ其四分ノ一」云云ノ語ハ分明ナラサルカ如シ從前正金ヲ以テ準備トセルモ今回初メテ通貨ノ文字顯ハレ此通貨ヲ以テ準備トスルヲ便利トセハ正金銀行ト云フヲ要セス單ニ橫濱銀行ト稱シテ可ナラン正金銀行ト云ヒテ通貨ヲ以テ準備ト爲スハ穩當ナラス故ニ本官ハ通貨ト云ハスシテ只四分ノ一ト爲セハ可ナリト信セリ一應其旨意ヲ辯明アラントコトヲ乞フ

○員外 大藏大臣松方正義

質問ニ答ヘン此事ハ本條ヲ熟覽セハ明了ナル可シ即チ其預リ金ニ對シ公債證書ナリ何ナリ受領者ノ手當ニ備ヘ之ヲ支拂フモノニシテ四分ノ一即チ用意金ナリ發行紙幣ニ對スル準備金ニ非ルナリ銀行ノ總體ニ關セス何時引出スモ量リ難キ故ニ預リ金ノミニ對スルノ旨意ナリ此箇條ハ外國ニ在テハ兎モ角日本ニ於テハ堅ク取ツテ四分ノ一ト爲スヲ可トス又經濟學者ノ説ニ蓄積スルヲ要セス預リ金ハ返スヲ以テ當然トス故ニ此ノ如ク檢束セサルヲ可トスト云フ然レモ日本ニ於テハ前陳ノ如ク用意スルヲ至當ト爲ス

○六十二番 大島圭介

隣席ノ質問即チ正金ノ名稱ニ對シ説明ナキカ如シ明治十二三年ヨリ十



五六年ノ交ハ紙幣ト正金トノ差甚タシク外國ニ對スル爲換モ正金ヲ以テ取引セリ故ニ正金ノ文字適當ナルモ今日通用スル紙幣モ貨幣ト平等ニ歸セシ以上ハ正金ト云フ名ハ無用ニシテ之ヲ除クカ否ラサレハ他ニ名目ヲ設クルヲ是トス如何ン

○員外大藏大臣 松方正義 至極尤ノ説ナリ一體銀行ニシテ正金ト名付ルハ其實紙幣國ト見ユルヲ以テ面白カラス然レモ外國ニ對シ既ニ正金銀行ノ名ヲ以テ取引ヲ爲シ已ニ信用セラル故ニ内國ハ可ナルモ外國ニ對シテハ目下之ヲ改メサルヲ可トス後世縱令紙幣國ナリトシ歴史上ノ證據ト爲ル可キモ外國ニ於テハ名稱ニ關スルコトハ輒ク變更セス役名ニモ可笑ナ名多ク已ニ慣習ヲ爲シ耳慣レ目慣レシハ年ヲ經ルモ改メス故ニ名稱丈ケハ依然据ヘ置クモ可ナラン

○六十六番村田保 本官モ名義ハ橫濱「バンク」ト爲セハ適當ト思考セシモ外國ニ出張所モアレハ已ムヲ得ス据置クヲ可トス惟フニ紐育銀行ハ亞米利加合衆國銀行ト稱シ獨立セシカ如ク正金銀行ハ國立銀行條例ニ準據セス今回特別ノ方法ヲ設ケ日本銀行ト同シク獨立スルヲ示スニ在リ故ニ是迄取扱シ權利義務モ自ラ變更セサルヲ得ス然ルニ曾テ紐育銀行ノ變換セシキ一切從前銀行ノ精神ヲ換ユルモ其權利義務ニハ變更ナキヲ示セルモ本案ノ如クスルキハ爲メニ疑惑ヲ生セントス又第十六條ニ日本銀行副總裁ヲシテ橫濱正金銀行頭取ヲ兼子シメ云云トアリ日本銀行ト正金銀行ト各別ナル以上ハ終始取引ヲ爲ス可シ取引ヲ爲セハ自然訴訟ノ起ルコトナシトセス日本銀行ハ總裁若クハ副總裁ノミナルコトアラン日本銀行ノ副總裁ニシテ正金銀行ノ頭取ヲ兼ヌルニ若シ訴訟ノ起ルキハ

一人ニシテ原被告ト爲ラサルヲ得ス萬一此ノ如キ場合アルキハ之ヲ如何處分スルヤ日本銀行總裁ハ勅任ナリ副總裁ハ奏任ニシテ任期アリ本案ハ同銀行條例ニ據リ組織セシ者ト考フルモ役人ノ任期ナシ總テ銀行ノ役員ハ公選ニシテ任期アリ五年又ハ三年トス獨リ正金銀行條例ニ之ヲ載セサルヲ以テ考レハ本行頭取ハ終始動カサルモノノ如シ是レ必ス其理由ノ存シテ然ルナラン請フ説明ヲ煩ハサン

○員外大藏大臣 松方正義 第一ノ質問了解セス第二ハ副總裁ニシテ頭取ヲ兼子第三ハ任期ト承知セリ第一ノ質問ハ猶ホ一應辯解アラントヲ望ム

○六十六番村田保 權利義務ニハ變更ナキヤ

○員外大藏大臣 松方正義 變更セサルナリ從前國立銀行條例ニ準據シ今後ハ此條例ニ準據スルモ俱ニ前ノ權利義務ハ其儘繼續シテ變更ナシ若シ爭論起ルキハ該條例ヲ以テ處分スルナリ本案ハ獨リ内國ノミニ止マラス外國ニ關係セルヲ以テ精密調査セシモ猶ホ精密ナラント望マハ立法官ノ職ニ於テ十分論究アリタシ第二日本銀行副總裁ヲシテ頭取ヲ兼子シムルハ蓋シ變則トス若シ訴訟ノ起ルキハ如何ト云フモ日本銀行ハ他ノ銀行ノ比ニ非ス必ス總裁アリ副總裁アリ故ニ敢テ差支ナシトス第十六條ニ就テハ別ニ閣議ノ在ル有ルニ非サルモ此ノ如キ大ナル銀行二個並立スルキハ其金銀取扱上ニ關シ後年如何ナル軌轢ヲ生スルヤ量ル可カラス各官モ已ニ承知セラル、如ク獨逸中央銀行ト海外ノ爲替組織ハ彼邦ニモ一ノ疑問ト爲レリ我國ハ創業ノ際ニシテ或ハ軌轢ヲ生スルナキヲ保セサル可シ斯ル場合ニハ大藏大臣ニ於テ臨機之ヲ調和セサルヲ得ス故ニ此ケ條ヲ必用ト



爲シ特ニ之ヲ加ヘタリ是即チ日本銀行條例第十八條ニ總裁副總裁ハ任期中他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ストアルニモ拘ハラズ副總裁ヲシテ正金銀行ヲ兼ネシメ又正金銀行頭取ヲシテ日本銀行ノ理事ヲ兼ネシムルハ互ニ事情ヲ貫通シ共事務圓滑ニ行ハルルヲ主トスルニ外ナラサルナリ現今獨逸ニ於テモ副總裁ヲシテ海外爲換銀行頭取ヲ兼ネシメ若シ軋轢ヲ生スル場合アルハ政府ノ命令ヲ以テ調和セシムルケ條ヲ設ク可シトノ議論アリト云フ日本ニテハ原案ノ如クニテ可ナリト信ス第三ノ質問ハ第十五條ニ其任期ヲ一年トス但滿期ニ當リ復選スルモ妨ケナキモノトストアルヲ以テ領會セラレンコトヲ望ム

○一番 巽作 一應質問セン正金銀行ノ名義ハ可ナルモ横濱ノ文字ハ全ク本店ヲ彼所ニ設クルニ起因セシナル可シ今日横濱ハ海外貿易ノ地ナルモ若シ後來東京灣ヲ築造シ外國爲換ノ如キ此地ニ於テ取扱ニ至ルアラシモ知ル可ラス然ラハ單ニ正金銀行ト唱フルヲ便宜トス横濱ノ地名ヲ冒スハ拘泥ニ過キテ狭小ニ失スル如ク思考セリ

○員外 大藏大臣 松方正義 紐育ノ銀行ハ紐育銀行ト稱セリ從來慣用ノ文字ナレハ之ヲ存スルモ差支ナカル可シ

○二番 尾崎 三頁 外國ニ於テ翻譯セシ書ヲ閱スルニ「スペインバンクヨコハマ」トアリ横濱正金銀行ト稱スルモ敢テ妨ケ無カラシ

○一番 巽作 詳 本官ハ「ヂヤツパニススベシイバンク」トセンコトヲ望ム  
大藏大臣 松方 正義  
退席

○議長 第五百四十五號議案第一讀會ヲ開ク各條ノ朗讀ハ之ヲ略ス

書記官 森山 朗讀  
横濱正金銀行條例

右其院議定ニ付ス  
明治二十年六月二十一日  
内閣總理大臣伯爵伊藤博文  
元老院議長伯爵大木喬任殿

○五番 山口 尚芳 聊カ質問セン是迄横濱正金銀行ハ國立銀行條例ヲ遵奉セシニ今回此條例發布アラハ其權利義務ノ繼續ト移轉ニ於テ如何ナルヤ且第三條ヲ見ルニ今日始テ開業スルモノニ非ス「開業ノ日即チ明治十二年二月二十八日ヨリ滿二十箇年トス」云云トアリテ既往ニ訴ルモ本條例中ニハ其權利義務ノ繼續ト移轉ノ手續如何ヲ明ニセス條例ノ改ル以上權利義務モ自ラ變更スルモノトセハ「開業ノ日」云々ノ數字ハ全ク不用ナラン故ニ本條例ヲ遵奉スル即チ明治二十年ヨリ起算シテ可ナルカ如シ何カ他ニ事情ノ在ルアリテ然ルヤ答辯ヲ煩ハサン

○番 股野 珠 只今五番ノ質問ハ或ハ本官ノ誤聞セシヤ知ル可カラサルモ第二十六條ニ「横濱正金銀行ハ明治二十年七月一日ヨリ此條例ヲ遵奉シ」云云トアルヲ以テ答辯ハ十分ナリト思考ス又第三條ノ質疑ハ過刻大藏大臣演說ノ如ク正金銀行ハ依然權利義務ヲ保續シ本條例ハ之ヲ修正セシモノト解セハ可ナリ即チ是迄ノ營業年限ヲ繼續シ別ニ權



利義務ニ關係セス從前ノ如ク事務ヲ處辨スルヲ示スニ在ルナリ

○五十八番 渡邊 第四條ニ資本金ノコアリ從來三百万圓ナルモ今回ハ六百萬圓ニ増加スルノ旨意ナリヤ

○外一番 設野 質問ノ點ハ四五月ノ交許可ヲ得テ三百万圓ヲ増株シ現今ハ六百萬圓ト爲レリ

○議長 各官發議ナシ大体ノ討論已ニ盡タリト思料ス因テ此ニ第一讀會ヲ終ル本案ハ至急ヲ要スルヲ以テ來ルニ二十七日例刻第二讀會ヲ開カン散會セヨ

午前第十時四十五分閉場

○明治二十年六月二十七日 第二讀會

議長 大木喬任

出席議員

- |     |       |     |       |
|-----|-------|-----|-------|
| 三番  | 神田 孝平 | 十六番 | 伊集院兼寛 |
| 六番  | 永山 盛輝 | 十七番 | 坂本 政均 |
| 七番  | 大迫 貞清 | 十八番 | 榎村 正直 |
| 十四番 | 伊東 祐磨 | 十九番 | 長谷部辰連 |
| 十五番 | 小畑 美稻 | 二十番 | 東久世通禧 |

- |      |       |      |       |
|------|-------|------|-------|
| 二十一番 | 神山 郡廉 | 四十七番 | 上杉 茂憲 |
| 二十二番 | 西 周   | 四十八番 | 細川潤次郎 |
| 二十三番 | 穴戸 璣  | 五十一番 | 調所 廣丈 |
| 二十四番 | 河田 景與 | 五十三番 | 町田 久成 |
| 二十八番 | 福羽 美靜 | 五十四番 | 野村 素介 |
| 三十番  | 宮本 小一 | 五十六番 | 中村 正直 |
| 三十二番 | 岡内 重俊 | 五十七番 | 長松 幹  |
| 三十三番 | 渡 正元  | 五十八番 | 渡邊 清  |
| 三十四番 | 原田 一道 | 五十九番 | 橋口 兼三 |
| 三十五番 | 楫取 素彦 | 六十一番 | 林 友幸  |
| 三十七番 | 長岡 護美 | 六十三番 | 田邊 太一 |
| 三十九番 | 石井 忠亮 | 六十四番 | 津田 眞道 |
| 四十番  | 由利 公正 | 六十五番 | 清岡 公張 |
| 四十三番 | 本田 親雄 | 六十九番 | 何 禮之  |
| 四十四番 | 中島 錫胤 | 七十番  | 壬生 基修 |
| 四十五番 | 鍋島 直彬 | 七十一番 | 久我 通久 |
| 四十六番 | 大久保一翁 |      |       |

内閣委員



番外二番

法制局參事官

大島邦太郎

午前第九時四十分開場

○議長 第五百四十五號議案第二讀會ヲ開ク都合ニ依リ二三條連帶シテ決ヲ取ルコアル可シ

書記官 森山 朗讀

橫濱正金銀行條例

第一條 橫濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負債ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

○四十八番 細川潤 本官ハ第一讀會ニ缺席シ内閣委員ノ説明ヲ聞カサリシモ本案ヲ通讀スルニ格別不都合ノ點ヲ見出サレモ文字上妥當ナラサル所アルヲ見ル故ニ第一讀會ハ

異議ナク經過シ今ヤ第二讀會ニ方ルモ何卒第五百四十四號議案ノ如ク全部附托調査委員ヲ設ケ之ニ附托アラントヲ建議ス特ニ本案ハ二十七條ニ涉リ條數モ多ク加之當年七月一日ヨリ施行ストアリテ要急ノ議案ナレモ議場ニ於テ可否討論セハ容易ニ議論ノ歸着スルコ難カラシク外國ノ議院ニテモ委員ハ議院ノ精神ナリト稱シ多數ノ一體ハ此精神ニ因テ運動スルノ理ニシテ委員ノ調査ヲ經ルニ方リテハ委員外ノ者モ其席ニ臨ミ各意見ヲモ述ヘ且安心スルヲ得ヘシ謬ニ所謂急ク道ハ回ハレト又洋語「エ、ホエツト、イス、ノツト、レット」即チ研究スルコトハ遲延ニ非スト云ヘル如ク委員席ニ於テ研究セハ議場整頓ノ一助ト爲リ却テ急ヲ要スル意ニ適セン幸ニ贊成アラント望ム

○議長 四十八番ヨリ全部付托調査委員ヲ設クルノ建議アリ之ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十七人

○議長 多數ニ由リ全部付托調査委員ヲ設クルニ決ス其委員ハ本席ニ於テ選定セン五番山口尙芳四十八番細川潤次郎十八番榎村正直六十五番清岡公張六十八番三浦安ノ五名トス内五番六十八番兩議官ハ第五百四十四號議案ノ調査委員ナルモ別ニ差支ナカル可キヲ以テ兼帶センメン散會セヨ  
午前第九時四十五分開場

○明治二十年六月三十日 第二讀會 二十七日

議長 東久世 通禮

出席議員

- |    |       |     |       |
|----|-------|-----|-------|
| 一番 | 箕作 麟祥 | 十一番 | 渡邊 驥  |
| 三番 | 神田 孝平 | 十三番 | 加藤 弘之 |
| 五番 | 山口 尙芳 | 十五番 | 小畑 美稻 |
| 六番 | 永山 盛輝 | 十七番 | 坂本 政均 |
| 七番 | 大迫 貞清 | 十八番 | 榎村 正直 |



二十一番	神山 郡廉	四十八番	細川潤次郎
二十二番	西 周	五十三番	町田 久成
二十四番	河田 景與	五十七番	長松 幹
二十五番	綿貫 吉直	五十八番	渡邊 清
三十番	宮本 小一	五十九番	橋口 兼三
三十二番	岡内 重俊	六十一番	林 友幸
三十三番	渡 正元	六十三番	田邊 太一
三十四番	原田 一道	六十五番	清岡 公張
三十五番	楫取 素彦	六十六番	村田 保
三十七番	長岡 護美	六十八番	三浦 安
三十九番	石井 忠亮	六十九番	何 禮之
四十番	山利 公正	七十番	壬生 基修
四十五番	鍋島 直彬	七十一番	久我 通久
四十七番	上杉 茂憲		

内閣委員

番外二番

法制局參事官

大島邦太郎

午前第九時二十分開場

議長 第五百四十五號議案第二讀會ノ續會ヲ開ク

○四十八番細川潤次郎 本官向キニ調査委員ノ選ニ當リシヲ以テ例ニ依リ修正セシ要點ヲ一應説明セン其修正タル文字上ノ修正ニ過キス即チ第五條中「買賣讓與スル」ノ下ニコトノ二字ヲ加ヘシハ第四條ノ「請願スルコトヲ得第六條ノ「買賣讓與スルコトヲ得」トアルノ文例ト同ウセルナリ第六條ノ「銀行ノ」三字ヲ削リシハ銀行ノ云云トスレハ他ノ一般ノ銀行ヲモ指ス如キ嫌ヒアリ之ヲ區別セントスレハ横濱正金銀行ノ定款ニ從ヒト作サハルヲ得サレモ是亦蛇足ニ屬スルヲ以テ寧ロ削ルニ如カスト爲シ之ヲ削レリ第七條第一項第二項及第四項中「及」ノ下「ヒ」ヲ削リシハ近來ノ法律文皆此字ヲ用井且本案第九條中ニモ之無キヲ以テナリ第八條中地金銀ノ下「又」ノ二字ヲ削リシハ下文ニモ「又」トアリ且物品ノ名目ヲ連續スルノミニシテ全ク贅字タレハナリ第十條「及」ノ下「ヒ」ヲ削リ「爲ス」ノ下ニコトノ二字ヲ加ヘシハ第五條ニ同シ第十一條中「之ニ類似」ノ四字ヲ削リタルハ如何ナル者ヲ以テ類似ノ物件ナリヤト問ハ、其答辯ニ苦シマン到底語弊アルヲ免レス故ニ「其他ノ物件」ト爲シ不動産、株券等ニ限ラサルヲ示スニ在リ且コトノ二字ヲ加ヘタルハ他ト文例ヲ一ニセルナリ同條第二項中「負債主」ヲ負債者ト改メシハ稍々文字ノ妥當ナルヲ要セシナリ但シ書亦同シ第十三條中「及」ノ下ヒノ一字ト「之ニ類似」ノ四字ヲ削リシハ前ニ陳述セシ如シ第十四條「預」ノ下リノ一字ヲ削リシハ第七條第四ニ「リ」ノ字ナシ故ニ改ム又「通貨ヲ以テ」ノ五字ヲ削リシハ準備金ノ文字アルニ由リ此ニ必用ナク「四分ノ一」ノ下ニ以上ノ二字ヲ加ヘシハ世上ノ信用ヲ確ムル爲メナリ第十六條但書中「ノ適當」ヲニ於テ必要ト改メシハ原案ニテモ或ハ可ナルモ此所ハ大臣カ



必要ト認ムル場合ナレハ此ノ如クスルヲ妥當ナリトシ且第二十一條ニモ必要ト記セルヲ以テナリ又ハ「下」同字ヲ橫濱正金銀行ト改メシハ文字冗長ナルモ實名詞ヲ明カニ掲クルヲ可トスルニ由ル第二十一條中「違背」ヲ背戻ト改メシハ第二十一條ニ「定款ニ背戻」トアルヲ以テ之ヲ齊一ニセルナリ又「大藏大臣ノ下」ノヲニ於テト改メシハ前述ノ理由ニ同シ「之ヲ解散セシムルコトヲ得」ヲ其營業ヲ停止シ又ハ解散ヲ命スルコトヲ得ト改メシハ單ニ解散トスレハ一時ニ極端ニ趨ルノ傾キアリ故ニ先ツ停止シ猶ホ不都合アルキハ始メテ解散ヲ命スルノ餘地寛和ヲ與ヘタルナリ同條第二項中「三分」ノ下ニノ字ヲ加ヘシハ文例ヲ同一ニスルニ在リ第二十二條中「背戻スル」ノ下ニ所爲アルノ四字及ヒ「事件」ノ下ニアルトキノ四字ヲ挿入セシモ皆文例ヲ同シクスル爲メナリ第二十三條「及」ノ下「ヒ」ヲ削リシハ已ニ前述ニ盡セリ第二十五條中「及」ノ下「ヒ」ヲ削リ「押捺スル」ノ下ニコトノ二字ヲ加ヘシモ亦同シ第二十六條中「七月一日」ヲ七月 日ト改メシハ其期明日ニ迫ルヲ以テ一ノ字ヲ除キ便宜ヲ與ヘシナリ「要スルモノハ又」ヲ要スルトキハ亦ト改メシハ近來ノ文例ニ據ル其次ニ新タニ第二十七條ヲ増補セシハ現行國立銀行條例第百例ニハ制裁アルモ本案ニ之レ無キハ或ハ寛裕ニ過クルニ似タリ因テ國立銀行條例第百十條ニ三圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル額數トアルヲ參酌シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處スル制裁ヲ付シタルニ在リ原案第二十七條ヲ第二十八條ト爲セルハ新タニ第二十七條ヲ加ヘタルニ由ル先ツ修正ノ理由大略此ノ如シ猶ホ質問ノ點アラハ他委員ヨリ辯明アル可シ

出席

五十二番 黒田 清綱

○議長 調査委員ヨリ修正ノ理由ヲ説明セリ即チ修正案ヲ以テ議題ト爲スニ同意ノ者ハ起立セヨ

全會一致

○議長 全會一致ナルニ由リ修正案ヲ以テ議題ト爲ス簡短ノ條ハ連帶シテ朗讀セシメン

書記官 森山 朗讀

橫濱正金銀行條例

第一條 橫濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負債ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

○議長 本案ニ同意ノ者ハ起立セヨ

起立者三十七人

○議長 多數ナルニ依リ本案ニ可決ス

書記官 森山 朗讀

第二條 橫濱正金銀行ハ本店ヲ橫濱ニ設置ス又内外國ニ於テ貿易上要用ナル地ニ支店

又ハ出張所ヲ設置シ又他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店

出張所ヲ設置若クハ廢止シ又ハ外國銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約若クハ解約

スルトキハ共事由ヲ大藏大臣ニ具狀シテ許可ヲ受クヘシ

第三條 橫濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日即チ明治十三年二月二十八日ヨリ滿二十



箇年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條 橫濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定メ之ヲ六萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増減ヲ請願スルコトヲ得

○議長 發議ナシ可定ト認ム

書記官 森山 朗讀

第五條 橫濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條 橫濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ銀行ノ定款ニ從ヒ賣買讓與スルコトヲ得

第七條 橫濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 外國ノ爲替及ヒ荷爲替

第二 內國ノ爲替及ヒ荷爲替

第三 貸付

第四 諸預金及ヒ保護預

第五 爲替手形約束手形其他諸證券ノ割引又ハ其代金取立

第六 貨幣ノ交換

第八條 橫濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證書地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ

賣拂フコトヲ得

第九條 橫濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スコト

アルヘシ

○六十六番 保村田 第七條ニ聊カ文字ノ修正ヲ加ヘン其第四「諸預金及保護預」トアル金ノ

字ヲ削ラントス即チ前第三ニモ「貸付」トアリテ金字ナシ故ニ之ヲ同一ニセントスルナリ

○議長 六十六番ノ發議ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○一番 眞作 第八條地金銀ノ下「又ハ」ノ二字ヲ削除アリシモ本官ハ原案ノ如ク存スルヲ

是トス近來法律文ニ實名詞ヲ並記スルハ又ハ及ヒ等ノ文字ヲ加フヲ例トセリ末ノ

又ハハ動詞ト動詞ノ間ニ在テ接續字ナレハ自ラ前ノ實名詞ト異ニシテ重複ニ非ラサ

ルナリ

○五十八番 渡邊 本官モ二字ノ削除ヲ不可ト思考ス寧ロ「及」ト爲スヲ可トス因テ賛成ス

○議長 一番ノ修正說ヲ問題トス

○三番 神田 本官モ同感ナリ賛成

○議長 一番ノ發議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十三人

○議長 多數ナルニ依リ修正ニ決ス

○三十五番 榊取 第七條ノ第四「預」ノ下ニ「リ」ノ一字ヲ加ヘントス何トナレハ預ケ預リ

ト自ツカラ主客ノ相違ヲ生ス可ケレハナリ且第十四條モ原案ニ復セン

○議長 三十五番ノ發議ハ賛成者ナシ消滅ス他ニ發議ナキニ依リ可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

第十條 橫濱正金銀行ハ第七條第八條及ヒ第九條ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲ス



コトヲ許サス

第十一條 橫濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除クノ外不動産株券其他之ヲ類似ノ物件ヲ買取リ又ハ引受クルヲ得ス

第一 銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルトキ

第二 貸金返濟ノ爲メ負債主ヨリ之ヲ引渡シ又ハ賣却スルトキ

第三 貸金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付シタルトキ

第十二條 橫濱正金銀行ハ本行ノ株券ヲ抵當ニ取り又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負債主其辨償ヲ怠リテ他ニ相當ノ抵當ナク若クハ返濟ノ道ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取り又ハ引受クルハ此限ニ在ラス

第十三條 第十一條第二項第三項及ヒ第十二條ノ場合ニ於テ不動産株券其他之ヲ類似ノ物件ヲ引受ケシトキハ必ス十箇月以内ニ之ヲ賣却スヘシ但賣却代價不相當ト認メタルトキハ其實質ヲ大藏大臣ニ具申シ延期ヲ請フコトヲ得

○六十六番保村田 番外ニ質問セン第十一條第二ノ「之ヲ」ハ本文ヲ指スヤ或ハ第一ノ地所家屋ヲ云フヤ如何ン

○番二番大島邦 本文ノ不動産株券其他ノ物件ヲ指スナリ

○六十六番保村田 調査委員ハ「之ニ類似」ノ文字ヲ削ラレタルヲ以テ見レハ如何ナル物件

ト雖モ此中ニ包含スルニ依リ返金スル能ハサルトハ一家内ノ衣服又ハ鹽等ノ如キ雜具ト雖モ隨意ニ引取ヲ得ルノ疑惑ヲ生ス斯ル弊起ラハ如何之ヲ處分スルヤ本官ハ「之ニ類似」ノ文字ヲ存スルハ却テ此弊ヲ防クニ足ル可シト信セリ今一應削除ノ理由ヲ辯明アラシムヲ請フ

○五番山口 第十一條ニハ不動産株券類ヲ主トシテ舉ケタルモ商賣上ヨリ論スルトハ不動産株券類ニ限ラス苟クモ金ニ代ユル物件ハ總テ之ヲ引取り其損失ヲ償ハサル可カラズ否ラサレハ負債者ニ對シ銀行ハ非常ノ損害ヲ被ル可シ故ニ類似ノ文字ヲ削レルナリ

○六十六番保村田 銀行ニ於テ何品ニ限ラス引受ルハ穩カナラサルニ似タリ然レモ内閣委員モ已ニ同意セシ以上ハ本官別ニ修正説ヲ提出スルヲ要セス又第十二條中「若クハ返濟ノ道ナキ場合」ニ云トアルモ道トハ所謂方法ト云フ旨趣ナル可シ然ルニ偶然讀過スルトキハ或ハ返濟ノ道理ナシト解スルアラシムヲ恐ル他ノ法律ニ其例アリヤ如何ン

○番二番大島邦 出所ノ如何ヲ辯明スルヲ能ハサルモ即チ辨濟スル方法ナシト云フノ意義ナリ

○六十六番保村田 返濟ノ道ト云フ言詞ニテハ可ナルモ文字ニ記スルトハ或ハ不都合ヲ生スルアラシム故ニ方法ナキ場合ト修正セントス

○五十八番渡邊 賛成ス其理由ハ發議者ニ同シ故ニ賛セス

○議長 六十六番ノ發議ニ賛成アリ因テ問題トス



○議長 討論ナシ決ヲ取ラン問題ニ同意ノ者ハ起立セヨ  
起立者六人

○議長 少數ナルニ由リ消滅ス他ニ發議ナケレハ第十三條迄可決ト認ム  
書記官 茂 森山 朗讀

第十四條 橫濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ支拂フヘキ諸預リ金ニ對シ通貨ヲ取テ  
其四分ノ一ニ當ル準備金ヲ備ヘ置クヘシ

第十五條 橫濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ定メ五十株以  
上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選舉シ其任期ヲ一年トス但滿期ニ當リ復選スルモ妨  
ナキモノトス

第十六條 頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但大藏大臣<sup>ニ於テ必要</sup>適當  
ト思考スルトキハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ橫濱正金銀行頭取ヲ兼子シメ又ハ同頭  
取ヲシテ日本銀行理事ヲ兼子シムルコトアルヘシ

銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ副頭取一人ヲ互選スルコトヲ得但其職權ハ頭取  
事故アルトキ之ヲ代理スルニ止マルモノトス

頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

○五十八番<sup>渡邊</sup> 第十四條請求次第ノ旨趣ハ請求スルルハ直チニト云フ立案ノ意義ナル  
可キモ次第トアレハ請求ノ順序ヲ逐フ如キ感ヲ生ス故ニ權利者ノ請求ニ應シ支拂フ可

シト改ムルヲ可トス因テ「次第」ノ二字ヲ改メ應シテ「三」字ヲ加ヘントス

○議長 五十八番ノ發議ハ賛成ナシ消滅ス他ニ發議ナキニ依リ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 茂 森山 朗讀

第十七條 橫濱正金銀行ハ毎年二回定式株主總會ヲ開キ定款ニ定メタル事項ヲ決定ス  
ヘシ又臨時ノ事件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會ヲ開クコトヲ得

株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ

第十八條 每半季利益金ヲ配當スルトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シテ認可ヲ受  
クヘシ

第十九條 每半季純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フコト

第二 配當金ノ不足ヲ補フコト

第二十條 貸金返済ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルトキハ其損失ト見  
積リタル金額ニ對シテ準備金ヲ積立ツヘシ

○議長 發議ナシ可決ト認メ次條ニ移ラン

書記官 茂 森山 朗讀

第二十一條 橫濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金ノ半額以上ヲ減少シタルト  
キ又ハ此條例ニ違背シタル所爲アリテ大藏大臣メ必要ト思考スルトキハ之ヲ解散<sup>ニ於テ其營業ヲ停止シ又ハ解散ヲ命スルコトヲ得</sup>



又株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ於テハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得但

此總會ニ於テハ株主總員二分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一以上ニ當ル株主出席シ

其議決權ノ三分二以上ニ依テ決議スルモノトス

所爲アル

第二十二條 橫濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戾スルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ不利ナ

リト認ムル事件ハ大藏大臣之ヲ制止スルコトヲ得

第二十三條 大藏大臣ハ時々官吏ヲ派遣シテ橫濱正金銀行ノ業務及ヒ財産ノ實況ヲ檢

査セシムヘシ

○一番 其作 第二讀會ナルモ聊カ疑義アルヲ以テ内閣委員ニ質問シ第三讀會ニ至リ或ハ

修正說ヲ提出セントス即チ第二十一條ノ第二項ニ「政府ノ許可」トアリ第二條ニハ大藏

大臣ノ許可トアリ因テ思フ任意ノ解散ハ閣議ヲ經ルノ意ナリヤ

○番二番 大島邦 太郎 任意ノ解散ハ重要ニ係ルヲ以テ閣議ヲ經シカ爲メ特ニ「政府ノ許可」云

云ト爲セリ

○議長 可定ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

第二十四條 橫濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出

スヘシ

第二十五條 橫濱正金銀行本支店及ヒ出張所ニ於テハ重要ノ文書ニ其本支店若クハ出

張所ノ印ヲ捺捺スヘシ但海外ニ在ル支店出張所ニ於テ發スル文書ニハ之ヲ捺捺スル

ヲ要セス

第二十六條 橫濱正金銀行ハ明治二十年七月一日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議

ヲ以テ更ニ定款ヲ制定シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款ノ改正増補ヲ要スル

トキ 又本條ニ準ス

○六十六番 保村田 第二十五條中「海外」トアルモ他條ニハ總テ外國トアリ他ノ法律モ亦然

リ故ニ外國ニ在ルト修正セン

○六十八番 安三浦 六十六番ノ修正說ヲ贊成ス海外ノ文字ハ詩句等ニハ用ユルモ法律文ニ

ハ不可ナリ

○議長 贊成アルニ由リ六十六番ノ說ヲ問題トス

○三番 神田 孝平 本官ハ本條ニ意見アルモ質問ノ機會ヲ失シ已ニ六十六番ノ發議問題ニ上レ

リ可決后ハ發言ヲ得サルヲ以テ只今質問セントス支障ナキヤ

○議長 質問シテ可ナリ

○三番 神田 孝平 然ラハ質問セン重要ノ文書ニシテ内地ニ在ル本支店ニ於テ發スルモノニハ

之ニ捺印シ海外ニ在ル支店出張所ニ於テ發スル文書ニハ捺印ヲ要セストアルモ凡ソ文

書ニハ日本文或ハ横文モアル可シ海外ノ支店ヨリ發スル文書ハ一切捺印セスト爲サハ



其捺印ノ有無ニ由リ自然混雜ヲ生スルノ恐レアラシク且外國ニ在ル支店出張所ニ於テ捺印スルハ不都合ノ理由アリヤ又今日橫濱正金銀行取扱上ノ現状ハ如何ン答辯ヲ得テ修正説ヲ提出セン

○外二番 大島邦 銀行取扱上ノ實際ハ本案ニ在ル如シ且外國ニ於テハ皆手署スルニ由リ捺印ヲ要セサルナリ

○三番 神田 外國ノ支店ニ於テハ然ル可キモ橫濱本店ヨリ發スル横文ハ如何ン

○外二番 大島邦 橫濱本店ニ於テハ捺印スルヲ以テ例トセリ

○五番 山口 捺印スルヲ差支ナカル可キモ外國ノ支店ニ於テハ文書ニ捺印セサルモ亦可ナルカ如シ橫濱本店ハ何等ノ手續ニ從フヤ

○外二番 大島邦 本店ニ於テハ社員或ハ取締役等ノ認印ヲ押捺スルナリ

○五番 山口 内地本支店ノ間ニテ斯ク爲スハ可ナランモ例ヘハ紐育ノ支店ト取引スル如キ必ス夥多ナランニ是等ハ如何スルヤ

○外二番 大島邦 外國支店ノ文書ニハ一切押捺セサルニ非ス其重要ニ係ル文書ニハ押捺シ受取書ノ如キハ捺印セス

○五番 山口 尙ホ質サン銀行事業ノ金銀ニ係ルハ皆重要ニ非スヤ金銀ハ一錢乃至二錢モ重要トス請取書ヲ輕視シ一概ニ説キ去ルハ如何ン

○外二番 大島邦 請取書ハ輕忽ニ取扱テ宜シト云フニ非ス今日官府ニ出ス文書ニ比スレハ日常扱フ文書ハ重要ニ非サルヲ以テ斯ク立草セシモノナリ了解アラシクナラフ

○三番 神田 捺印ノ有無ニ關シ混雜ヲ生セント思考セシモ實際差支ナクハ強テ修正説ハ提出セス

○議長 六十六番ノ修正ニ同意ノ者ハ起立セヨ  
起立者二十四人

○議長 多數ニ由リ修正ニ決ス朗讀ノ條項ハ可定ト認メ次條ニ移ル  
書記官 森山 朗讀

第二十七條 橫濱正金銀行ノ役員ニシテ此條例ニ違反シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ三箇月以前ニ之ヲ公布スヘシ

○六十六番 保村田 此第二十七條ハ調査委員ニ於テ加ヘラレタルヲ以テ一應其理由ヲ質問セン第二十一條中「違背」ヲ背戻ト改メタルハ第二十二條ニ「背戻」トアルヲ以テナラン

且國立銀行條例中ニモ亦背戻トアルヲ以テ其文ヲ一例ニスルハ可ナルモ第二十七條ニ至テ獨リ前例ヲ追ハス違反トセシハ理由アリテ然ルヤ刑法ニハ別ニ區別ナシ如何ン

○四十八番 細川 背戻ヲ違反ト作セシハ聊カ理由アリ第二十一條第二十二條ノ背戻ハ共ニ所爲ノ字ニテ之ヲ承ケタルモ此第二十七條ハ罰例ニシテ之ト異ナリ刑法ノ如ク何ヤヲ犯ストセンカ犯字ハ少シク強キニ過クルノ嫌ヒアルヲ以テ此ノ如ク作セルナリ

○六十六番 保村田 他ノ法律ニ違反ノ文字アルモ一法案中ニ二様ノ文字ヲ用ユルアルヲ見ス因テ文字ノ齊一ニ歸センカ爲メ違反ノ文字ヲ背戻ト爲サントス



○四十八番 細川潤次郎 只今六十六番ノ發議ヲ沮ムニ似タルモ前說ニ繼キ今一應說明セン第  
 二十一條ハ罰則ニ非ラス故ニ背戻シタル所爲アリテ云々トアリ然ルニ罰則ニシテ未タ  
 背戻ト云フ如キ文例アルヲ見ス本官モ初メ背戻シタル者ト爲サントセシモ六十六番ノ  
 如キ法律ニ精シキ議官ヨリ或ハ物論ヲ來ス可シト思考シ違反ト爲セシナリ  
 ○六十六番 保村田 只今ノ說明ヲ得テ領會セリ因テ前說ヲ改メ背戻シタル所爲アル者ト修  
 正セン

○議長 六十六番ハ更ニ修正說ヲ提出セラレシモ賛成ナキニ由リ消滅ス

○一番 箕作聯詳 調査委員ニ質問セン新加第二十七條ニ役員トアルモ本案第一條ヨリ第二十  
 條ニ至ルノ間頭取取締役トアリテ役員ノ文字ナシ願フニ此役員モ亦本條例中頭取取締  
 役ヲ指スヤ又ハ汎ク一切ノ役員ヲ指スノ意ナリヤ如何ン

○四十八番 細川潤次郎 調査委員席ニ於テモ役員ノ解ニハ種々議論アリシモ第十六條ニ頭取  
 副頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ又頭取ハ日本銀行副總裁ヲシテ兼子シム云々トアリ  
 テ頭取取締役ノ外ヲ云フニ非ス故ニ之ヲ包括シテ單ニ役員ト約言セル者ト領會アラ  
 ン

○一番 箕作聯詳 只今四十八番ノ說明アルモ猶聊カ不分明ヲ感セリ單ニ役員ト云ハ、其範圍  
 廣クシテ外國支店ニ在ル支配人モ包含スルニ似タリ因テ其區域ヲ示ス爲メ第二十七條  
 ノ役員ノ文字ハ橫濱正金銀行ノ頭取取締役ニシテ云云ト修正シ第十六條ト照應セシメ  
 ントス

○十八番 榎村正直 本官モ調査委員ノ一人ナレハ陳辯セントセシニ已ニ一番ヨリ發言アルニ  
 依リ緘黙セリ委員席ノ議ニハ頭取取締役ノミナラス支店出張所長ヲモ總稱シテ役員ト  
 爲セシト思考セリ

○六十八番 三浦安 委員ノ議熟セサルニ似テ不都合ナレハ外國ニ在ル支店出張所ノ長ハ取  
 締役ト云フヲ得ス故ニ汎ク役員ト云テ此内ニ包含セシムルノ旨趣ナリ若シ單ニ頭取取  
 締役ニ限ルトセハ支店長ハ之ナキカ如ク委員席ニ於テ調査セシ旨趣ニ反ス現行國立銀  
 行條例第百十條ノ末項ニ「右犯罪ノ銀行又ハ頭取取締役其他ノ役員ニ命スヘシ」トアリ  
 因テ此ノ如ク爲セシ者ナリ

○四十八番 細川潤次郎 大ニ辯解セサルヲ得ス向キニ本官カ一番ニ答辯セシハ即チ本官ノ見  
 解ナリ之ヲ詳陳ス可キナレハ委員席ノ議論區々ナルヲ表白スルノ嫌ヒアリ故ニ詳陳セ  
 サリシナリ本官ノ思想ヲ以テスレハ支店出張所ノ長トアレハ發揮トスルモ本案ヲ通觀  
 スルニ頭取取締役トアリ又大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ日本銀行副總裁ヲシ  
 テ兼子シムルノ外他ニ役員ト稱ス可キ者アラズ但現行國立銀行條例ニハ「頭取取締役  
 支配人其他ノ役員」云云トアルモ本案ノ組織ハ頭取取締ノ外役員ト云フヲ得サルカ如  
 シ惟フニ一方ノ事業ヲ擔當スルハ頭取若クハ取締役ノ如キ其任ニ適スル人物ヲ選擇セ  
 サルヲ得サルナリ定款ニ載セサル者ヲシテ事業ヲ扱ハシムルハ太タ危險ニ非スヤ故ニ  
 本官ハ其資格ヲ有スル者ヲ以テ役員ト稱シテ可ナリト信シ答辯セシナリ

退席



四十番 由利 公正

五十三番 町田 久成

○三十三番 渡元 本官モ役員ノ文字ニハ聊カ疑ヒヲ懷ケリ因テ質問セントセシニ偶マ一  
番ノ發言アリ四十八番ハ頭取取締役ヲ約言セシト云ヒ十八番六十八番ハ支店出張所ノ  
長モ包含スト云フ其說兩岐ニ涉リ未タ孰レカ是ナルヲ知ラス然レモ或委員議官ノ現行  
國立銀行條例ヲ援引シ及ヒ文例ヲ推究スルトニ依テ本官ハ十八番六十八番ノ說ノ如ク  
領會セントス一番ノ發議ハ未タ問題ニ上ラサルニ依リ茲ニ本官ノ意見ヲ陳セン新加第  
二十七條ハ捕ヘ得可カラサルヲ捕ヘントスルモノ、如シ現ニ正金銀行ノ遵奉スル國立  
銀行條例第百十條ノ但書ニ據リ折衷シテ此等ヲ新加セラレシト信セリ即チ役員ト云  
ヒ及其罰金ノ最下三圓ヲ五圓トセシ如キ以テ見ル可シ四十八番ハ頭取取締役ニ限ルト  
云フモ内地ノ國立銀行ニ於ケル頭取取締役ノ外尙ホ役員ヲ置ケリ況ヤ此銀行ハ外國ニ  
支店出張所ヲ設クルナレハ取締役ノ如キ者ヲ置カサル可カラス其定款未立サル以上ハ  
之ヲ明言スル能ハサレモ必ス支配人ノ如キ主任者アラシ然ルニ取締役ニ非サル故ヲ以  
テ罰則ノ外ニ在リト云フハ甚タ不都合ナリ國立銀行條例ニ第百十條アル所以ノモノハ  
蓋シ此レカ爲メナラン故ニ本官ハ一番ノ發議ニ拘ハラヌ本案モ橫濱正金銀行ノ頭取取  
締役其他ノ役員ニシテ云ト修正セント欲ス

○一番 箕作 新加第二十七條中役員ニ付テハ調査委員中ノ見解種々アルヲ以テ見レハ本  
官ノ疑義ヲ懷キシモ敢テ不當ニ非サルカ如シ本官ハ調査委員ノ說ヲ信セシニ何ソ計ラ  
ン四十八番ハ答辯ノ末一己ノ考ヘナリト云フ猶委員中ノ十八番六十六番モ各異論アリ

是ニ於テ役員云云ハ始メテ四十八番ノ一己ノ見解ナルヲ了知セリ只今三十三番ハ獨  
リ頭取取締役ノミナラス其他ノ役員云云ト爲サントスルハ此レ實ニ妥當ノ修正ナリ本  
官ハ先刻四十八番ノ言ヲ信シ修正說ヲ提出セシモ幸ヒニ贊成ヲ得ス今已ニ其非ヲ知リ  
大ニ悔悟セリ因テ前說ヲ取消シ三十三番ノ說ヲ贊成ス

○十八番 榎村 三十三番ノ說未タ問題ニ上ラサルニ由リ其前ニ一言セン調査委員席ニ於  
テ第二十七條ヲ新加シタルハ頭取取締役ノミナラス其他ノ役員ヲモ包含スル旨趣ナリ  
然ルニ其役員ハ何々何々ト明示セサルハ不都合ナリト云フ然ルニ本官中ニハ頭取取  
締役ノミヲ記シ現行國立銀行條例ニハ支配人又ハ出納方等ヲモ記セリ且其他適宜ノ役  
員ヲ選任シ職務權限等ノ規約ハ定款中ニ掲クトアリ因テ惟フニ本案ニハ之ヲ記載セサ  
ル定款中ニハ何役何役ト明示スルト信セリ故ニ差支ナシト思考シ此ノ如ク爲セシナ  
リ

○議長 三十三番ノ發議ニ贊成者アリ問題トス

○四十八番 細川 潤 本官モ贊成ス役員ノコハ本案ノ前後ヲ照合スレハ到底本官カ答フル  
如キ答辯ヲ爲サ、ルヲ得サレモ翻テ思考スレハ國立銀行條例ニ倣ヒ頭取取締役其他ノ  
役員ト爲スノ妥當ナルニ如カス因テ委員中ノ一人ナルニ拘ハラヌ之ヲ贊成ス

○五番 山口 尚芳 本官昨日ハ微恙ヲ以テ缺席セリ本案ハ四名ノ多數決ヲ以テ之ヲ報告シタ  
リ然ルニ二十七條ニ對シ只今問題ノ說ノ如クスルモ或ハ差支ヲ生スルノ恐レアリ第  
十六條ノ末項ニ「頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ」トアリ然ルニ本條ニ



猶此條例ニ違反云トアル以上ハ法官ハ定款ニ關係セス此條例ニ據テ裁定ヲ下スヲ無キヤ開會前叶議セント欲セシモ時機已ニ後レタルヲ以テ一應説明ヲ煩ハサン

○六十八番<sup>三浦</sup> 五番ノ質問ニ答ン條例トアル以上ハ條例ノミニシテ職權責任ハ定款ヲ以テ之ヲ定メ第二十七條ノ罰ハ定款ニ及ハサルナリ

○五番<sup>山口</sup> 然レハ此第二十七條ヲ增加セシハ甚タ不安心ナリ銀行ノ財産ヲ窃取セシ者ハ國法ヲ以テ罰ス可キモ横濱ニ置ク可キ本店ヲ任意ニ大阪ニ移ス如キ定款ニ背クモ之ヲ罰スルニ及ハストスルハ不都合ナラスヤ本條例ニハ頭取取締役ノ外役員ト稱スル者ナシ定款出ルニ及テ始メテ種々ノ役員モ生スルナリ惟フニ四十八番ノ見解モ此ニ外ナラサル可シ因テ本官ハ罰則ヲ定ムル以上ハ定款ニ違反スル者ノ罰モ此内ニ包含スルヤ否ヤヲ一定センコトヲ望ム故ニ本條ニ限り更ニ前委員ニ再調査ヲ付托セラレンコトヲ建議ス

○六十八番<sup>三浦</sup> 只今第二十七條ヲ再調査ニ付スルノ建議アリ五番ハ缺席シタル爲メニ昨日ノ議ヲ了知セラレサルニ由ルナラン畢竟第二十一條第二十二條ハ無形人タル正金銀行一般ノ營業上ニ關スル取締ハアルモ共無形人タル銀行ニ罪ヲ生セシメタル一己人ニ科スル罰ナキハ缺典ナルヲ以テ増加セシナリ再調査ヲ爲スモ到底其解釋ハ之ニ過キサルノミ現行ノ國立銀行條例ニハ罰金ノ條アルモ直ニ之ヲ此ニ加ントスレハ却テ混雜ヲ生スルニ因リ聊カ漠然タレモ本條ヲ以テ役員一身上ノ取締ヲ爲サントスルナリ木案ハ至急ヲ要セラル、ヲ以テ再調査ニハ及ハサル可シ

○六十五番<sup>清岡</sup> 委員席ニ於テモ此條ノ要不要ニ關シ種々ノ論アリシ本官ハ單ニ横濱正金銀行ノミニ係リ一般ノ國立銀行トハ異ナルヲ以テ強テ罰則ヲ要セス原案ノ儘ニテ可ナリト思ヒシ猶熟考スレハ本條ヲ加フル爲メニ一層取締ヲ鞏固ニスルノ益アリトシ増加スルヲ可トセシモ役員ノ文字ニ關シ委員中見解區々ニ涉リ議論甚タ多ク此條例ノ上ヨリ見ルルハ四十八番ノ說ノ如ク頭取取締役ノ外役員ナク縱令支配人ヲ設クルモ本條例ニハ役員ノ部類ニ加ヘス且ツ其職權アル可キ者ニ非ラス頭取取締役ノ命令ヲ受ケ委任セラレハ格別トシ即チ頭取取締役ノ支配中ニ在ル者ナリ外國ノ支店出張所長ハ取締役ニ等シキ者ニモセヨ其實ハ支配人ニシテ特別ノ委任ヲ受ケ代理ヲ爲ス者ナレハ此條例ニ違フニ方テ役員ノ資格ヲ以テ罰セラル、モ一言ナカル可シ是レ取扱上別段ノ責任アルヲ以テナリ但聊カ懸念スルハ頭取取締役其他ノ役員トスルルハ内國ニ在テハ可ナルモ外國ニ在ル支店ノ役員ハ專ラ外國人ト取引ヲ爲スニ其權限責任頗ル重要ナリ若シ曖昧ノ資格ヲ以テ外國人ニ對シ約定ヲ違變スルアラハ乍チ銀行ノ信用ニ關スルノミナラス彼ノ強硬ノ性之ヲ拒ムカ如キコトナキヤ豫メ注意セサル可カラス外國ニ在ル支店出張所ノ事務ヲ管理スル者ハ取締役ノ代理タルニ依リ其責任ヲ免ル、能ハス故ニ横濱正金銀行役員ハ頭取副頭取取締役ト爲ス可シ然ルルハ後日ノ不都合モ免レン向キニ内閣委員ニ質問セシニ取締役以上ヲ役員ト云フト答ヘリ若シ其他云トスルルハ書記筆生迄ニ及フノ嫌ヒアリ三十三番ノ說ハ行届テ可ナルカ如キモ他ニ妙說アレハ兎ニ角何分同意シ能ハサルナリ



退席

七番

大迫 貞清

五十七番

長松

幹

○三十三番 正 元 役員ノ文字ニ對シ意見ヲ提出セシニ幸ニ問題トナレリ只今六十五番ハ四十八番ノ論旨ト同シク役員ト爲スヲ可トスト云フ委員五名ノ論點ニ派ニ分レテ乎トシテ適從スル所ヲ知ラス即チ之ヲ不備不明瞭ト認メサルヲ得ス此ノ如キ文字ヲ法律ニ掲クルハ裁判官又ハ銀行ノ役員モ其判別ニ苦シム可シ本官ハ書記筆生等ト雖モ苟クモ俸給ヲ受ケ從事スル者ニシテ本條例ヲ犯セハ此條ヲ援テ罰スルヲ至當ト思考セリ國立銀行條例ニハ頭取取締役其他ノ役員トアリテ未タ曾テ是カ爲ニ不都合ヲ生セシコトヲ開カス調査委員ハ現行國立銀行條例第百十條ニ據レリト明言セリ果シテ然ラハ頭取取締役其他ノ役員ニシテ云ト爲スヲ可トス本官ハ意義ノ解シ易キヲ希望ス前説ノ已ニ問題ニ上リタルヲ以テ參考ノ爲メ聊カ此ニ之ヲ補述ス

○十八番 正 榎村 第二十七條ニ對シ調査委員ノ説二分シ議場ノ紛議ヲ生セシモ四十八番ノ前陳ノ意見ハ全ク一己ノ思考ナリ委員席ニ於テハ頭取取締役ニ限ラス汎ク包含スル旨趣ニシテ外國支店出張所ヲ預ル者ハ取締役ニ限ラス支配人其他ノ役員モ總稱スル者ト議決セリ然ルニ六十五番ノ説ハ四十八番ノ前説ニ似テ果シテ委員席ノ意見ナリヤ又議場ニ於テ遽カニ考按セシヤ確ト答辯ヲ乞ハントス本官ハ書記筆生等ノ如キモ定款ニ掲クルヲ以テ本條例ヲ犯スルハ是ヲ援テ罰スルコト思考セリ

退席

三十七番

長岡

護美

○六十五番 正 清岡 甚ダ議場ヲ煩ハスモ十八番ニ一應答辯セン本官ノ説ハ調査委員席ノ論ニ非ス又本日議場ニ於テ遽カニ考按セシ意見ニモ非ス先刻モ陳述セシ如ク内閣委員ハ取締役以上ヲ以テ役員ト爲スト云フ然ラハ外國ニ在ル支店出張所ハ悉ク取締役以上ヲ以テ之ニ充テンカ必スシモ然ラサル可シ或ハ支配人ヲシテ代理セシムルコトモアラン是ノ如クナル時ハ肩書ハ支配人ナルモ取締役ノ職務ヲ擔當シ即其代理者タルニ依リ罪ヲ犯スニ方テ其資格ヲ以テ論シ罰ヲ免ル可キノ理ナシ例ヘハ裁判所ノ判任官ニシテ奏任官ノ代理ヲ爲スニ其責メニ任スレハ隨テ其罰ヲ辭スルコト能ハサルカ如シ支配人ノ肩書ヲ口實ト爲シ對岸ノ火視スルコト能ハス本官ハ取締役以上ノ者ヲ以テ役員ト爲サハレハ不是トシ陳述セシナリ書記筆生ノ本條例ニ違反スルアレハ素ヨリ罰ス可キモ本條例ニ之ヲ罰スルノ明條ナシ但取締役以上ニ非サレハ違反スル仕事ハ出來サラン書記筆生ハ私ニ印章ヲ捺捺シ又ハ他人ノ囑托ニ依リ帳簿ヲ隱蔽スルノ類ニシテ擅ニ金圓ヲ貸與スル如キハ職權外ナルヲ以テ決シテ爲シ得ル能ハス仮令有リトスルモ丁稚カ主人ノ箠笞ヨリ擅ニ物品ヲ出スニ同シ即チ一ノ違犯者ニシテ詐欺又ハ竊取ニ出ルヲ以テ各其本律ノアル有リ故ニ條例ヲ以テ罰スルハ其責任職權アル者ニ限リ其以外ニ適用ス可ラス然レトモ委員席ニ於テ種々ノ議論アリタルヲ以テ見レハ本官ノ説或ハ誤解ナルヤモ知

レズ誤解ナレハ誤解トセンノミ請フ之ヲ領セヨ

○十八番 正 榎村 然レハ六十五番先刻ノ論ハ一己ノ説ト斷定ス既ニ一番ハ四十八番ノ説ニ對シ發議セラレシモ本官等ノ説明ニ依リ其修正説ヲ取消シ更ニ三十三番ニ同意セリ調



查委員中五番ハ缺席シ三名ハ頭取取締役ニ限ラスト爲セリ要スルニ取締役以下ノ役員モ包含スルニ在ルナリ

○一番眞作 本官ハ旨趣明白ニナレハ孰レニスルモ可ナリトス初メ三十三番ノ發議ニ同意ヲ表セシモ五番ノ定款ニ職權責任ヲ定メ之ニ違反スル者モ其罰ハ免ル能ハストノ説ハ尤ナリ但定款中何レノ條ニ背クモ悉ク之ヲ罰スルトセハ彌區域廣キニ失スルノ嫌ヒアレハ重大ノ箇條ニ限り之レニ違反スル者ハ罰ストシテ可ナリ單ニ條例トスルハ定款ヲ包含セス緊要ノ定款ニ背クモ措テ問ハサルノ弊アラント思考ス五番ノ熱心シテ再調査スル建議ハ道理アルニ似タリ本官ハ此條例ノミニテハ不備ナリトス因テ委員ヲ設クルモ双方二人同數ニシテ何レヲ多數ト認ル能ハス本條ヲ設クルハ固ヨリ制裁力ヲ必要トスルニ在リテ既ニ反覆審議シ修正セラレンモ未タ充分ナラサル所アレハ今一應前調査委員ニ託スル五番ノ特別建議ヲ賛成ス

○六十六番村田 調査委員中議論區々ニシテ調査未タ充分ナラサルヲ知ル因テ再調査セラレンコヲ望ム且ツ「違反」ノ反字ハ犯字ニ作ル可シ法律上反字ハ反逆反亂謀反等ニ用井罪ヲ犯スニ用ユルハ妥當ナラス併テ修正アラントヲ望ム

○議長 五番ニ問フ第二十七條ノミ再調査ニ託スルノ精神ナリヤ

○五番山口 他ハ議定ヲ經タレハ動かカス可カラス第二十七條ノミナリ

○議長 第二十七條ヲ再調査ニ付託スルノ建議アリ之ニ同意スル者ハ起立セヨ  
起立者二十六人

○議長 多數ナルヲ以テ第二十七條ヲ前調査委員ニ托シ審議セシムルニ決シ且ツ委員ニ於テハ速ニ審議シ明日開會ノ運ニ至ンコヲ望ム

○四十八番細川 本官ハ今日所勞ナルモ勸メテ出場セリ因テ午後ハ缺席ス可シ

○議長 明日開議ス可レハ其際審議セハ可ナリ

○四十八番細川 明日ハ多分出席スルヲ得ヘシ

○議長 明日開議ノ運ヒニ至ランコヲ望ム散會セヨ  
午後零時五十分閉場

○明治二十年七月一日 第二讀會 六月三十日續キ及第三讀會

議長東久世

出席議員

一番	箕作 麟祥	十四番	伊東 祐賢
三番	神田 孝平	十五番	小畑 美稻
五番	山口 尙芳	十七番	坂本 政均
六番	永山 盛輝	十八番	榎村 正直
七番	大迫 貞清	十九番	長谷部辰連
十三番	加藤 弘之	二十一番	神山 郡廉

第五四五號 橫濱正金銀行條例

三十七



二十二番	西 周	四十六番	大久保一翁
二十四番	河田 景與	四十七番	上杉 茂憲
二十五番	綿貫 吉直	四十八番	細川潤次郎
三十番	宮本 小一	五十六番	中村 正直
三十二番	岡内 重俊	五十七番	長松 幹
三十三番	渡 正元	五十八番	渡邊 清
三十四番	原田 一道	五十九番	橋口 兼三
三十五番	楳取 素彦	六十番	楠本 正隆
三十七番	長岡 護美	六十一番	林 友幸
三十九番	石井 忠亮	六十五番	清岡 公張
四十三番	木田 親雄	六十八番	三浦 安
四十五番	鍋島 直彬	七十番	壬生 基修

内閣委員

番外二番

法制局參事官

大島邦太郎

午後零時五十分開場

○議長 第五百四十五號議案第二讀會ノ續會ヲ開ク前會ニ付托シテ調査セル新加第二十七條ノ報告書アルヲ以テ先ツ書記官ヲシテ之ヲ朗讀セシメン

書記官 茂山 朗讀

第二十七條 横濱正金銀行ノ頭取取締役其他役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○議長 只今朗讀セル條文ヲ問題ト爲ス

○四十八番 細川 潤 本官ハ再付託調査委員ノ一人ナルヲ以テ聊カ修正ノ理由ヲ陳ン本條ハ前會ニ種々議論アリ單ニ「役員」トノミニテハ何分明瞭ナラス因テ三十三番ノ頭取取締役其他役員云云ト云ヘル前會ノ修正說ヲ採用セリ又違反ノ字ハ近日發布セル取引所條例ニ在ルモ寧ロ刑法ノ文例ニ據テ犯シタルト爲スヲ優レリトス修正ノ理由此ノ如シ幸ニ各官ノ賛成ヲ請フ

○三十三番 渡正 本案ハ本官等ノ希望セル如ク役員ノ上ニ頭取取締役其他ノ文字ヲ加ヘ以テ前報告書ノ不備ヲ補ヒ加之違反ノ字ヲ犯シタルト改メタル等一層完備セルヲ覺フ因テ昨日提出セル修正說ヲ止メ更ニ本案ニ同意ス願クハ之ニ可決センコトヲ

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者三十五人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ可決ス

書記官 茂山 朗讀

第二十七條 此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ三箇月以前ニ之ヲ公布スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ハ可決ト認メ此ニ第二讀會ヲ畢ル



○外二番 大島邦 本案ハ本月一日ヨリ施行セント欲セシ程ナレハ續テ第三讀會ヲ開カレ  
外 太郎  
ンコトヲ請求ス

○議長 内閣委員ノ請求ニ應シ續テ第三讀會ヲ開クヲ可トスル者ハ起立セヨ  
起立者三十三人

○議長 多數ナルヲ以テ續テ第三讀會ヲ開ク朗讀ヲ省キ第一條乃至第五條ヲ問題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ問題ノ分可決ト認メ第六條乃至第十條ヲ問題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ問題ノ分可決ト認メ第十一條乃至第十五條ヲ問題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ問題ノ分可決ト認メ第十六條乃至第十九條ヲ問題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ問題ノ分可決ト認メ第二十條乃至第二十二條ヲ問題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ問題ノ分可決ト認メ第二十三條乃至第二十八條ヲ問題ト爲ス

○三番 神田 第二十五條ヲ修正セントス本條ニ據レハ歐文ニモ和文ニモ捺印スルモノト  
孝平  
捺印セサルモノトアリテ不都合ナラント思ヒ前會内閣委員ニ質問セシニ實際ノ仕來リ

既ニ此ノ如シトノコトナレハ強テ修正説ヲ提出セサリシモ内閣委員ノ言ニ別ニ一定ノ規  
則アルニ非ス即チ慣例ニテ泰西諸國ハ捺印スルノ慣習ナキニ依リ往々消印ト誤解シ之  
ヲ厭フ者多シ因テ歐文ニハ捺印セサルコト少ナカラス又正金銀行ニモ一定ノ規則ナキ  
ニ依リ屢々不都合ヲ感スルヲ以テ爾今和文ニハ必ス捺印シ歐文ニハ捺印セサルコトハ  
セハ可ナラント是ニ因テ之ヲ考レハ本條(但海外云々ニ於テ)ヲ但横文ヲ以テト修正ス  
ルヲ可トス幸ニ此動議ニ決セハ内地ト海外トノ差別ナク和文ニハ一切捺印シ歐文ニハ

一切捺印セサルコト、ナリ事實ニモ戻ラス當局者モ便利ヲ得可シ因テ各官ノ賛成ヲ請  
フ

○六十八番 三浦 調査委員席ニ在テハ本條例ハ實際ニ據テ成レルモノト做シ別ニ議論ア  
安  
ラサリシモ從前區々ノ不都合ヲ除ク爲メ修正シテ實際ニ支障ヲ來サス却テ便利ヲ與フ

可ケレハ本官ハ調査委員ノ一人ナルニ關セス三番ノ動議ヲ賛成ス

○一番 箕作 賛成

○十三番 加藤 賛成

○六十一番 林友 賛成

○十八番 榎村 賛成

○六十五番 清岡 三番ニ問フワウ文ノワウ字ハ縱横ノ横歟歐米ノ歐歟

○三番 神田 縱横ノ横ナリ

○六十五番 清岡 賛成

○議長 三番ノ動議ハ定數賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 發議ナクハ決ヲ取ン三番ノ動議ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者三十三人

○議長 多數ナルヲ以テ三番ノ動議ニ決ス

○議長 他條ニ就キ發議ナクハ可決ト認メ此ニ第三讀會ヲ畢ル本會ニ修正説成立セルヲ

以テ例ニ從ヒ之ヲ確定決議會ト做ス可キヤ否ヤヲ決セン即チ之ヲ可トスル者ハ起立セ



起立者三十五人

○議長 多數ナルヲ以テ第三讀會ノ決議ヲ確定決議ト做シ例ニ從ヒ修正ノ理由ヲ具シテ  
上奏セン散會セヨ

午後第一時三十分閉場

元老院會議筆記

○第五百四十六號議案 登記法中  
改正ノ件

○明治二十年七月一日 第一讀會

議長 東久世  
通禧  
出席議員

一番	箕作 麟祥	十八番	榎村 正直
二番	尾崎 三良	十九番	長谷部辰連
三番	神田 孝平	二十一番	神山 郡廉
四番	山口 尙芳	二十二番	西 周
五番	永山 盛輝	二十四番	河田 景與
六番	大迫 貞清	二十五番	綿貫 吉直
七番	津田 出	二十六番	岩村 定高
八番	加藤 弘之	二十八番	福羽 美靜
九番	伊東 祐啓	三十番	宮本 小一
十番	小畑 美稻	三十二番	岡内 重俊
十一番	坂本 政均	三十三番	渡 正元

第五四六號 登記法中改正ノ件



午前第九時三十分開場

○議長 第五百四十六號議案ノ第一讀會ヲ開ク朗讀ノ後例ニ依リ發議セヨ

書記官 茂山 朗讀

登記法中改正ノ件

三十四番	原田 一道	五十七番	長松 幹
三十五番	楫取 素彦	五十八番	渡邊 清
三十七番	長岡 護美	五十九番	橋口 兼三
三十九番	石井 忠亮	六十番	楠本 正隆
四十番	由利 公正	六十一番	林 友幸
四十一番	安藤 則命	六十五番	清岡 公張
四十三番	本田 親雄	六十六番	村田 保
四十五番	鍋島 直彬	六十七番	鶴田 皓
四十六番	大久保一翁	六十八番	三浦 安
四十七番	上杉 茂憲	六十九番	何 禮之
四十八番	細川潤次郎	七十番	壬生 基修
五十五番	野村 素介	七十一番	久我 通久
五十六番	中村 正直		

内閣委員番外一番法制局參事官 水野 遵

右其院議定ニ付ス

明治二十年六月二十八日

元老院議長伯爵大木喬任殿 内閣總理大臣伯爵伊藤博文

明治十九年八月法律第一號登記法第一條第二十條左ノ通改正ス

第一條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ヲ爲ス者ハ本法ニ從ヒ地所建物ハ其所在地船舶ハ其定繫場ノ登記所ニ登記ヲ請フ可シ

已ニ登記ヲ受ケタル地所建物船舶ニ變更ヲ生シ又ハ亡失破壊シタルトキハ其物件ノ所有者ヨリ登記ノ變更又ハ取消ヲ請フ可シ

第二十條 地所船舶ノ賣買讓與ニ因リ地券鑑札ノ下付若クハ書換ヲ請フ者ハ登記所ヨリ登記済ノ證ヲ受ク可シ

出席 五十二番 黒田 清綱

○外一番水野 登記法ハ客年本院ノ議ニ付セラレ其八月法律第一號ヲ以テ始メテ發布セラレ實施後未タ數月ヲ出テサルニ最早ヤ其幾部分ニ改正ヲ加ヘントスルハ甚タ好マシカラサルモ實際上已ム可ラサル事情アリテ存スルナリ今其已ム可ラサル事情ヲ陳述シ以テ速ニ議定上奏ノ運ヒニ至ランコトヲ乞ハントス現行登記法第一條ハ「登記ヲ請ハントスル者ハ」云ト記シ登記ヲ以テ人民ノ任意ト爲セルヲ以テ實施以後登記ヲ請フ者幾ント無シト言フモ可ナルノ狀況ヲ呈セリ制定ノ當時内閣ニ於テハ本法ニ依リ登記セ



サル賣買讓與質入書入ハ共ニ第三者ニ對シ効力ナキヲ以テ毎件必ス登記ヲ請フナラント想像セシニ豈圖ラン民情未タ此必要ニ感セス猶ホ所有權ヲ確ムルハ地券鑑札ヨリ貴キ者ナシトノ舊意想ヲ脱セサルトハ故ニ今ニシテ若シ此意想ヲ轉シ導カサルハ將來人民ノ難儀迷惑ヲ惹起スコト自然ニ明カナリ左レハ所有權保護ノ主旨ヲ解知セシメ彼レノ迷誤ヲ喚ヒ覺サンニハ第一條ノ任意法ヲ改メテ命令法ト爲シ以テ賣買讓與質入書入ノ場合ニハ必ス登記ス可キコトヲ命令スルヲ要ス而シテ已ニ第一條ヲ改正スル以上ハ新ニ第二項ノ明文ヲ加フルヲ要スル論ヲ俟タサル可シ第二十條ハ元來第一條ト相牽連セリ現行法ニハ「登記ヲ受ケ地券鑑札ノ下付若クハ書換ヲ請ハントスル者ハ」云云ト有テ其文意猶ホ第一條ノ任意法ヲ承ケタルカコトシ因テ本條モ亦改正第一條ノ主意ヲ承ケ斷然賣買讓與ニ因リ地券鑑札ノ下付若クハ書換ヲ請フ者ハ云云ト改正シ以テ舊習ヲ脱却セシムルノ旨意ヲ全フセントス倍又議定ノ急ヲ要スル在ル有リ是レ本案ニ對シテハ稍ヤ間接ナル一理由ナレトモ請フ一應之ヲ開陳セン客年モ當議場ニ於テ内閣委員ヨリ陳述セシ如ク一箇年間ノ登記料收入豫算額ハ凡ソ百數十萬圓ナリシニ實施以後ノ狀況ニ依リテ推算スレハ本年ノ收入辛フシテ五十萬内外ニ在リテ大藏大臣ノ心配特ニ甚シ加フルニ從來徵收費ヲ要セスシテ毎年收メ來リシ地券證印稅凡ソ六十萬圓ハ實施後全ク廢止セラレ之ニ代ユ可キ目的タル登記料ハ却テ多額ノ入費ヲ要シ實ニ官民ノ手數ニ煩勞ヲ増シテ政府ノ收入ニ減少ヲ見ルハ登記法制定ノ目的ヲ失シタル者ト謂フ可シ且本年一月大藏省令第一號ヲ以テ地券下付書換手續及ヒ手數料ヲ定メ其第二條ニ「地券

ノ下付又ハ書換ヲ願フモノハ願書ニ戸長ノ與印ヲ受クヘシ但登記法ニ據リ登記ヲ經タルモノハ登記濟ノ證書ヲ戸長ニ示スヘシト掲ケタルヲ以テ人民ノ登記ヲ乞フ者益々減少スルノ勢ヒヲ致セリ何トナレハ從前ノ地券證印稅ハ從價稅ニシテ地價何圓以上何圓以下ハ若干ト定メシモ今ハ此稅金ナク僅ニ手數料三錢ヲ出セハ地券ノ下付書換ヲ自由ニ求ム可キヲ以テ人民其所有權ノ貴重ナルヲ知ラス地券サヘ所有スレハ登記ナキモ所有權ハ確乎動カスト誤信スル愚蒙ノ徒ハ賣買讓與ヲ受クルモ更ニ頓着ナク地券ノミヲ握リテ安心スルノ傾キアレハナリ其レ此ノ如キ情勢ナレハ登記法制定第二ノ目的タル國庫ノ收入ヲ増加スルコト何レノ時ニ期ス可ケン故ニ政府當初ノ目的ヲ貫徹センニハ速ニ本案ヲ發布スルノ外ナシ各官此旨ヲ領シ願クハ速ニ議定アラントコト若シ夫レ各條ニ對スル疑點ノ如キハ質問ニ隨ヒ一々答辨ス可シ

○六十番正條 此改正案中ニハ微細ナル事實ヲ含メルカ如シ且今内閣委員ノ言ニ據レハ登記ヲ請フト請ハサルトヲ人民ノ自由ニ委スルハ既ニ地券證印稅ヲ廢シタレハ登記料ノ收額ハ自ラ減セン然レモ本官是ニ由テ大ニ不審ヲ生セシハ他ニアラス元來登記法ヲ制定セシ主意ハ所有權ヲ保護シ約束ヲ確實ナラシムルノ眞理ニ基ケルハ言ヲ踐タス然ルニ改正ノ主意ハ全ク收稅主義ノ一點ニ在ルコト是ナリ又登記法ハ所有權ヲ保護スルニ在レハ地券ハ幾ント無用ナルニ似タルモ登記ヲ人民ノ任意ト爲サハ登記ヲ請ハサル者ニ對シテハ必スシモ其要ナシトセス然レモ今收稅主義ヨリ任意ノ法文ヲ改メテ命令ノ法文ト爲セハ登記簿ハ即チ昔日ノ地券臺帳ニ代ル者ナレハ地券ハ全ク無用ニ歸セサ



ルヲ得ス然ルヲ猶ホ依然舊ニ仍テ地券ノ存スルハ第二ノ不審ナリ以上ノ二點ヲ質シタ  
 キモ未タ考案ノ熟セサルヲ以テ單ニ意見ノ陳述ニ止ム

○一番<sup>其作</sup>修正案ノ要旨ハ登記法ハ所有權ノ保護ト收稅トノ二箇ノ目的ニ成リシニ實  
 施以後ノ景況ニ據レハ登記ヲ請フ者甚タ少クシテ收稅ノ目的全ク達スルヲ得ス殊ニ從來  
 收メ來リシ地券證印稅ヲ廢シタレハ大藏省ハ爲メニ大困難ノ地位ニ陷ラントスルヲ以  
 テ今專ラ收稅ノ主義ヲ擴充シテ改正ヲ加フト言フニ在ルカ如シ成ル程修正案ノ如ク賣  
 買讓與質入書入ヲ爲ス者ハ是非正ニ登記ス可シ登記セサレハ罰スト云ハ、登記ヲ請フ  
 者現在ノ數ニ比シテ多少ノ増加ヲ見ルヤ必然ナレト一面ヨリ考フレハ登記料ヲ出スヲ  
 好マサルヨリ一般ノ賣買讓與質入書入ノ數減少スルニ相違ナシ果シテ然ラハ改正ノ後  
 大藏大臣ノ豫算ノ如ク十分ナル入額アルヤ否ヤ甚タ覺束ナキナリ登記法四十餘條ヲ通  
 覽スルニ盡ク所有權保護ノ旨趣ヲ申明セサル無シ然ルニ今突然第一條ニ收稅ノ主義ヲ  
 表出スルハ他條トノ權衡ヲ失シ觀ル者ヲシテ竹木相接合スルノ思ヒ有ラシム元來登記  
 ノ効力ハ全ク第六條ニ在リ即チ登記ヲ爲サ、ル賣買讓與質入書入ハ雙方ノ間ニ効アレ  
 正三者ニ對シ法律上ノ効ナキコト是レナリ此効力ヲ望マサル者ハ第一條ニ依リ登記ヲ  
 請ハサルモ可ナルノミ然ルニ今第一條ヲ改正シ登記ヲ命令主義ニ變スル以上ハ現行法  
 ノ如ク登記ヲ爲サ、ル者ナキ筈ナルニ猶ホ第六條ハ依然舊文ヲ用ヒテ修正セサルハ如  
 何ニモ不倫ナリ已ニ第一條ヲ改メ登記ヲ命令ノ主義ト爲セル上カラハ第六條モ亦此主  
 義ニ依リ登記ヲ爲サ、ル賣買讓與質入書入ハ全ク無効ニ歸スルノ意ニ修正セサレハ主

意貫徹セス又罰則第三十六條ニハ「詐僞ノ所爲ヲ以テ登記料ヲ減脫シ」云云ト有リ即チ詐  
 僞ヲ以テ登記料ヲ脱シ若クハ減スル者ヲ罰スルノ文意ナルカ改正ノ主意ハ詐僞ノ有無  
 ヲ問ハス實際ニ賣買讓與質入書入ヲ爲スモ登記ヲ爲サ、レハ直ニ犯則者ト認ムルニ在  
 レハ第三十六條ノ明文ハ自カラ不適當ヲ免レ難シ左レハトテ修正案ニハ他ニ罰則ニ加  
 リタルヲ見ス甚タ疑ハシキナリ已ニ第一條ニ於テ大體ノ精神ヲ變シタル以上ハ之レニ  
 關連セル各條ハ必ス多少ノ修正ヲ要スル勿論ナレハ罰則モ亦修正シテ第一條ノ精神ニ  
 照應セシム可キ者ナリト信ス又第一條ノ第二項「已ニ登記ヲ受ケタル者」トハ即チ現  
 所有者ヲ云フナレハ其物件ノ變更亡失破壞ノ各場合ニハ所有者ヨリ直チニ登記ノ變更  
 取消ヲ請ヒ出ツル者ノ如シ然ルニ第十條ニハ「登記ハ第十五條第二項第十六條第十七  
 條第十八條ヲ除ク外契約者雙方ノ請求若クハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ  
 爲シ又ハ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス」ト有レハ第一條第二項ハ之ト大ニ抵觸セサル  
 「無キ乎是レ又疑フ可キナリ既ニ前ニモ陳ヘシ如ク登記法全體ノ主義ヲ變セントスルニ  
 方テ單ニ第一條ノ明文ノミヲ改メテ之レニ應セントスルハ甚タ無理ナル業ニアラスヤ  
 是レ等ハ定メシ十分ノ詮議アリシヲナラント考フレト本官未タ會得スル能ハス願ハク  
 ハ十分ナル答辨ヲ得タキナリ其答辨ノ次第ニ因テハ多少修正ヲ加ルヲ要スルヤモ未タ  
 知ル可ラス元來登記法ハ所有權保護ヲ以テ主義ト爲シ人民ノ請ニ任セテ登記シ傍ラ收  
 稅ノ主義ヲ行フニ在リ然ルニ今翻テ收稅ヲ以テ主義ト爲シ主客顛倒セルハ甚タ好マシ  
 カラヌヲナカラモ政府ノ歳出日ニ増加レ國庫缺乏ヲ告クルニ及ヒテハ又已ムヲ得サル



ヲ知ル故ニ本官ハ政府ノ主義此ノ如ク變シテ其目的ノ完タカラサル以上ハ寧ロ登記法ヲ廢シテ從前ノ地券證印稅ヲ復シテ可ナリ此信スル程ナリ兎ニ角ニ先ツ前述質問ノ答辦ヲ得テ後修正ヲ加フルカ將タ廢案說ヲ主張スルカ二者其一ニ出テントス

○外番水野 一番ノ登記ヲ命令法ト爲シ而シテ其裁制ヲ置カサルハ如何ントノ疑問ハ至極尤モナル論ニシテ此事ハ内閣ニ於テモ大ニ詮議ヲ盡セシ所ナリ然ルニ如何ンセン我邦今日ノ狀況ヲ見レハ人民ノ財產ニシテ法律上稍ヤ確定セル者ハ僅ニ地所船舶ニ過キス此二個ノ財產ニハ從前登記ニ類スル法アリ即チ地所ニ地券ヲ與ヘ船舶ニ鑑札ヲ與フ是ナリ家屋ニ至テハ之ヲ書上クルノ法アルモ只地方稅徵收ノ爲メニ地方廳施行ノ法タルニ過キス然ルニ今必ス登記セヨ然ラスンハ罰例ヲ科ストハ少ク急激ニ過クルノ感觸ナキ能ハス因テ地所船舶ノ賣買讓與ニ就テハ自ラ第二十條ノ存スル有レハ之ヲ以テ裁制ヲ爲ス可シ即チ第二十條ニ據レハ登記濟ノ證ヲ提出セサレハ地所ニ地券ヲ與ヘ船舶ニ鑑札ヲ與ヘサレハナリ又建物ノ賣買讓與質入書入其他ノ質入書入ニ就キ登記ヲ爲サハル者ハ第三者ニ對シテ効ナシト謂ヘル第六條ノ裁制アリ且法律カ人民相互ノ約束ニマテ立入り登記セサル者ハ罰スト云フハ正當ノ道理アルコト思ハレハ故ニ先ツ已ムヲ得サル所ノミヲ改正シ成ル可ク人民ノ財產權ヲ保護スル主意ヲ傷ケサランコトヲ務メタリ以上ノ主意ニヨリ内閣ハ第六條及ヒ第二十條ヲ以テ第一條ノ裁制ト爲セルナリ又第二項ハ第十條ト矛盾セルヤノ疑ハ或ハ本項字句ノ足ラサルヨリ生セシナラン然レモ其實相抵觸セス何トナレハ本項ノ「已ニ登記ヲ受ケタル」云トハ已ニ賣買讓與ヲ終リ

所有權ノ一方ニ移リタルト其所有者ヨリ變更取消ヲ請ハシムルニ係リ契約者雙方ノ請求若クハ裁判所ノ命令アルヲ要セス此ノ如ク本項ト第十條トハ已ニ其精神ニ差異アレハ之ヲ同視ス可ラス但字句ニ不足アラハ第二讀會ニ適當ノ修正ヲ加フルハ本員ノ最モ希望スル所ナリ

○五番山岡 登記法發布ノ目的ハ第一ニ人民ノ所有權ヲ保護シ第二ニ收稅ニ在リシニ實施後ノ景況ニテハ幾ント第二ノ目的ヲ達スル能ハサルノ見込ナルヨリ遂ニ此改正ヲ要スルニ至リシ緣由ハ已ニ領會セリ然ルニ實施以後各地方人民之カ爲メニ幸福ヲ感セシカ將タ痛歎ヲ増セシカハ定メテ地方官ノ政府ニ向テ既ニ報告セシ所ナラン精ク言ヘハ此法ヲ以テ人民ノ財產權ニ保護ヲ與ヘントセシニ人民ハ却テ悅ハス爲メニ收入豫算ノ百數十萬圓ハ僅ニ五十萬圓ニモ上ラサラントス即チ人民ニ如何ナル迷惑困難ヲ感スルヨリ此ニ至リシヤ其事情ノ報告ヲ聞カント要ス斯カル事柄ハ内閣ニ於テ必ス精密ナル調査ヲ加ヘシコト信スレハ一應之カ説明ヲ聞キ得タキナリ

○外番水野 一番 五番ニ答ヘン此事ハ質問ヲ待タス進ンテ本員ヨリ説明セント欲スル所ナリ登記法ハ施行日尚ホ淺ケレハ實際其件數ハ未タ明瞭ナラサレモ其概況ヲ言ヘハ質入書入ノ二種ハ豫算ノ如ク陸續請求者アリト雖モ賣買讓與ハ之ニ反セリ願フニ人民ハ質入書入ニハ權利ヲ重シ賣買讓與ニハ重セサルニ出ツルカト言フニ決シテ然ラス質入書入ニハ義務者即チ質入人書入人ヨリ登記料ヲ出シテ登記セサレハ權利者其貸渡ヲ實行セサルカ故ニ已ムヲ得ス登記ヲ願出テ而シテ賣買讓與ニハ權利者即チ買受人讓受人



ヨリ登記料ヲ出シテ登記スルナレハ若シ買受人讓受人ニ於テ信用シ確實ナリト思料セ  
ハ敢テ登記セサルモ賣買讓與ノ實行ニ差支ナキヲ以テ自ラ登記ノ數ヲ減ス是レ收入ノ  
豫算ニ缺損ヲ來ス原因ノ大ナル者ナリ之ヲ要スルニ賣買讓與ト質入書入トハ登記料ノ  
負擔權利者ニ在ルト義務者ニ在ルトノ差異アルヲ以テ前陳ノ結果ヲ來セル所以ナレハ  
今回改正ノ主意ハ重ニ賣買讓與ニ就キテモ盡ク登記ヲ實行セシムルニ在ルナリ

○六十六番<sup>保村田</sup> 本案ハ頗ル不完全ナル法案ナリト思考ス登記法ハ固ト契約者雙方ノ請  
ヒニ依リ登記ヲ爲スノ主意ナルニ今僅ニ第一條ノ改正ヲ以テ全體ノ精神ヲ豹變セント  
スルハ實ニ譯ノ分ヲ又法案ト謂フ可シ因テ之ヲ廢棄ス可シト言ヘハ少ク詞ニ圭角アル  
ヲ免レサレハ本官ハ先ツ全案ヲ擧ケテ内閣ニ返上ス可シト言ハントス抑モ登記法ハ客  
年八月ニ始テ發布セシモ其實施ハ本年二月ニ在リ斯ク僅々ナル數月間ノ實施ヲ以テ直  
ニ一年間ノ收入ヲ五十萬圓ト算定セシハ少シク推測ニ過クルニ非スヤ向キニ登記法ノ  
實施ト共ニ年々六十萬圓ノ收入アリシ地券證印稅ヲ廢シ而シテ今登記料ノ收入意ニ滿  
タサルトテ俄カニ改正ヲ加フルハ政府自ラ其失體ヲ人民ニ示シテ其嗤笑ヲ招ク者ナリ  
且其レ改正案ハ果シテ政府豫算收入ノ額ヲ充タヌヲ得ルヤ否ヤ甚タ覺束ナシ何トナレ  
ハ人民登記ヲ義務ト爲スモ之カ裁制ハ依然第八條ニシテ假令ヒ登記セサルモ禁錮罰  
金ノ處罰ヲ受クルヲ無ク只其登記ノ第三者ニ對シ効ナキニ過キサレハナリ然ラハ則チ  
第一條ノ改正ハ幾ント徒勞ニ屬シ若シ之ヲ改正シテ賣買讓與質入書入ハ必ス登記ス可  
キ者ト爲スモ第十條ニ「登記ハ第十五條第二項及第十六條第十七條第十八條ヲ除クノ

外契約者雙方ノ請求ニ云云ト有リ又第二十三條ニ「質入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解  
除又ハ變更ニ付キ登記ヲ請フ者アルトキハ」云云ト有ルヲ以テ見レハ法律ハ始メヨリ  
登記ヲ請ハサル者アルヲ認ムル者ノ如シ從來本院ニ下付セル數百ノ議案ニシテ未タ此  
ノ如ク粗ニシテ首尾貫徹セサル法案ヲ見サルナリ

○六十五番<sup>清岡</sup> 本官モ痛心歎息ニ堪ヘサル法案ト考フルナリ若シ此簡單ナル改正ヲ以  
テ俄カニ自由ニ委スルノ精神ヲ改メテ命令ノ法文ト爲シ所有權保護ノ主義ヲ變シテ收  
稅ノ主義ト爲スモ一番ノ云ヘル如ク竹ヲ取テ木ニ接スルノ思ヒ有ラシム況ンヤ法律ナ  
ル者ハ斯ク輕々ニ變動ス可キ者ニ非スト信ス元來土地家屋ノ賣買讓與質入書入ニハ戶  
長ノ公證ヲ用ヒ來リシカ政府之ヲ敷衍シテ遂ニ登記法ヲ制定セリ此法ノ財產權ヲ保護  
スル主意ニ基ケルコトハ論ヲ竣タス然ルニ今日ニ至リ登記法ノ主義ハ全ク收稅ノ點ニ傾  
キ只管登記料ノ増加ヲ求ムルニ至レリ昨年登記法ヲ本院ノ議定ニ付セラル、ヤ當議場  
ノ決議ハ現行登記料ノ半額ニ過キサリシカ内閣ハ地券證印稅ヲ廢スルトノコトヲ以テ更  
ニ其額ヲ倍加シ直ニ之ヲ發布シ後更ニ本院ノ檢視ニ付シタルコトヲ記憶セリ蓋シ是レ政  
府已ムヲ得サルノ擧ニ出テシナラン然レトモ斯ク多クノ登記料ヲ徵シテハ人民ノ登記  
所ニ赴カサルハ強チ無理ナラス且ツ登記ハ官民共ニ不熟鍊ニシテ其手續ノ煩雜ナルコ  
トハ本官已ニ其實地ヲ試ミテ之ヲ知レリ殊ニ數多ノ日子ト手數トヲ要シ辛フシテ決了ス  
ルヲ得タリ本官固ヨリ敢テ法律ニ明カナリト謂フニハ非サレモ人民ハ一層法律規則ニ  
不案内ニシテ其困難ヲ極ムルコトハ想像ニ堪タリ斯カル事情ナレハ進ンテ登記ヲ請求ス



ル者ノ案外ニ少キハ復タ已ムヲ得サルニ出ツ且現行法ノ如ク登記ヲ人民ノ隨意ニ任セ置カハ彼レ自ラ賣買讓與ヲ爲シ所有權ニ危險ナシト信シ故ラニ登記料ヲ出タシ數多ノ日子ヲ徒費シ繁雜ナル手數ヲ爲スヲ好マサルハ人情ノ當然ナリトス尤モ官民共ニ未タ事務手續ニ熟練セサルトハ謂ヘ現場ノ有様此ノ如クナルニ政府ハ猶ホ進ンテ最初ノ主義ヲ變シ專ラ收稅主義ヲ貫カントスルハ實ニ前後ヲ顧ミサル仕方ト謂フ可シ本官ト雖モ突然改正第一條ヲ見去レハ其改正ノ主意那邊ニ存スルカ疑ヲ生セサルヲ得ス之ヲ現行法ニ對照シ熟考ヲ加ヘ然ル後僅ニ主意ノ彼ニ在リ此ニ存スル等ヲ推測スル程ニテ甚タ曖昧ナル法條タルヲ知レリ今内閣委員ノ説明セル改正ノ主意ニ據レハ新ニ土地建物ヲ買受讓受タルトハ勿論三尺四面ノ雪隠ヲ建テ六尺ノ押入ヲ建テ出シタルマテ必ス一登記ノ變更ヲ請ハサル可ラス都會ノ地四五町間ニ區役所登記所ノ設置アル場所ハ兎モ角郡役所若クハ登記所マテハ五六里乃至七八里ノ山坂ヲ距ツル僻地ノ人民ニ在テハ其困難實ニ甚タシカル可シ斯カル些細ナル變更マテ登記料ヲ出シテ夥多ノ時間ヲ徒費シ利ヘ煩勞ノ手續ヲ重ネハ人民ノ業務ヲ妨ケ遂ニ民間怨嗟ノ聲ヲ聞クニ至ラントス豈憂慮セサル可ケンヤ番外ハ政府カ收稅ノ目的ヲ達スル能ハサルヨリ已ムヲ得ス此改正ニ出タルコトヲ說ケル本官ノ考ヲ以テスレハ眞ニ已ムヲ得スルハ寧ロ登記法全體ヲ改メテ顯ハニ錢取主義ト爲スノ淡泊ナルニ如カスト思惟スルナリ逐條ノ疑問ニ至テハ過刻已ニ概ネ盡セルヲ以テ今又一々ニ質問セサレル罰則ノ如キハ到底廣ク適用シ得ヘキニ非ス原案ハ如何ニ政府ニ於テ已ムヲ得サル事情ノ存スルニモセヨ此儘發布スルコトハ本

官ノ賛成スル能ハサル所ナレハ内閣ハ更ニ再考ヲ加ヘテ一頁案ヲ作り出サンコトヲ希望スルナリ若シ眞ニ已ムヲ得スルハ本案ニ向テ廢案說ヲ唱フルノ外ナキノミ終ニ於テ内

閣委員ニ一問ス本案ノ如ク改正セハ一ケ年ノ收稅額ハ幾許ノ高ニ上ルノ豫算ナルヤ

○水野 一番

○渡邊 五十八番

凡ソ百四十萬圓ナルコトヲ陳述セシカ以後實地ノ計算ニ依リ前陳ノ豫算額ヲ得タリ

リ客年登記法ノ始メテ本院ノ議ニ付セラレ、ヤ本官ハ其實効ヲ得ルノ難キヲ察シタリ從來地方人民ハ地券書換ナル簡易ノ習慣ニ浸潤セシメ今俄カニ裁判所若クハ郡役所ニ赴キ煩雜ナル手續ヲ履ムハ最モ好マサル所ナレハナリ然レモ現行法ハ土地建物船舶ノ賣買讓與質入書入ハ必ス登記セヨト云フニ非ス人民ノ請求ニ任ス者ニシテ即チ第六條ニ於テ登記ヲ爲サ、ルモ第三者ニ効ナキノ裁判アレハ事ニ明ラカナル者ハ自ラ進ンテ登記スルノ念ヲ起ス可キモ本案ハ右ノ主意ヲ改メテ賣買讓與質入書入ハ盡ク登記ヲ經ヘシト爲セリ則チ實際ニ如何ナル結果ヲ來スヤノ見込ニ十分明瞭ナル上ノコトナル乎本官ハ一モ解スル能ハサルナリ若シ果シテ内閣カ此改正ヲ實行スルノ意ナラハ本官甚タ政府カ地方情況ニ暗キヲ悲ムナリ現在登記料ノ收入政府豫算ノ如クナラサル所以ハ何ツヤ地方人民狡猾ノ故ニ非ス又惡意ヲ有シテ然ルニ非ス只登記所ノ遠隔ナル爲メ多クノ入費ヲ要シ手續ノ繁雜ナルカ爲メニ無要ノ手數ヲ要シ登記官吏ノ威嚴ヲ裝ヒ人民ヲ視ルコト裁判官ノ罪人ニ對スル如ク人民ヲシテ恐怖ト厭氣トヲ生セシムルニ坐ス思ヒ此



ニ至レハ悲慨情臆ニ塞カリ議場ニ公論スルニ堪ヘサラントス本官ノ郷里ニ近キ肥前國西彼杵郡面高村ノ如キハ最モ僻隅ノ地ニシテ郡役所マテノ距離十八里其間車馬全ク通セス又同郡ノ管轄ニ屬スル海島七八箇處アリ斯ク不便ノ土地ニ在ル者モ一一往テ登記ヲ請ハサル可ラストセハ人民ノ困難果シテ如何ツヤ立法者其人ハ都會ノ狀況ノミヲ見テ地方ノ困難ヲ察セストノ嘲リヲ受ケルモ之ヲ解クニ苦マン本官ハ昨年現行法ヲ議スルニ當リ大ニ反對ノ意見ヲ有セシカ退ヒテ按スルニ此法ハ人民ノ所有權ヲ保護スルヲ主旨トスルヲ以テ多少ノ時日ヲ經過セハ人民モ亦其意ヲ領會スルニ至ラント信シタレハ已ムヲ得ス同意ヲ表セリ然ルニ實施後登記料ノ收入ニ好結果ヲ得サルヨリ今回ハ其重ナル主旨ヲ一變シ賣買讓與質入書入ヲ擧ケ強テ命令ノ範圍中ニ投シタリ人民之ヲ聞カハ果シテ何トカ言ハン此ノ如キ不都合ナル議案ノ議場ニ現出シタルコトハ本官未ダ曾テ其例ヲ見サル所ナリ因テ本案ヲ一旦内閣ニ返上センコトヲ請フ若シ返上ニ決セハ其主意明瞭ナル一書ヲ添ユルカ爲メ之カ起草委員ヲ撰定センコトヲ併セテ希望ス

○三十三番 改正 本案ノ不完全ニシテ現行登記法ノ法文ト相撞着セルコト及ヒ第一條ノミヲ改正シテ登記法全體ノ精神ヲ一變スルノ不都合ナルコト等ハ各官論述シテ洩ス無キヲ以テ本官敢テ喋々セス然ラハ此儘議了センカ本官ハ法律中相抵觸矛盾スル一點ヲ以テモ廢案ニ付ス可キ理由十分ナリト信ス某議官ハ既ニ廢棄ノ意見ヲ陳述セシカ議場ノ論勢モ亦其方向ニ傾ケルカ如シ然レモ退ヒテ沈思熟慮スルニ此法制定ノ初ニ方テ其精神注ク所全ク所有權保護ニ在リシモ内閣委員ノ陳辨スル實施以後ノ景況ニ據レハ登記料ハ最

初政府豫算ノ收入額ヲ充タスノ目途ナキ萬已ムヲ得サルノ事情起ルニ因リ其目的ヲ達スルニハ第一條及ヒ第二十條ヲ改正セハ可ナリトノ閣議ヨリ遂ニ此ニ出テシモノ、如シ然ルニ此閣議ハ粗漏ヲ免レス何トナレハ第一條ヲ改正シテ地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ハ必ス皆登記ヲ請フ可シト命シナカラ現行法ノ第六條ニハ登記ヲ爲サ、ル地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ハ第三者ニ對シテ法律上ノ効ナキコトヲ明言セリ即チ法律ハ初メヨリ猶ホ登記ヲ爲サ、ル者アルコトヲ認メ自ラ二様ノ辨ヲ用ユルノ看アラシムレハナリ此ノ如ク不備ナルハ管ニ改正ニ係ル間接ノ要點タル收稅目的ノ無効ニ歸スルノミナラス登記法ノ體面全ク汚レテ終ニ効用ナキニ至ラン且政府ハ本年二月實施ヲ始メ未タ數閱月ナラサルニ早既ニ其主義改正ニ從事スルノ非ナルコトハ内閣ノ自ラ信スル所ナラン自ラ其非ヲ信シナカラ之ヲ決行セントスルハ萬已ムヲ得サル事情ノ切迫シ來リテ之ヲ顧ミルノ暇ナキニ由ルナル可シ然レモ是レ果シテ本案ノ不完全ヲ致セル所以ニシテ今僅ニ第一條第二條ノ兩條ヲ改正シ以テ登記法全體ニ繫レル所有權保護ノ精神ヲ變シ以テ收稅ノ主義ト爲サントス即是レ誤ニシテ彼此抵觸ヲ生シ法律ノ効用ヲ失スル知ル可キノミ依テ一刀兩斷廢棄ニ付スルヨリモ一旦之ヲ調査委員ニ附シテ反覆審議セシメ精密ナル調査ノ報告ヲ俟チ存廢ヲ決センコトヲ望ムナリ全體ノ事柄重大ニシテ且ツ事情ノ切迫セル者ナレハ廢案ノ後之ヲ還上スルモ内閣ハ必ス更ニ審査ヲ加ヘ再ヒ本院ニ下附セラル、ニ相違ナケン此ノ如ク煩勞ヲ重ネンヨリ寧口直ニ全部付託調査委員ヲ撰定シテ充分ナル調査ヲ加フルニ如カス併セテ此ニ之ヲ建議ス



○六十八番<sup>三浦</sup> 内閣委員ニ問フ此二ヶ條ヲ改正スルハ詰マリ登記所其他ニ多額ノ入費ヲ要シ收入ノ意外ニ少クシテ豫算ノ目的ヲ達スル能ハスト云フニ在ランモ登記法ハ實施後未タ半年ニ滿タサルニ實際ノ收入一箇年ノ豫算額ニ達セストハ何ヲ目安ト爲シテ算出セシカ又二月以後ノ實收入ハ果シテ幾許ナルカ之カ説明ヲ與ヘヨ

○<sup>外</sup>番<sup>水野</sup> 主務局ノ調査ニ依レハ本年二月ヨリ五月マテ四箇月ノ實收入ハ凡ソ十六七萬圓アリ之ヲ以テ本年ノ收入ヲ五十萬圓ト推算セシナリ倍テ起立ノ序ニ猶一言セシテ廢案ノ意見續々現出スルハ全ク本員カ議事ノ進捗ヲ欲シテ説明ノ深キニ過キタルニ由ルナラント思ヘリ初メ本員九第一ニ所有權保護ヲ主義トシ第二ニ已ムヲ得サルヨリ收稅ヲ主義トスルニ在ルコトヲ陳述セシニ各官ハ全ク錢取主義ノ一點ニ在リト考ヘラレタルヨリ議場ノ論勢殆ント廢案ノ傾キヲ致シタルモ情ヲ各官ノ論旨ヲ味ヘハ必スシモ改正ヲ惡シト謂フニ非スシテ登記法ノ精神ヲ惡シトスルニ在リ此意ヲ以テ推スルハ本案ヲ可否スルヨリモ寧ろ現行法全體ヲ廢ス可シト謂フニ歸着セル者ノ如シ請フ少ク之ヲ辨セン本案ハ即チ昨年本院ニ於テ議定上奏セル修正第六條第二項登記ヲ受ケサル地所船舶ノ賣買讓與ニ付テハ地券又ハ鑑札ノ下付若クハ書換ヲ請フコトヲ得スノ精神ト同一ナリ當時内閣ハ朱書ノ第二項ヲ削除シテ更ニ本院ノ檢視ニ付セシカ今日ノ改正ハ即チ之ヲ採用セルト一般ニシテ現行法ナル人民ノ望ニ依リ保護ヲ與フルノ主意ハ未タ民度ニ適セサルヲ以テ法律ハ此ニ命令シテ權利ハ必ス登記シテ確固ナラシメヨト云ヒシナリ是レ則チ嚴酷ナル罰例ヲ設ケサル所以ニシテ畢竟收稅ハ登記法ノ眼目ニ非ス所

有權保護ノ陪隸トモ謂フ可シ且夫レ本案ハ甚タ不備ニシテ現行法ト相撞着スルトノ議論モ盛ンナレ其撞着如何ハ内閣ノ十分調査ヲ加ヘタル所ニシテ決シテ其憂ヒ無キハ過刻一番ノ質疑ニ對シテモ略ホ辨シ置キシカ脫稅ヲ罰スルハ即チ詐僞ノ所爲アル場合ニシテ單ニ第一條ニ背キ隨意ニ登記ヲ請ハサルヲ以テ直チニ詐僞ノ所爲ト爲スヲ得ス故ニ之レニ對スル裁制ハ地券鑑札ノ下付書換ヲ許サス及ヒ其賣買讓與質入書入ノ第三者ニ對シテ効ナカラシムルトヲ以テ十分ナリトス之ヲ約言スレハ改正ハ只第一條ノ任意法ヲ命令法ニ改メシニ過キス然ルヲ之カ爲メニ登記法ノ全體ニ及ホシ其可否ヲ論スルハ少ク間接ナル議論ニ非サルヲ得ンヤ登記法ノ精神ヲ非視スルヨリ遂ニ本案ヲモ廢棄ニ付スル如キハ尤モ遺憾ニ堪ヘサル所ナレハ重複ヲ願ミス敢テ一言スルナリ要スルニ本案ハ昨年本院ノ修正ヲ加ヘテ上奏セル登記法第六條第二項ノ精神ト差異ナキナリ以上ノ主意明カナル以上ハ發布頗ル急速ヲ要スルヲ以テ速ニ議場ヲ經過センコトヲ希望ス

○四十八番<sup>細川</sup> 各官ノ論スル如ク随分不安心ナル法案ナリ内閣委員ノ辨護スル如ク本案ノ大主義ハ收稅ニ在ラストセハ他ニ重要ナル點アルナラン然レモ本官ハ登記法實施以後登記料ノ收入意外ニ少額ナルニ驚キ速ニ此改正案ヲ起草セシナラント推測スルナリ果シテ收入ニ不足ヲ告ケハ何レニカ其豫算ノ缺乏ヲ補フノ途ヲ求メサル可ラス然ルニ之カ爲メニ實施後未タ半季ヲ出テサル法律ヲ直チニ變革スル程ノ必要アルヤ否ヤ疑ヒ無キ能ハス凡ソ豫算ハ正確ナル者ニ相違ナキモ事柄ニ由リテハ豫算通りノ實收額ヲ得サルノ例甚タ多シ蓋シ登記法ハ新規ノ法律ニシテ實施以後未タ數月ナラサルニ